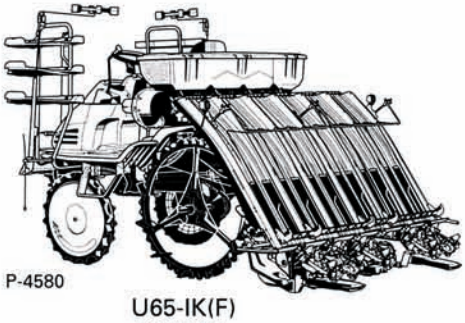
クボタ乗用多目的田植機

取扱説明書

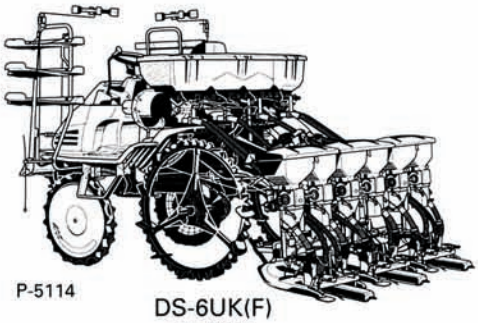
PRO WELSTAR

SPU65/85-AK(F)



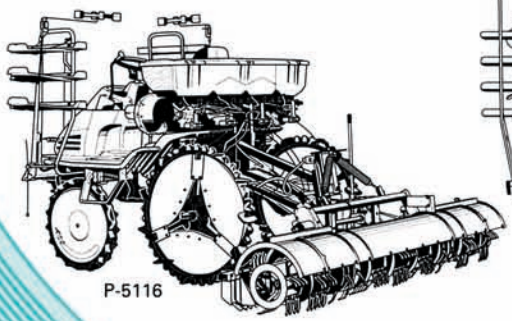
P-4580

U65-IK(F)
〈植付部〉



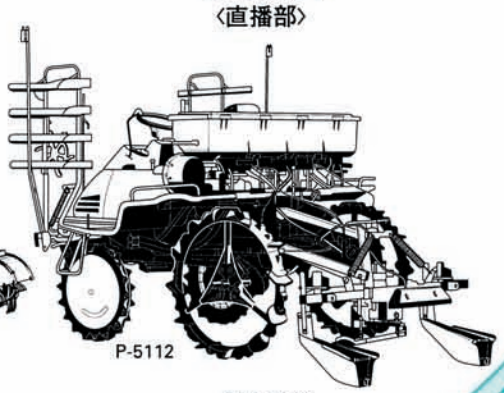
P-5114

DS-6UK(F)
〈直播部〉



P-5116

SJ-8K(6K)
〈除草部〉



P-5112

SM-2UK
〈溝切部〉

ご使用前に必ずお読みください
いつまでも大切に保管してください

はじめに

このたびはクボタ製品をお買上げいただきましてありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法，簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され，お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し，かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また，お読みになったあとも製品に近接して保存し，わからないことがあったときには取出してお読みください。なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行なうことがあります。その際には，お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので，あらかじめご了承ください。
また，この本機側の取扱いについては，別冊本機編の取扱説明書をよく読み，理解した上で安全な作業を行なってください。

⚠安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは，人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお，⚠表示ラベルが汚損したり，はがれた場合はお買上げのご購入先に注文し，必ず所定の位置に貼ってください。

■注意表示について

本取扱説明書では，特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について，次のように表示しています。

⚠ **警告**：注意事項を守らないと，死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。

⚠ **注意**：注意事項を守らないと，ケガを負うおそれのあるものを示します。

重要：注意事項を守らないと，機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足：その他，使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は，稲の苗の植付け，種もみの直播き及び除草・溝切作業を行なう作業機としてご使用ください。
使用目的以外の作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は，保証の対象になりませんのでご注意ください。

仕様について

この取扱説明書では，本機側及び植付部については，別冊のSPU50・60・65・85の田植機取扱説明書の**“SPU65・85-A仕様”**を基本とし，異なる場合はそのつど追加説明してあります。
（本機側の仕様については，別冊の**“仕様について”**の項を参照してください。）

PL650-9751-2(カラー)

目　次

⚠安全に作業するために…… ⚠-1

サービスと保証について …… 1
ご相談窓口 …… 1
補修用部品の供給年限について …… 2

装置の名称と取扱い …… 3
各部の名称とはたらき …… 3
本機側 …… 3
直播機 …… 4
除草機 …… 6
溝切機 …… 7

運転前の点検 …… 8
本機側の点検 …… 8
植付部 …… 8
直播機の点検 …… 8
除草機の点検 …… 8
溝切機の点検 …… 8

作業機(植付部・直播機・除草機)の脱着のしかた …… 9
脱着のしかた …… 9
取付かた …… 9
取外しかた …… 12

移動走行と輸送 …… 13
移動走行について …… 13
移動走行前の準備 …… 13
輸送について …… 14
積込み・積降ろしのしかた …… 14

作業のしかた …… 15
田植作業のしかた …… 15
作業前の準備 …… 15
直播作業のしかた …… 16
ほ場条件と種もみについて …… 16
栽培・管理について …… 22
作業前の準備 …… 24
直播作業の手順 …… 25
ホッパ内の種もみのしかた …… 27
作業に合わせた各部の調節・調整 …… 28
除草作業のしかた …… 33
作業前の準備 …… 35
除草作業の手順 …… 36
除草作業と旋回のしかた …… 37
作業に合わせた各部の調節・調整 …… 38
溝切作業のしかた …… 39
作業前の準備 …… 40
溝切作業の手順 …… 41
溝切作業と旋回のしかた …… 42
作業に合わせた各部の調節・調整 …… 43

メンテナンス …… 45
本機側 …… 45
直播機 …… 45
ブラシの点検・交換 …… 45
注油のしかた …… 46
除草機 …… 47
８条除草機(SJ-8K)のロータの脱着 …… 47
安全クラッチの点検 …… 47
ツースとプレート１・２の交換 …… 48
溝切機 …… 49
注油のしかた …… 49
作業後の手入れ …… 50
直播機 …… 50
除草機 …… 50

付表 …… 51
主要諸元 …… 51
付属部品 …… 53
オプション(別売品) …… 53
消耗部品 …… 53

⚠ 安全に作業するために

必ず読んでください。

本機をご使用になる前に，必ずこの『取扱説明書』をよく読み理解した上で，安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため，ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが，これ以外にも，本文の中で⚠危険・⚠警告・⚠注意・重要・補足としてそのつど取上げています。

1．⚠表示ラベルと貼付位置

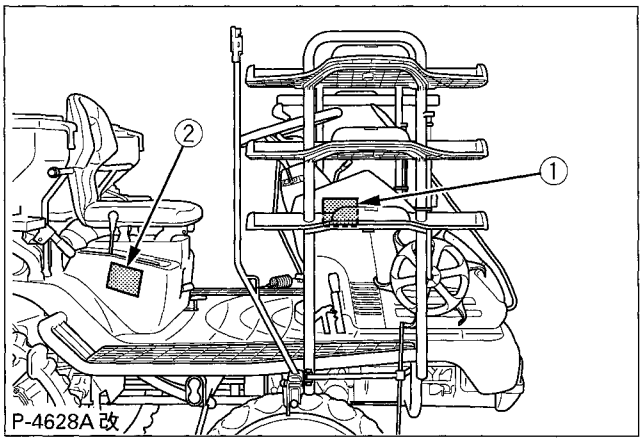
①品番　PL650-8957-1

⚠ 注　意

除草作業は苗の損傷や、機械の破損を防ぐため、下記事項を守ること。

1. エンジン回転は、「作業範囲」の最低速位置にセットする。
2. 副変速レバーは「圃場作業」、主変速レバーは中速（3段）以下で使用する。
3. 田植条数と除草条数を合わせて作業する。
4. 枕地はゆっくり旋回し、条を合わせてから除草機を降ろし、ゆっくり発進する。

注．高速で発進すると安全クラッチが作動し、機械の破損の原因となります。



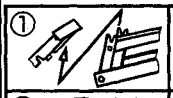
P-4628A 改

②品番　PL650-8956-2

⚠ 注　意

作業機の着脱は下記事項を守って平坦な場所で、行うこと。

1. 走行部を作業機の近くまで動かす場合は、エンジン回転「最低速」、主変速レバーは低速（1段）、副変速レバーは「圃上作業」でゆっくり位置合わせを行う。
2. 着脱は、まわりに人がいないことや、走行部と作業機にはさまれないように注意して作業機を押し、作業機と走行部リンクの、位置合わせを行う。
3. 着脱は、エンジン回転「最低速」、主変速レバー「中立」、副変速レバー「中立」にして、走行部が動かない平坦な場所で、ブレーキをかけないで行なう。

① 	作業機側リンクの上部ピンの真下に、走行部リンクのかんごう部を合わせ、植付クラッチレバーを「上昇」にして、リンク部を上昇しセット完了後、リンク中央部のピンに、セットピンを入れる。
②	本機側レバー付きカプラーに作業機側のカプラーをセットする。ロック付きレバーはロックを解除して「奥」にレバーを押すと外れ「手前」にレバーを上げるとロックして、セットできる。
③	（施肥付の場合）：施肥ホースのカプラー（4箇所）を施肥機のロートに差し込み、パチン金具でセットする。取り外したときは、作業機側フックに掛ける。

4. 作業機を取り外すときは逆の手順で行なう。

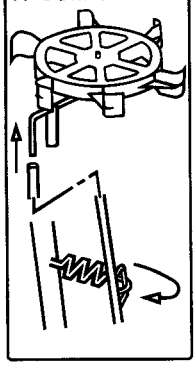
▲ 安全に作業するために

必ず読んでください。

①品番　PL650-8953-1

▲注意

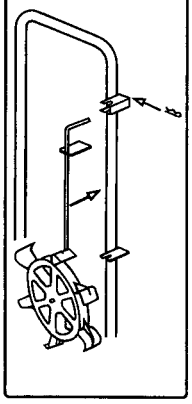
マーカが人・物にぶつかる危険があるので移動走行時・トラックでの運搬時には、マーカをロックし、先端部を収納すること。

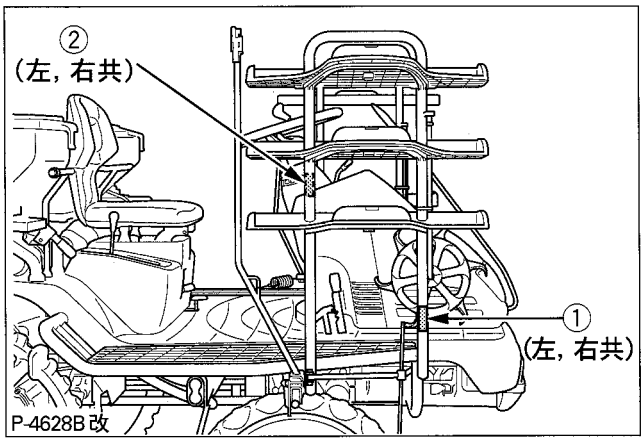


②品番　PL650-8954-1

▲注意

移動走行時・トラックでの運搬時は、マーカ先端部を収納し、スナップピンでとめること。

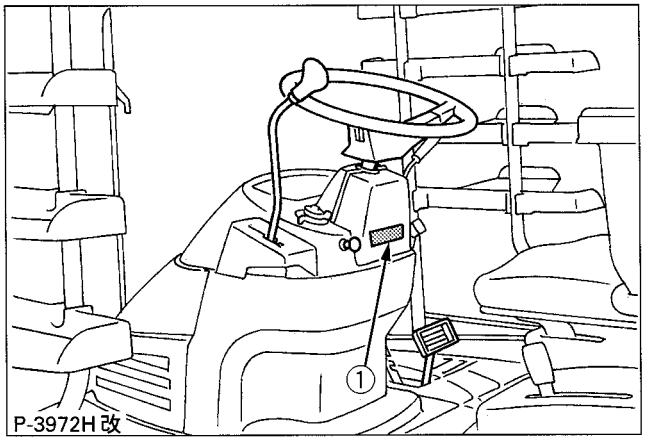




①品番　PL650-8955-1

▲警　告

転倒による重大事故の危険があるため、後部作業機を取り外し、走行部単体にて移動走行、トラックへの積み降ろし運搬作業はしないこと



2．▲表示ラベルの手入れ

(1)ラベルは，いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
もしラベルが汚れている場合は，石鹸水で洗い，やわらかい布でふいてください。
シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと，文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。

(2)高圧洗浄機で洗車すると，高圧水によりラベルが剝がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

(3)破損や紛失したラベルは，製品購入先に注文し，新しいラベルに貼替えてください。

(4)新しいラベルを貼る場合は，貼付け面の汚れを完全にふき取り，乾いた後，もとの位置に貼ってください。

(5)ラベルが貼付されている部品を新部品と交換するときは，ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証について

■ご相談窓口

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は，お買上げいただいたご購入先にそれぞれ**“ご相談窓口”**を設けておりますのでお気軽にご相談ください。

その際に，**型式名・製造番号**をあわせてご連絡ください。

なお，部品ご注文の際は，ご購入先に純正部品表を準備しておりますので，そちらでご相談ください。

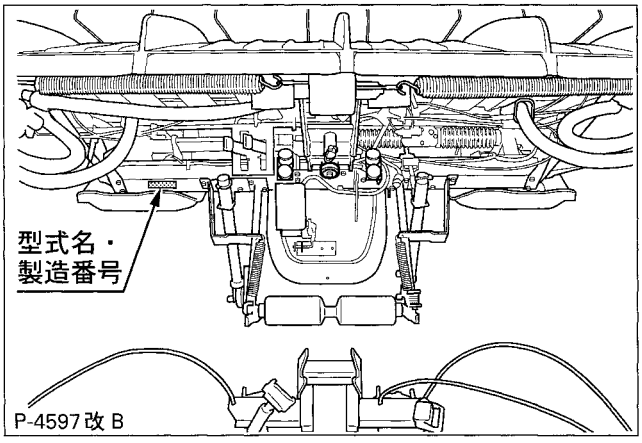
警 告

＊機械の改造は危険ですので，改造しないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は，メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。

◆認定番号

型　式　名	安全鑑定番号
クボタSPU65-K	27126
クボタSPU85-K	申請中

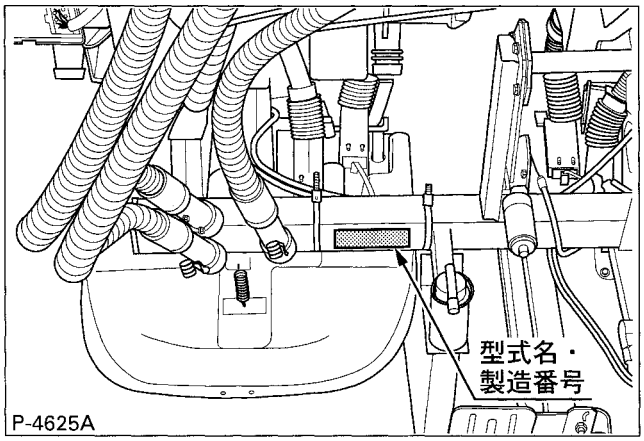
●植付部



形　式　名	U65-IK
製造番号	
製　造　元	株式会社クボタ

形　式　名	U85-IK
製造番号	
製　造　元	株式会社クボタ

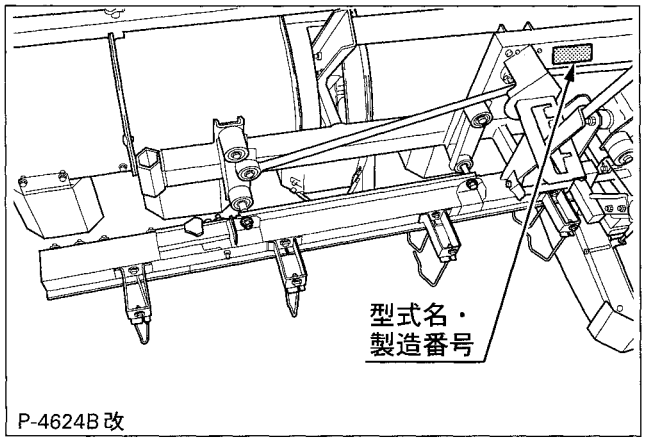
●直播機



形　式　名	DS-6UK
製造番号	
製　造　元	株式会社クボタ

形　式　名	DS-8UK
製造番号	
製　造　元	株式会社クボタ

●除草機



Kubota

形　式	
製造番号	
株式会社クボタ	

■補修用部品の供給年限について

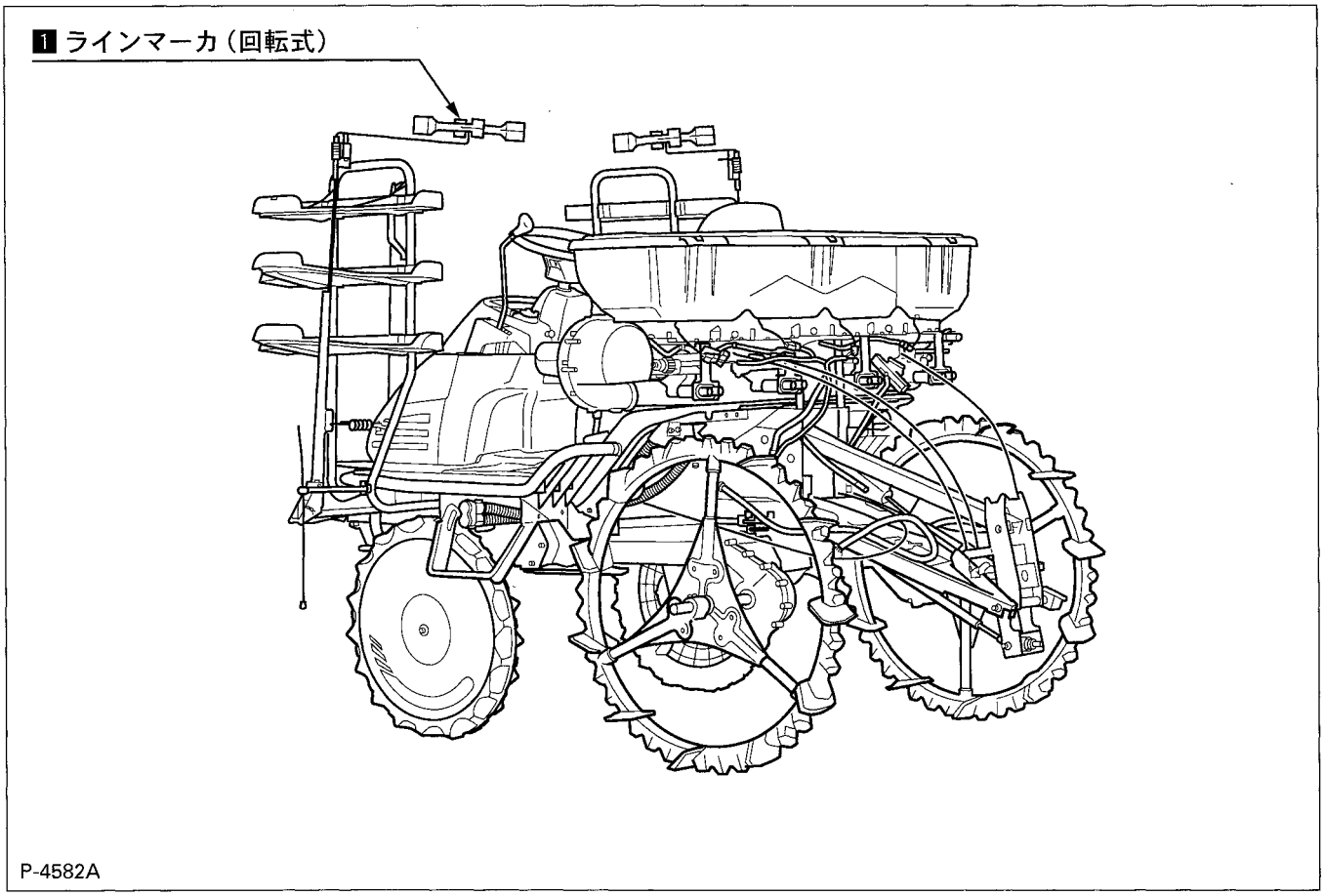
この製品の補修用部品の供給年限(期間)は製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

装置の名称と取扱い

各部の名称とはたらき

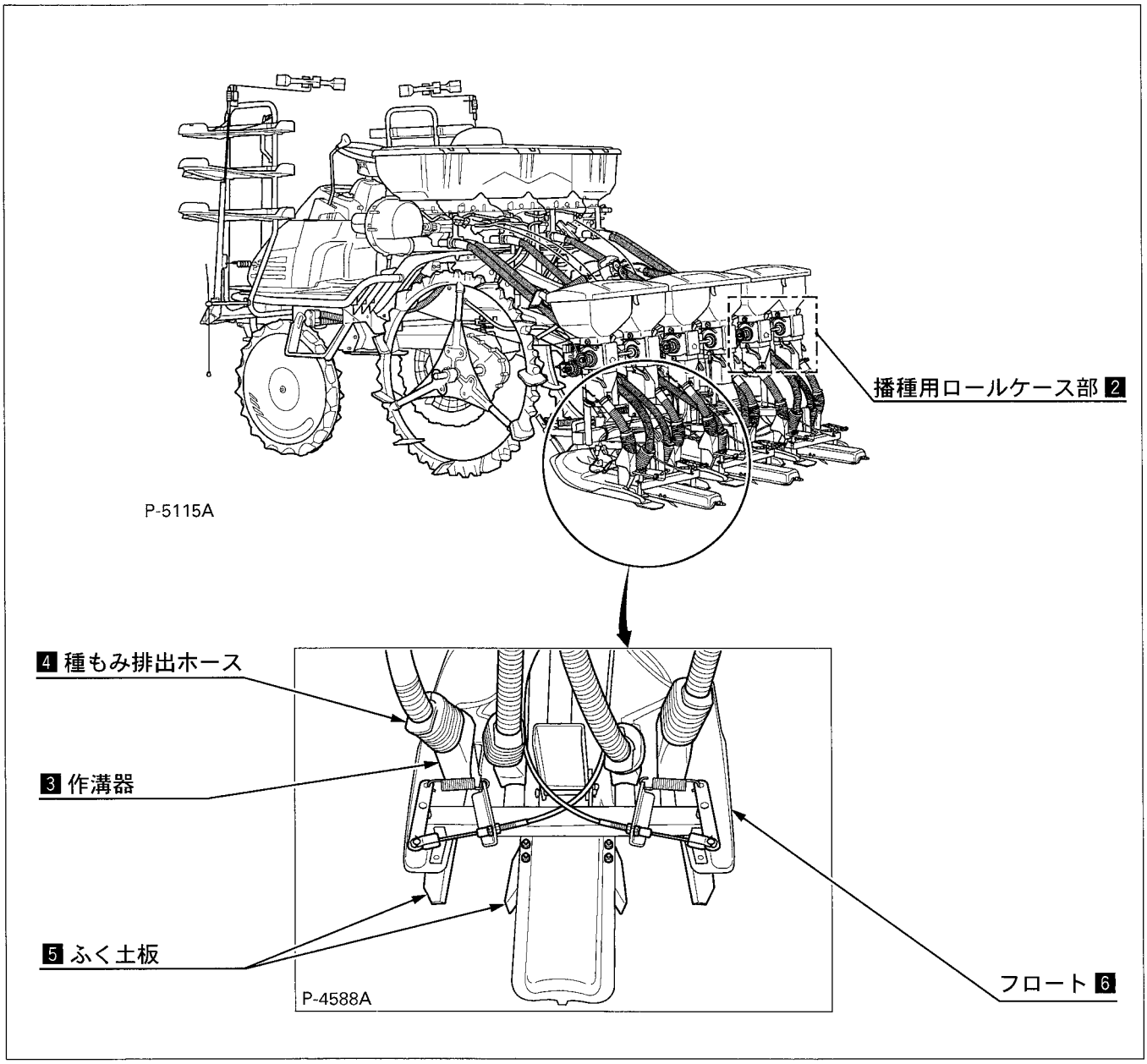
■本機側

(SPU65-AKのみの説明以外のところは，別冊の本機編を参照してください。)

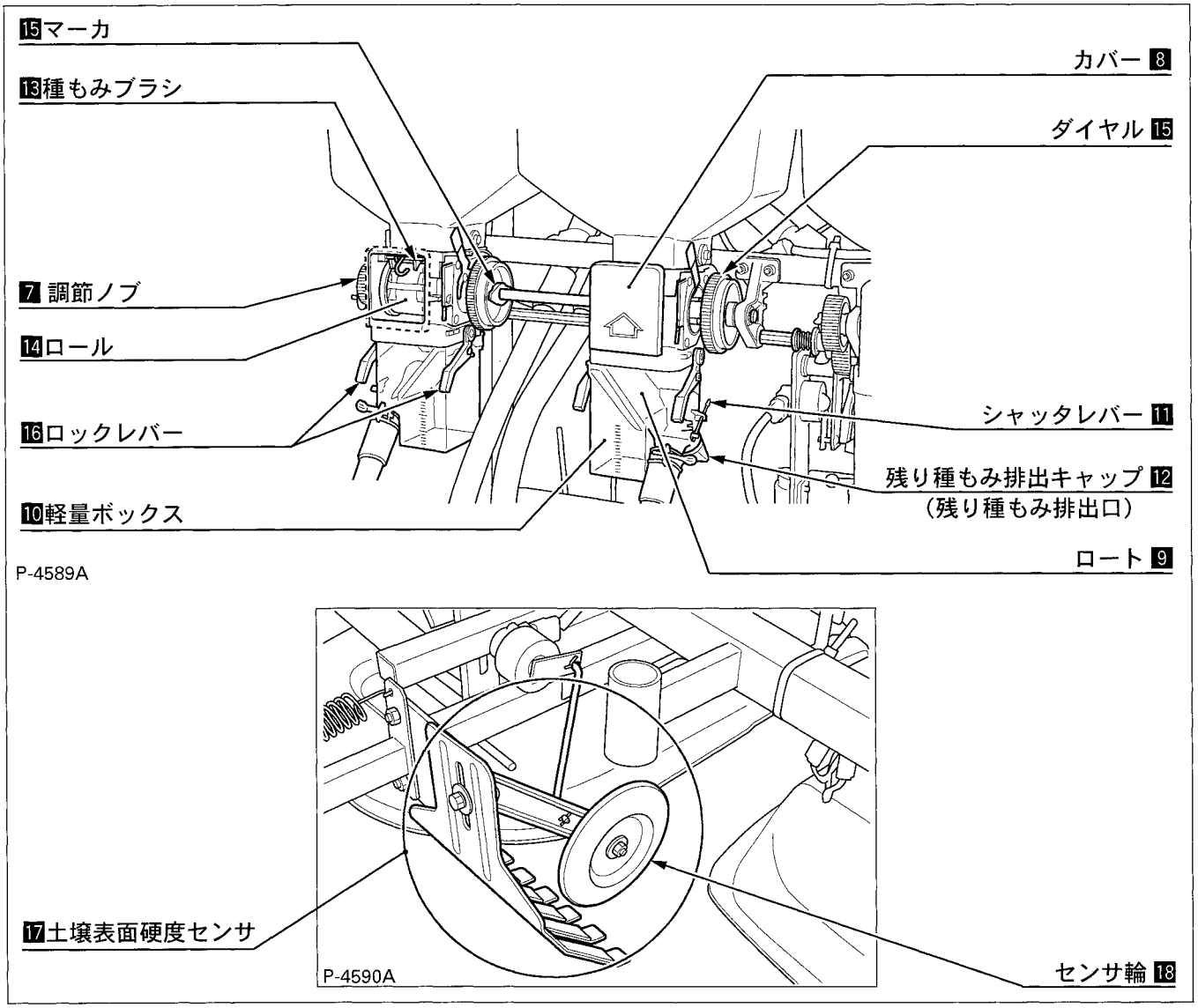


1ラインマーカ（回転式） …… 次の行程の目標となる線を引く部分

■直播機



1種もみ用ホッパ ..... 種もみを入れるところ
2播種用ロールケース部 ..... 種もみの繰出しと繰出し量を調節する部分
3作溝器 ..... 播種を行なうための溝を作り，種もみを排出する部分
4種もみ排出ホース ..... 種もみをロールケースから作溝器へ排出するホース
5ふく土板 ..... 作溝器から排出された種もみをふく土する板
6フロート ..... 整地をする部分



7調節ノブ ..... 種もみの繰出し量調節時に，ダイヤルを回すとき，六角軸が回らないように，固定するためのノブ

8カバー ..... ロールケース前面のカバー

9ロート ..... ロールから繰出された種もみを排出ホースへ落下又は，残った種もみを排出するための排出口のある透明のケース

10計量ボックス ..... 実質繰出し量を測定する透明のボックスケース

11シャッタレバー ..... 種もみ排出ホースへの種もみの排出を停止するレバー

12残り種もみ排出キャップ ..... ホッパ内に残っている種もみを排出する部分
(残り種もみ排出口)

13種もみブラシ ..... ロールを掃除するブラシ

14ロール ..... 種もみを設定量繰出すための部分

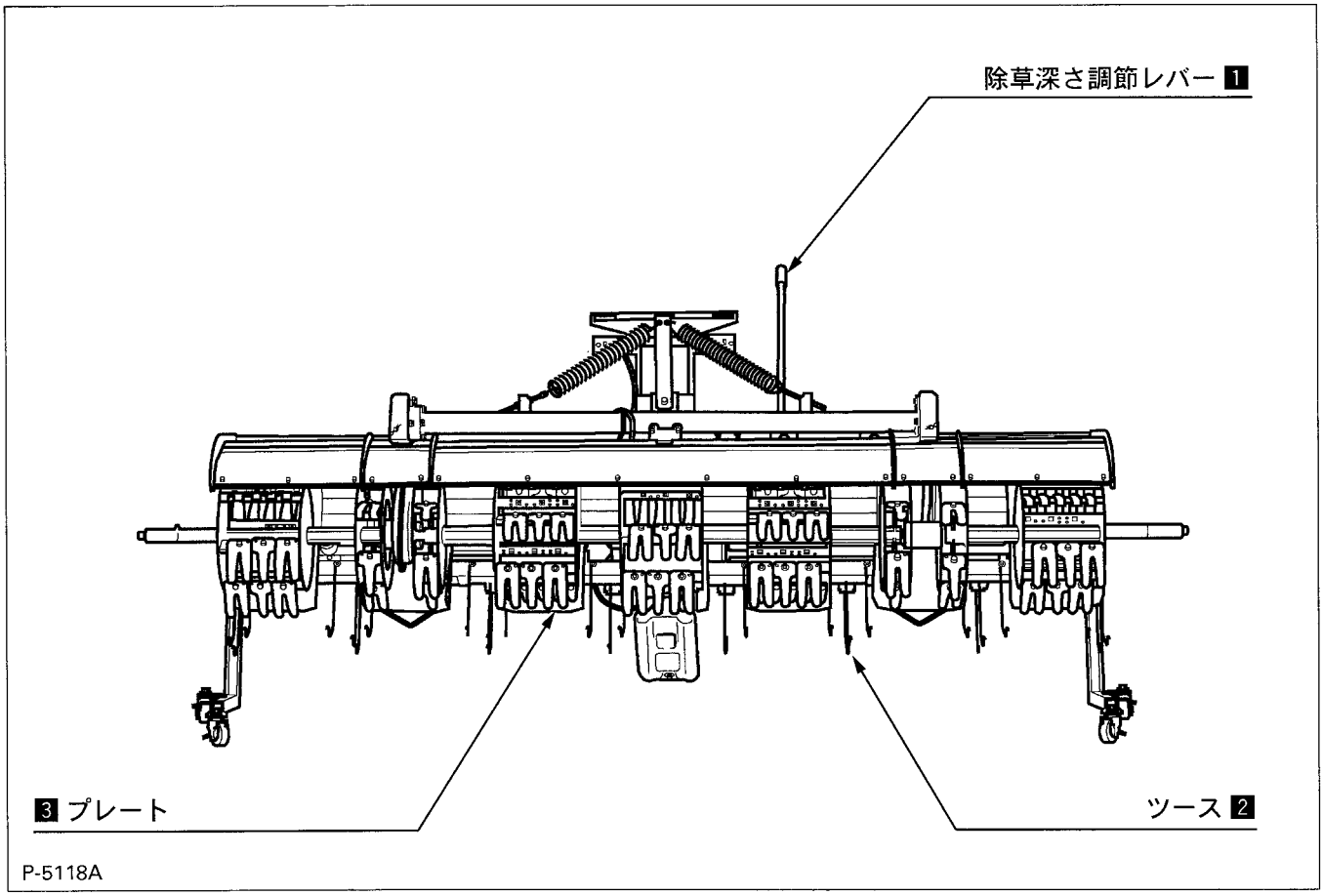
15ダイヤル・マーカ 1条ごとの種もみの繰出し量の設定を行なう部分

16ロックレバー ..... ロート・計量ボックスの脱着レバー

17土壌表面硬度センサ ..... センサ輪の高さの差により，ほ場の泥面の硬さを検出するセンサ

18センサ輪 ..... ほ場の硬さに応じて沈み込む車輪

■除草機



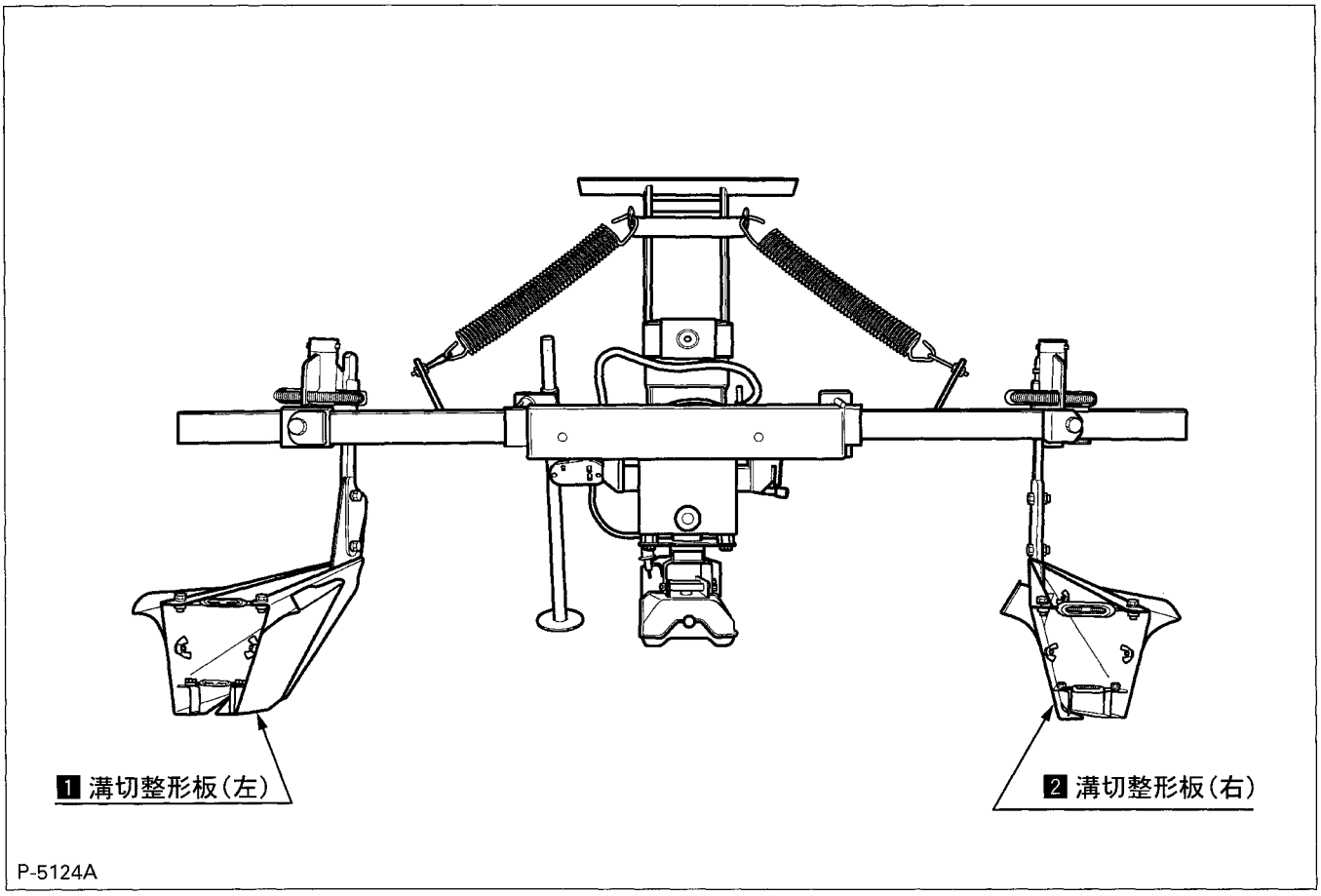
P-5118A

1除草深さ調節レバー ..... 除草作業に合わせて**“浅”**（浅い）から**“深”**（深い）まで５段階の調整を行なうレバー

2ツース ..... 株間の除草を行なう部分

3プレート ..... 条間の除草を行なう部分

■溝切機



1溝切整形板（左） …… 排水用の溝を整形する２連式左側の溝切板
2溝切整形板（右） …… 排水用の溝を整形する２連式右側の溝切板

運転前の点検

■ 本機側の点検

本機の**“取扱説明書”**に従って，実施してください。

■ 植付部

本機の**“取扱説明書”**に従って，実施してください。

■ 直播機の点検

(1)ホッパ・ロール・ブラシ・ロート・ホース・エア抜きなど，種もみの通路に種もみやカルパーが付着していないか，また湿っていないかを点検してください。
(2)特に，ロールの溝はエンジンをかけ，ロールを低速で回し点検してください。
(3)種もみやカルパーが付着している場合には，きれいに掃除してください。
(4)湿っている場合は，乾いた布でよくふいてください。
(5)特に，ブラシは取外し，毛の間に詰まった種もみを取除き，お湯で洗った後よく水分をきり，乾いた布でよくふき，乾燥させてください。
(6)ホッパのふたを開け，ロールとブラシのすき間を確認します。
(7)各作溝器内に種もみ，カルパーや泥が付着していないかを点検してください。
(8)ロールの開度が全部合っていることを確認してください。
(9)各ホースやロールケースなどの接続部，その他各部のボルト・ナットの締付けが確実か点検してください。

■ 除草機の点検

ツースやプレートに摩耗，変形，破損がないか点検してください。

■ 溝切機の点検

溝切整形板やフロートに摩耗，変形，破損がないか点検してください。

作業機（植付部・直播機・除草機・溝切機）の脱着のしかた

脱着のしかた

警　告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部・直播機・除草機・溝切機）を取外して本機側単独で移動走行やトラックの積降ろし，運搬作業は行なわないでください。

＊溝切機を装着したときは，ウエイトを必ず溝切機に取付けてください。転倒による重大事故を起こすおそれがあります。

注　意

＊作業機の脱着は平坦で凹凸のない場所で行なってください。また，風が強く吹いているところで脱着作業は行なわないでください。

＊周囲に人がいないことを確認してください。脱着時は特に，本機側と作業機に人が挟まれるおそれがあります。

＊溝切機のウエイトの脱着は２人作業で行なってください。

■取付けかた

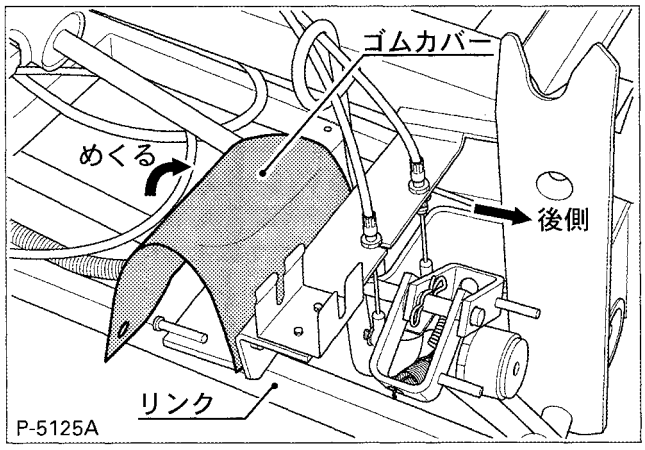
補　足

＊説明のイラストは植付部及び溝切機で行なっていますが，直播機と除草機についても同じ要領で行なってください。

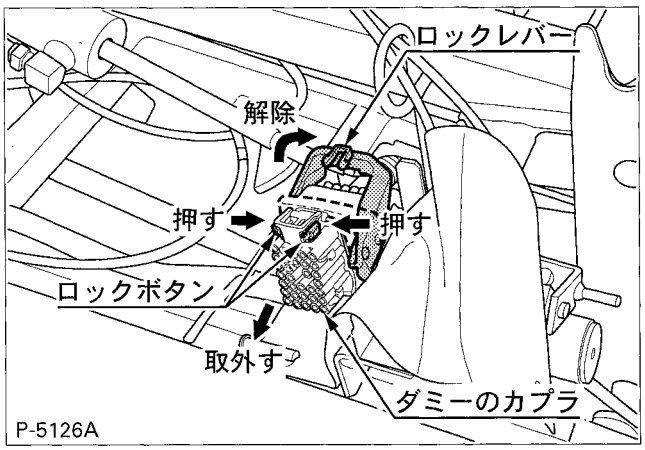
❶エンジンを始動し，アクセルレバーを最低速位置，副変速レバーを“N”（中立）位置にしたあと，駐車ブレーキを解除の状態にします。

❷作業機側のハーネスのカプラを接続するためのダミーのカプラを取外します。

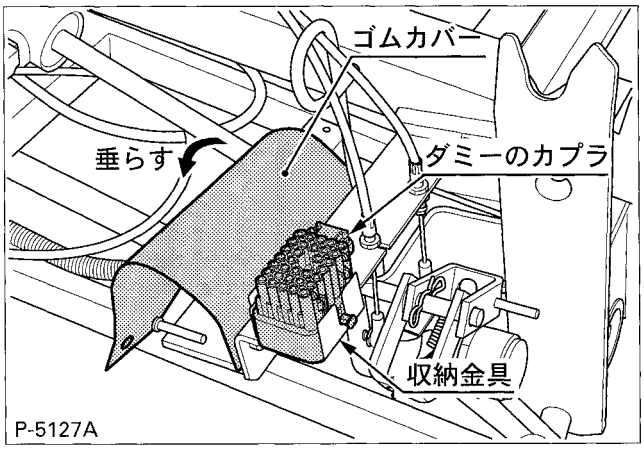
(1)本機側リンク後部にあるカプラ接続部のゴムカバーをめくります。



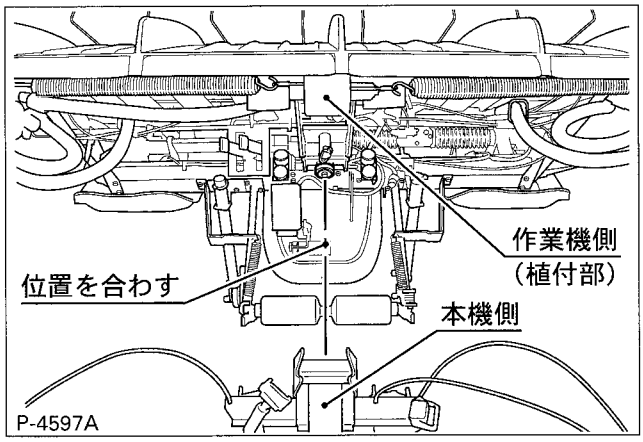
(2)ロックレバーを解除したあと，ロックボタンを左，右から押しながらダミーのカプラを取外します。

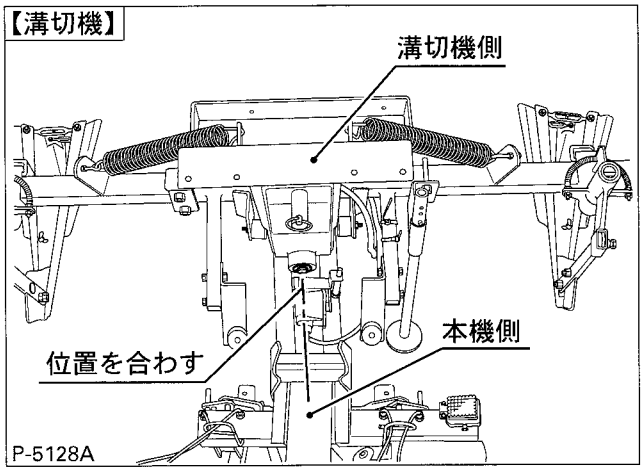


(3)取外したダミーのカプラを収納金具に図のように収納し，ゴムカバーをカプラ接続部に垂らします。

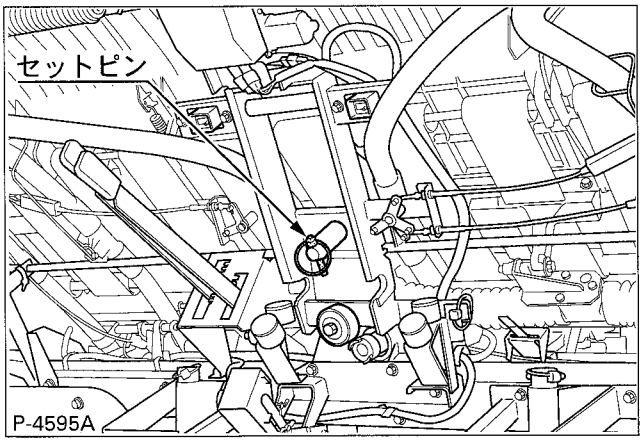


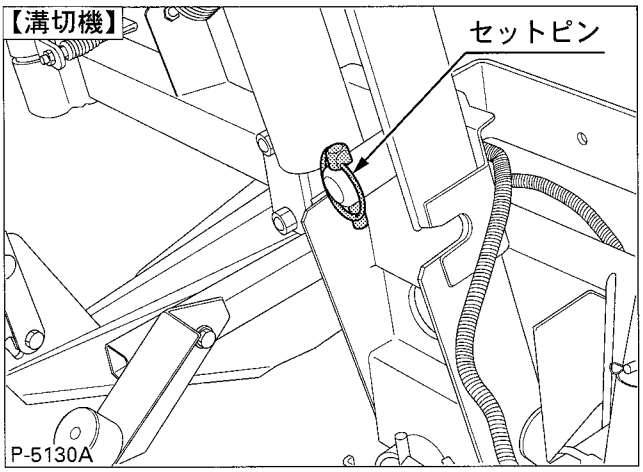
❸本機側単体の機体後部の取付け部後端から少し離した位置に作業機を準備します。そのあと，本機側と作業機の取付け位置の中心部の位置合わせを行ないます。





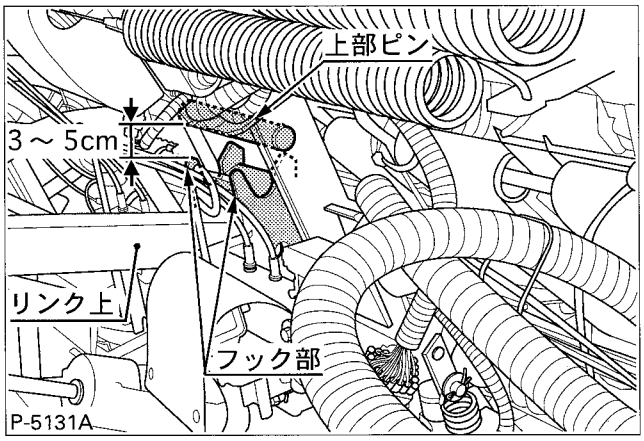
❹作業機側のセットピンを取外します。

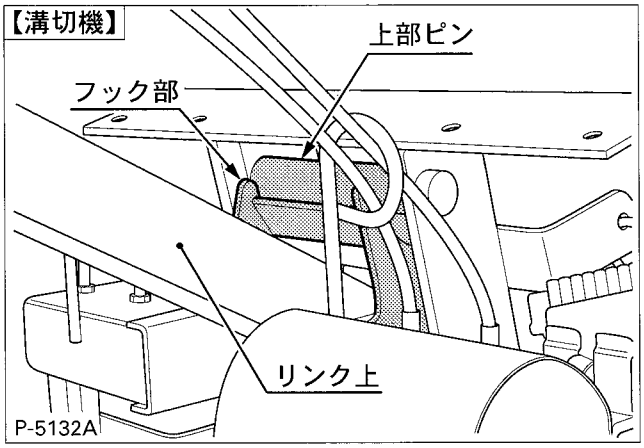




❺作業機を本機側の取付け部に接触する手前まで押します。

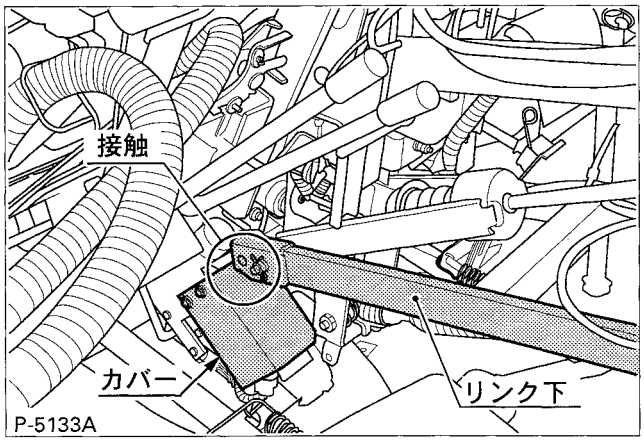
❻植付クラッチレバーを操作して本機側のリンク（上）を少しずつ上げながら，作業機側リンク取付け部の上部ピンの下側３～５cmの位置にフック部を合わせます。





補　足

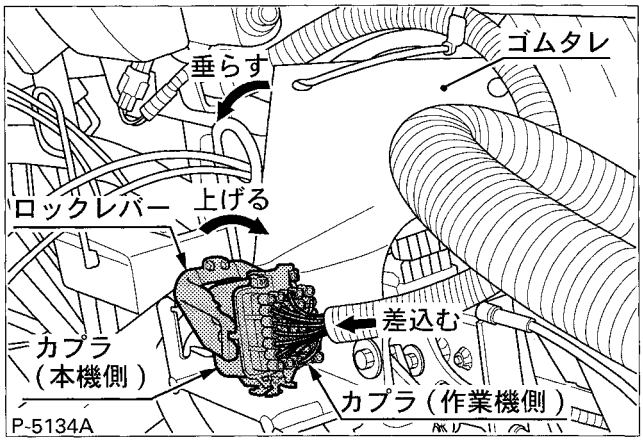
＊植付部を取付けるときは，本機側のリンク（上）が下側にあると下図のようにリンク（下）がカバーに当り，取付けができません。



❼作業機を少し押し，本機側のリンク（上）真上に作業機側リンク（下）の上部ピンを合わせたあと，植付クラッチレバーを“上”（上昇）側に操作すると作業機が取付けられます。

❽❹の工程で取外したセットピンを同じところに取付けます。

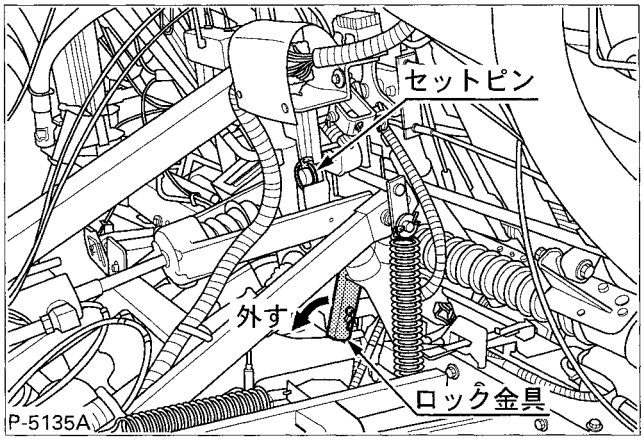
❾エンジンを停止して，作業機側のハーネスのカプラを本機側のカプラに差込みます。そのあと，カプラのロックレバーを上げてロックします。そのあと，ゴムカバーを垂らします。



重　要

＊カプラを接続するとき，ショートしてカプラやハーネスが破損するおそれがありますので，エンジンは必ず停止してください。

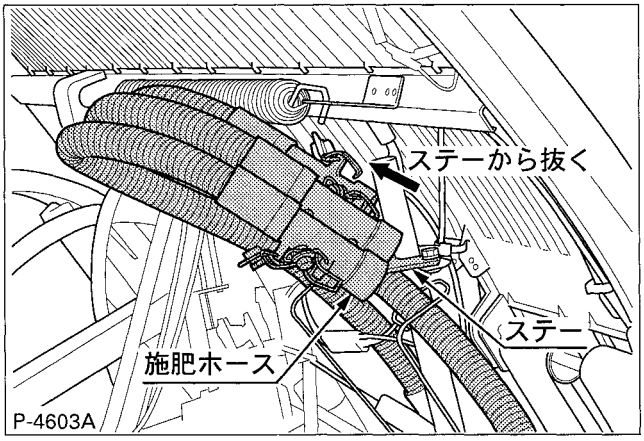
❿植付部の場合は，ロック金具を下げてロックを外します。

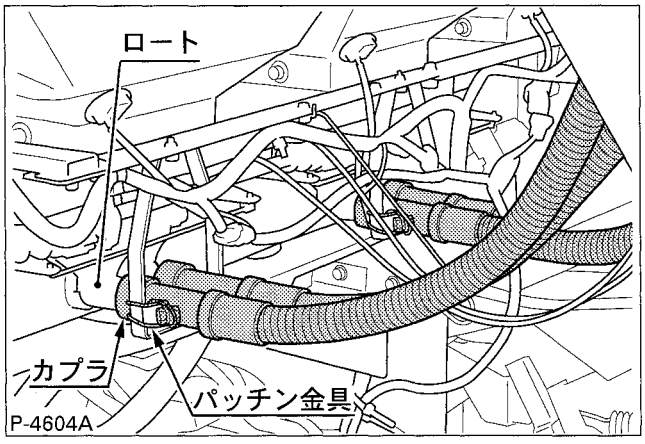


補　足

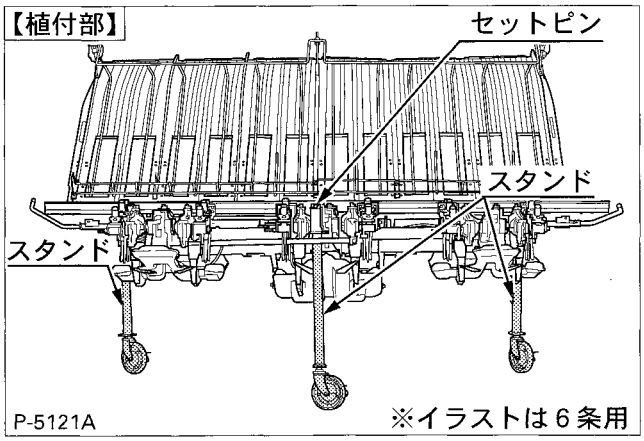
＊ロック金具は，植付部が左，右にローリングするのを防ぐ金具です。作業中は必ずロック金具を外し，植付部を取外すときは，必ずロック金具をロックしてローリング防止を行なってください。

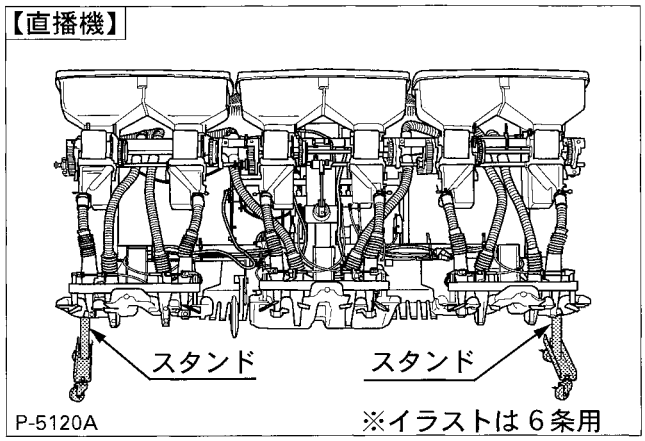
⓫F仕様（施肥機付）の場合，植付部と直播機は，施肥ホースのカプラ（４箇所）を施肥機のロートに差込み，パッチン金具をロックしてホースとロートを固定します。

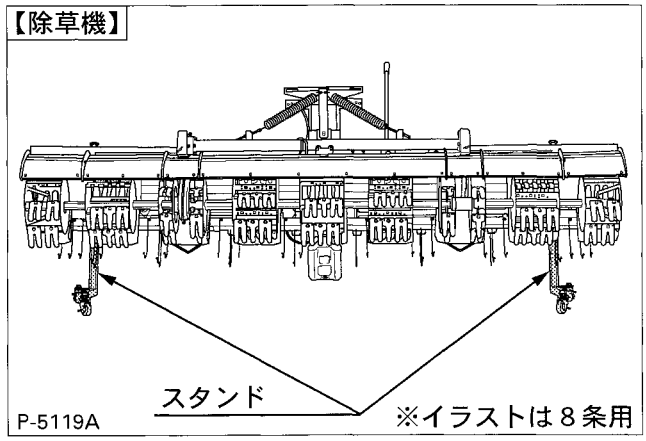


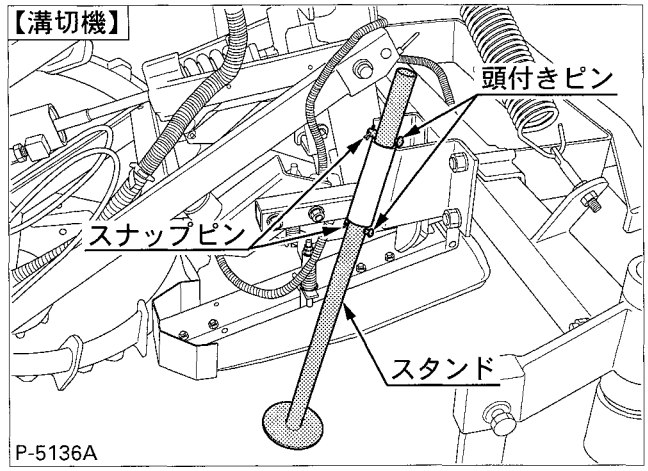


⑫セットピンを外してキャスター付きスタンドを取外します。溝切機は，頭付きピンとスナップピン各２個を取外してスタンドを取外します。



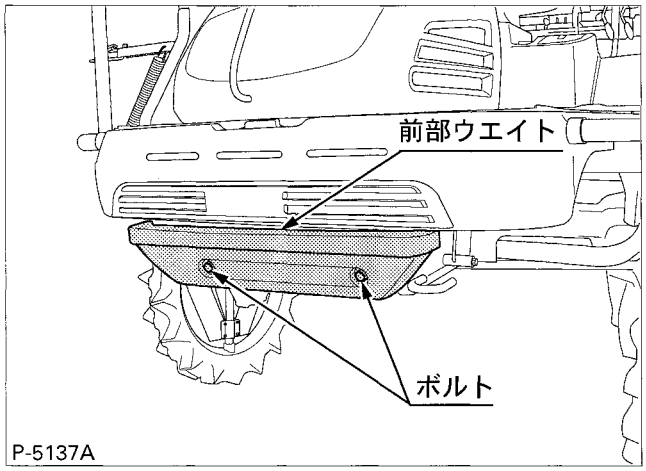




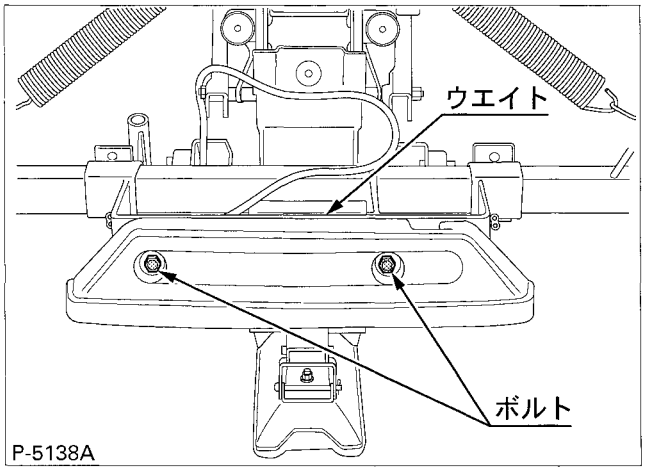


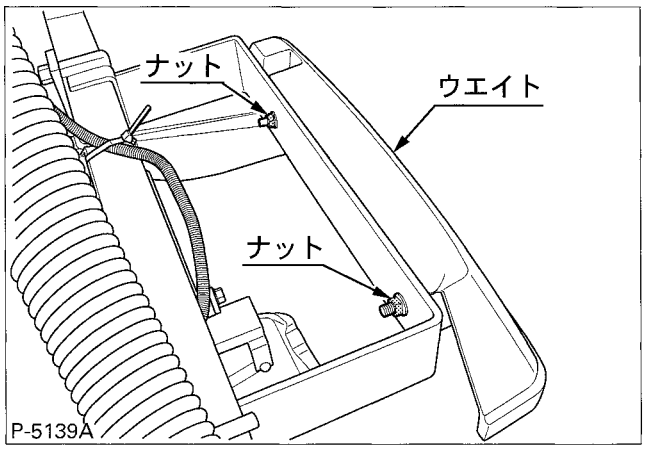
⑬溝切機の場合は，前部ウエイトを取外して溝切機へ装置します。

(1)ボルトを外して前部ウエイトを取外します。このとき，必ず２人作業で行なってください。



(2)ウエイトを(1)の行程で取外したボルトと付属部品のナットで溝切機に下図のように取付けます。





■取外しかた

警 告

＊溝切機を取外したあと溝切機以外の作業機を装着するときは，ウエイトを本機側に必ず装着してください。転倒による重大災害を起こすおそれがあります。

取付けかたと逆の手順で取外します。

移動走行と輸送

移動走行について

この田植機は，道路運送車両法の保安基準に適合していませんので，法令により公道は走行できません。従って，公道を移動するときはトラックなどで輸送してください。

警　告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部・直播機・除草機・溝切機）を取外して本機側単独で移動走行やトラックの積降ろし，運搬作業は行なわないでください。

注　意

＊肥料【F仕様】や種もみを積んだままの移動や，トラックなどへの積降ろし・運搬はさけてください。（肥料【F仕様】や種もみの積載によって荷重がふえ，重心も高くなって，転倒し易くなっており，また振動で機械が破損したりするおそれがあります。）【直播機】

＊トラックなどへの積降ろしやあぜぎわの昇り降りのときは，特に運転に注意して，転倒したり機械の向きを誤まらないように注意し，運転者や周囲の人の安全確保をはかってください。

＊運搬するときは，作業機には絶対にロープ掛けしないでください。（作業機が破損します）

＊運搬，移動するときは，作業機を上げ油圧昇降ロックを行なって，フロートから下に出ている部品（溝切板，作溝器，プレート，ツースなど）が路面などに当らないようにしてください。

＊作業機を下げた状態では，路上や未耕地ほ場で移動させないでください。（部品破損のおそれがあります）

■移動走行前の準備

注　意

＊苗のせ台及び予備苗のせ台にある苗や苗すくい板は，すべて降ろしてください。

＊ホッパ内のもみ及び肥料【F仕様】はすべて排出して空の状態にしてください。

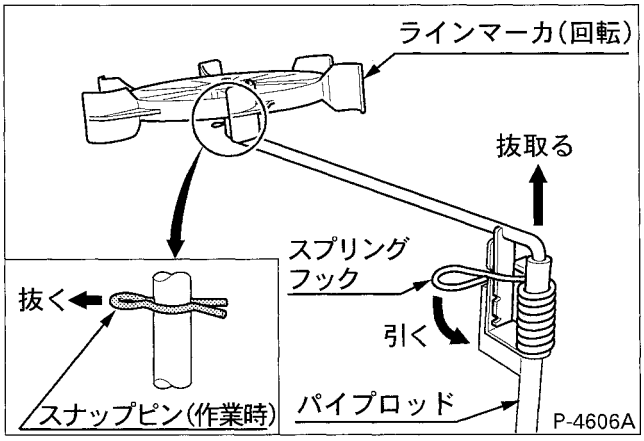
＊ステップの回りに物は置かないでください。

＊水平で平たんな場所で行なってください。

❶平たんな場所に機体を止め，エンジンを停止します。

❷左，右のラインマーカを収納し，フックに固定します。

(1)スプリングのフックを引き，マーカ先端部をパイプロッドから抜取ったあと，スナップピンを作業時用の穴から抜取ります。

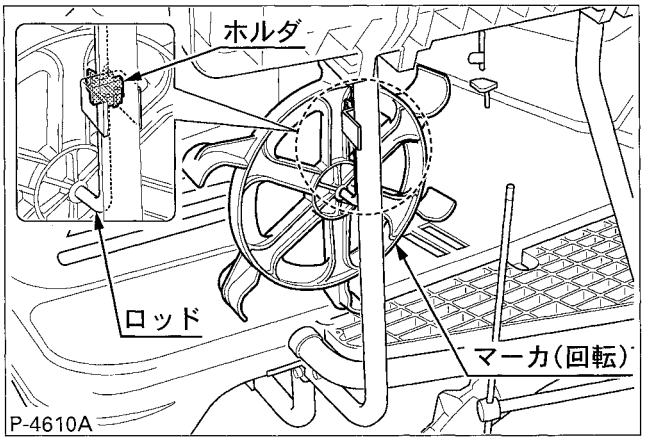


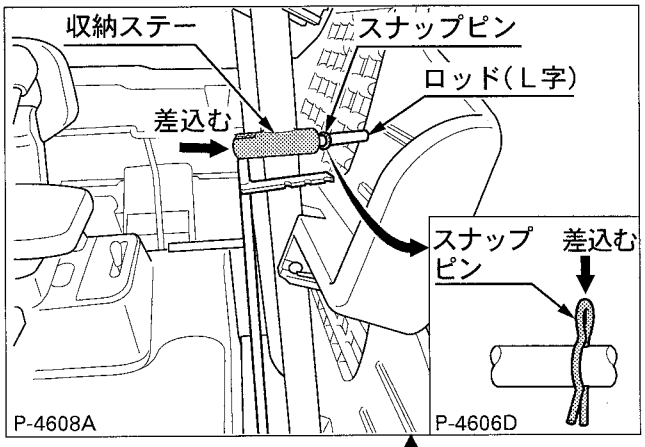
(2)苗のせ台フレーム前側の収納ステーにマーカのロッド終端部のL字部を差込んだあと，スナップピンを差込んで落下防止を行ないます。

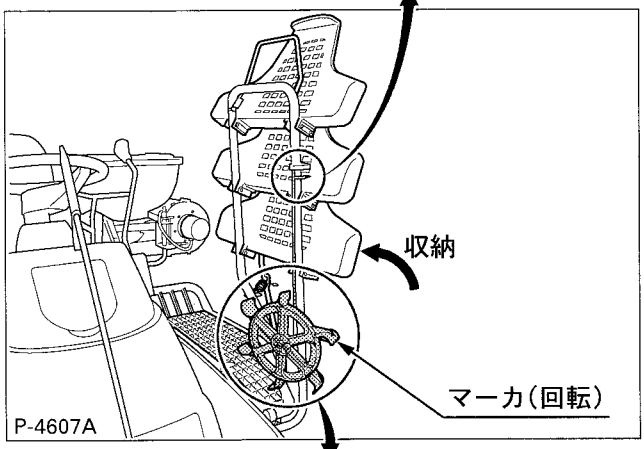
(3)マーカ側のロッドをフレーム下側にあるホルダに入れます。

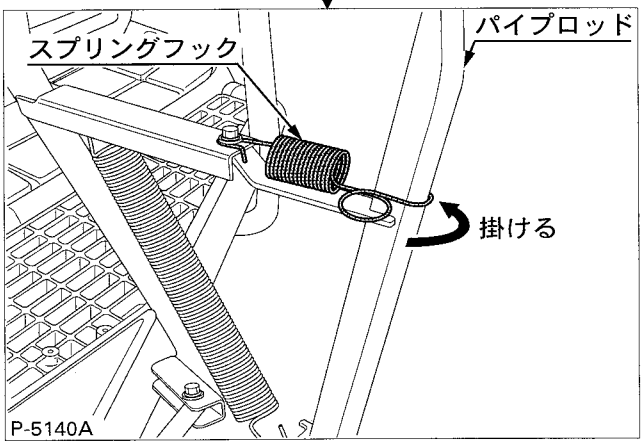
補　足

＊必要に応じて苗のせ台を収納状態にします。









(4)スプリングフックのリング部を引きながら，パイプロッド下部の外側に引掛けて固定します。

❸左，右の隣接マーカ及びマスコットを収納します。

補　足

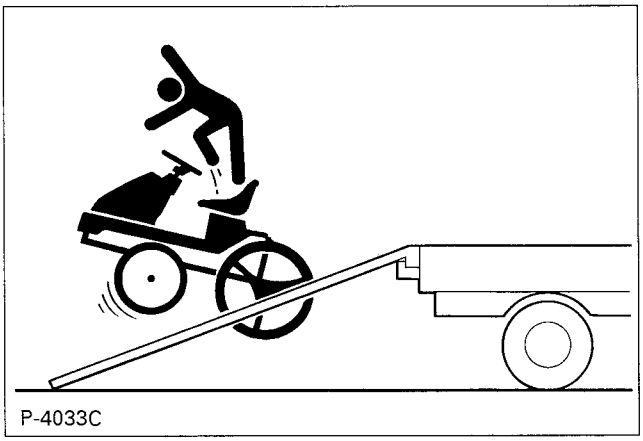
＊８条の除草機は左，右の各１条分を取外してください。（**メンテナンスの各部の脱着のしかた**の項参照）

輸送について

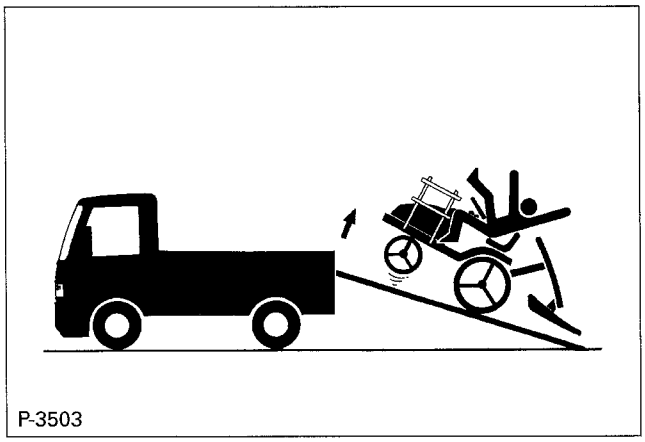
■積込み・積降ろしのしかた

警　告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部・直播機・除草機）を取外して，本機側単独で移動走行やトラックの積降ろし，運搬作業は行なわないでください。



＊前進であゆみ板を登ると大変危険です。必ず，後進で積込み，前進で積降ろしてください。



作業のしかた

田植作業のしかた

補　足

＊田植作業については，別冊の取扱説明書の**“田植作業のしかた”**を参照してください。この取扱説明書では，異なる部分のみ記載しています。

■作業前の準備

警　告

＊平坦な場所に置き，エンジンは必ず止めてください。

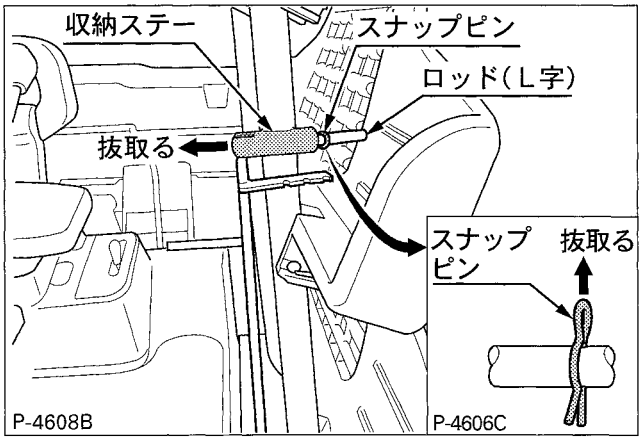
＊取外したカバー類は必ず取付けてください。

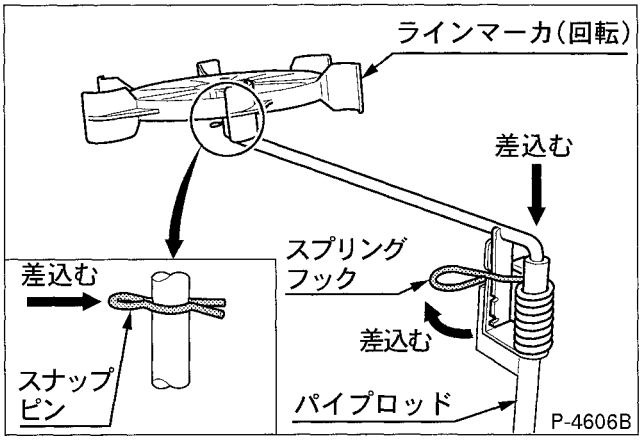
◆本機側

【ラインマーカのセット】

❶落下防止のスナップピンを収納時用の穴から抜取ったあと，収納ステーからマーカのロッド終端部のL字部を抜取ります。

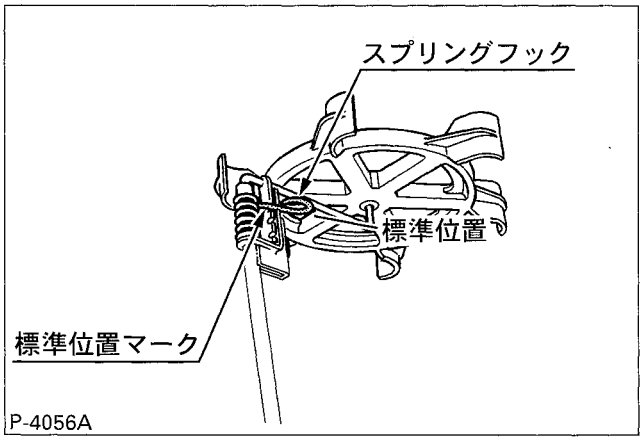
❷スプリングフックを引きながらパイプロッドにマーカのロッドを差込んだあと，スナップピンを作業時用の穴に差込みます。





補　足

＊マーカをパイプロッドに差込んだあと，スプリングフックを先端側の切欠溝（標準位置マーク）に左，右共ロックしてください。



直播作業のしかた

■ほ場条件と種もみについて

ほ場の条件や種もみが直播作業に適さなければ，正常な発育が行なえないことがありますので，作業に合ったほ場や種もみを使用してください。

◆ほ場条件について

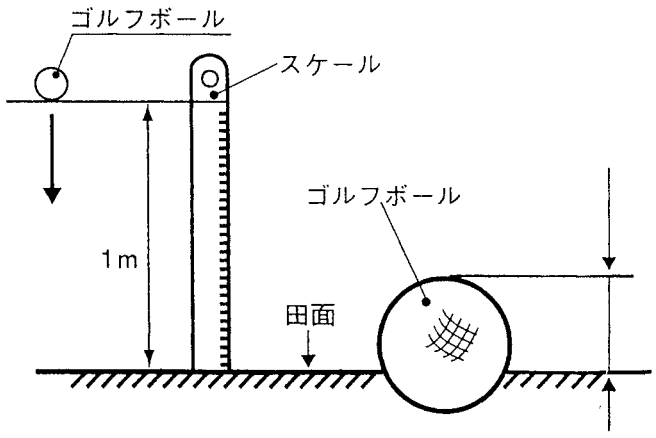
作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
1. どんな水田でも直播は可能か。	①強湿田(深田)はさける。 ②強漏水田はさける。 ③麦あと水田でも可能。	①田植機が使用可能な水田であれば直播は可能。 ②漏水田では除草剤が効かない。
2. 耕起には特別な注意が必要か。	①作土深や耕盤の均平に留意する。 ②稲わらなどは秋冬期に土中に完全にすき込み腐熟させる。	①均平不良は播種深さがムラになり，また，落水時に水が残るため，出芽不良になる。 ②耕深が浅いと作土層の稲わらなどの密度が多くなり，かつ未分解であると土中が酸欠となり，播種精度，出芽稲立ちを阻害する。
3. 代かきは移植と同じでよいか。	①移植の場合より以上に田面を均平にするのがキーポイント。高低差は５センチ以内（できれば２センチ以内）におさめる。 ②ただし過度の代かきは厳禁。 ③浅水で代かきし，均平につとめ稲わらなどは土中に埋没させる。 逆転ロータリ，ドライブハロー使用	①田面に高低差があると播種時に田面に硬いところ軟らかいところができ，播種精度が劣り出芽，苗立ちが不良となる。 ②代かきで土を練りすぎると表上が酸欠（還元）になり著しく出芽不良になる。 ③深水で代かきすると稲わらや稲株が土の表面に浮き，播種精度を悪くする。
4. 代かきはいつしたらよいか。 また播種時の土の硬さとの関係はどうか。	①土壌条件によってちがうが，播種日の３～４日前にする。 ②各ほ場ごとに，播種時に理想の土の硬さになるように代かき日のコツをつかむよう努力する。	①次のページの２～５の範囲に田面の状態が入るように調整する。 ②１筆内が同じ硬さになるようコツをつかむ。
5. 代かき後播種までの間水を張っておくのか。	①代かき後播種までの日数が長いときは浅く水を張っておく。 ②播種時は落水状態とする。	①要は前項に書いたように播種に適した理想的な土の硬さにするために，土質に合わせて湛水，落水いずれかの方法をとるなど工夫しコツをつかむ。

◆ほ場表面硬さと本機の調整方法

	ほ場表面の硬さ	指ですじを作ったとき	ゴルフボールの深さ	適正な播種溝形状	播種作業の可否	調整方法（目安）
1	非常に硬いほ場	すじを付けにくい，指が痛い。	φ41.5 −25mm以上	ほ場を軟らかくする。 （代かきをやり直す） 10〜20mm	×	
2	硬いほ場	すじの横に盛り上がった土が崩れる。	−15〜−25mm	10〜20mm	△	●フィットセンサを“4〜7”にする
3	ちょうど良いほ場	すじは残る。横に土が盛り上がり線状で残る。	−10〜5mm	10〜15mm	○	●フィットセンサ“1〜4”
4	軟らかいほ場	すじが直ぐに埋まる。	5〜10mm	溝が崩れる。 5〜15mm	○	●フィットセンサ“1〜3”
5	非常に軟らかいほ場	すじが全く残らない。	10mm以上	溝ができない。 （播種を延期してほ場を硬くする） 5〜15mm 種もみ	△	●フィットセンサ“1” ●水が多いとき，播種速度はゆっくり

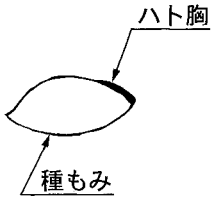
注：ゴルフボールによるほ場硬さの測定方法

ゴルフボールを田面から1mの高さから落下させて，図のようにゴルフボールが露出するのが目安になります。



◆種もみについて

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
1. どんな品種を使うか。	①都道府県の奨励品種のうち直播に適すると認められている短稈良食味品種を使う。	①直播は倒伏しやすいので短稈で倒伏に強い品種がよい。 ②低温発芽伸長性の良い品種が望ましい。 ③コシヒカリのような市場性の高い品種を使いたいが，倒伏・低温発芽性に難があるので，要注意。 ④直播は移植より生育／熟期が遅れるので早晩性の選択に注意する。
2. どんな種もみを使うか。	①採種ほ場の種もみを使う。 ②自家採種するときは，いもち・ごま葉枯病・ばか苗病などの発生していないほ場からとる。 ③バインダ又は手刈りし，種もみに傷をつけないよう脱穀する。コンバイン刈りでは採種(種子)用コンバインを使う。 ④種もみの量は余裕をもって５～６kg準備する。	①種もみの良否が発芽，苗立ちを左右するので，採種のときから万全を期すこと。 ②種もみに傷がつくと出芽率が著しく低下するので，機械的損傷を絶対に与えないこと。その意味でコンバイン刈りは好ましくない。 ③過乾燥も厳禁。
3. 種もみの枝梗はとったほうがよいか。	①芒・枝梗などは脱芒機などできれいに取除く。	①種もみに傷をつけないように脱穀すると，芒・枝梗が残るが，芒・枝梗をきれいにとらないと，カルパーコーティング，機械播種時に必ずトラブルを起こすことになる。 ②脱芒機の使用も種もみに傷をつけないよう注意する。
4. 塩水選というのはした方がよいか。	①充実した良い種もみを使えるように必ず塩水選をする。 ②液比重1.13（ウルチ）・1.08（モチ）以上の食塩水（硫安でも可）に種もみをいれて沈んだものを使う。 ③軽くて浮くもみが多いので，播種量の1.5倍ぐらいの量を準備しておく。	①きびしい自然条件の水田に直接播種するので，出芽・苗立ちを安定させるため，塩水選で充実した種もみを選ぶことは必須条件である。 ②軽い浮きもみがたくさん出ても気にせず全部捨てること。 ③塩水後の種もみは塩分を除くためじゅうぶん水洗いし，日かげ干しする。
5. 種もみは厳選したが，種子消毒も必要か。	①種子消毒も必ず実施する。 ②消毒方法は都道府県の防除基準による。 ③一般的には，ヘルシード水和剤・オリジノン水和剤・スポルタック乳剤・テクリードCフロアブル・スポルタックスターナーSEなどの湿粉衣，高濃度短時間浸漬で行なう。 ④種子浸漬は催芽前にする。	①塩水選をしても病害虫の予防にはならない。 ②水田に直接種もみを播くので，出芽苗立ちはもちろん生育安定のため種もみについている病害虫防除は大切な作業である。 ③主としていもち，ごま葉枯，ばか苗病，センチュウ心枯を防ぐために種子消毒をする。

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
6. 浸種，催芽はどの程度にするか。	①必ず種もみを水に漬け，じゅうぶん吸水させてハト胸状態にする。 ②日平均気温の積算値が60～80℃（平均15℃で４～６日，移植より少し短い）でハト胸状態となる。積算温度が100℃になると発芽してしまう。	①乾いたままの種もみをカルパーでコーティングして播種すると，土中でじゅうぶん吸水できず，吸水に日数もかかり，発芽出芽が不揃い不安定になるので必ず浸種催芽する。 ②発芽し，芽がのびてしまうと，カルパーコーティングするときに芽が折れて出芽不能になるので，必ずハト胸程度とする。 ③失敗して根まで出ると，根がらみして，コーティングや播種機のトラブルになる。
6-1. ハト胸とはどういう状態か。	①じゅうぶん水を吸って，芽の出る部分がハトの胸のようになった状態。  	
7. 浸種後の水切りはどの程度か。	①種もみを網袋のまま取出し，水滴が落ちなくなるまで水を切る。 ②種もみを手で握っても手に水分が付かない程度。 ③洗濯機の脱水機を使うとよい。	①水切りをじゅうぶんしないと，コーティング機の底や側壁にカルパー粉粒剤が固着し，種もみも付着してコーティングが均一にできなくなる。

●カルパー粉粒剤16の種もみコーティング

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
1. カルパーでコーティングするというが，カルパーとはどんなものか。	①カルパー粉粒剤16という農薬で種もみをコーティングする。 ②この薬剤は過酸化カルシウム16％，焼石膏などの鉱物質84％を含む混合物である。	①湛水土壌中で水と反応し，徐々に分解して酸素を発生する。 CaO_2 + H_2O → Ca(OH) + $1/2O_2$ 過酸化カルシウム　水　消石灰　酸素 ②この酸素が水田土壌中で種もみの発芽を促進させる働きをする。 ③この酸素の助けがないと水田土壌中では種もみは酸素不足で発芽できない。
2. カルパー粉粒剤16の安全性は，また貯蔵はどうか。出荷単位は？	①毒性は低く普通物，アメリカでは食品添加物として製パンに使用。 ②魚毒はA類，ウナギ，エビ養殖の環境改良剤に使用される。 ③１袋３kg×８袋=１ケース	①乾燥冷暗所で保証期間５年OK。 ②使い残しは乾燥冷暗所に保管。 ③開封したものは当年度中に使用のこと。翌年使用は不可。
3. コーティングする機械はどんなものか。	①専用のコーティングマシンがある。 ②直径90センチ型，　乾燥籾重で10kg／１回 所要時間20～25分 ③直径140センチ型，乾燥籾重で30kg／１回 所要時間20～25分 ④自動コーティングマシンもある。	①いずれも水噴霧装置を併用する。 ②５～10kgの間では１回の処理時間は変わらない。 ③５kg以下では作業が困難になり不可。 ④直径140センチ型はJAなどのコーティングセンターなどで使用される。

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
4. コーティングするカルパーの量はどのくらいが良いか。	①乾燥種もみ重の２倍量のカルパーを使う。 ②浸種もみではじゅうぶん水切りして秤量し，それに1.6を乗じたカルパーを使う。	①事前に乾籾重を量っておくこと。 ②カルパー量を減らすようなことは絶対にしないで基本を守ること。 ③カルパーが多すぎると土中で物理的に吸水が遅れてかえって出芽不良となる。
5. コーティング作業の手順とコツはどうか。	①まず種もみだけを入れてコーティングマシンを回転させる。種もみがコーティングマシンの皿の上方から落下しはじめる位置で水を少量噴霧し種もみの表面を均一にぬらす。 カルパーは皿底部位置に少量ずつ加える。 コーティング作業は種もみの表面がかくれる程度まで水とカルパー粉粒剤16を交互に入れる。 ②その後は水を噴霧しつづけながらカルパーを皿の底部に入れる。 ③カルパーを入れるともみの流れの右端に白い縦稿ができる。その稿が徐々に全面に広がり色ムラがなくなれば，またカルパーを入れる。その状況はコーティングマシンの前から２～３m離れて見るとよくわかり，カルパー投入のタイミングがつかみやすい。 ④カルパーを全量入終えた後，少量の水を噴霧して２～３分回転を続け，種もみ表面をよく締める。コーティング作業は乾燥種もみ10kgを処理するのに約20分を要す。 ⑤コーティングした種もみはむしろやゴザなどの上に広げて**“陰干し”**する。種もみの表面が白くなり乾燥したら網袋に入れ風通しのよいところでムレないように保存する。 ⑥ほ場への種もみの運搬も網袋を使用する。 ⑦コーティング種もみはじゅうぶんに表面を乾燥させる。 ⑧コーティングマシーンに付着したカルパーなどは使用後完全に取除く。	①カルパーの袋ははさみで切り，袋を両手で持って袋の先端を皿底部のもみの流れの中に差し込み，袋をもみながらカルパーを流し込むと粉が立つのを少なくできる。 ②一度に多量のカルパーを入れると種もみへの付着力が弱くなり，薬剤が種もみから剝げやすくなる。また，種もみの粒揃いも悪くなり，播種時の繰出し量が不安定となる。 ③噴霧する水の量が多いと種もみが数粒くっついた塊となる。少しでもこのような種もみができた場合には，一度水を止めカルパーを入れる。なお塊は手でバラバラにもみほぐして単粒にする。 ④よくコーティングされた種もみはカルパーがしっかりと付着し，外観がやや丸みのあるペレット状になる。手にとっても粉が手につかず播種時のはく離もおきず出芽苗立ちが安定する。 ⑤コーティングした種もみを乾燥するときは，時々混ぜながらムレないように注意して行なう。 ⑥通気性のないビニール袋や肥料袋は種もみがムレやすいので使用しない。 ⑦コーティング種子の表面がじゅうぶん乾燥していないと，播種機のトラブルの原因となり連続欠株などを起こすことがある。 ⑧付着したままにしておくと次のコーティング時にもみがスムーズに流れない。
6. コーティングはいつやればよいか。コーティングしたもみはいつ使えるか。	①播種日の前日の午前中にするのが基本である。 ②条件によって播種が遅れる場合でも３～４日以内に使用する。それ以上おいたものは絶対に使用しない。	①播種直前にコーティングして水分が多く乾燥していないものは，播種機のもみの流れが悪く均一に播けないので使用できない。 ②長期間おいたものは乾燥してコーティングがはく離し，播種機の目詰まりを起こし均一に播けない。また催芽したもみの水分も減少し，出芽不良となる。
7. カルパーと他の農薬を同時にコーティングしても良いか。	①タチガレエース粉剤を乾籾重の３％，混合コーティングする。	①低温条件下などではタチガレエースを混用すると，根の生育を促進し，出芽，苗立ちの安定化に有効であるので積極的に使用すると良い。

◆播種について

作　業　項　目	どうする → 栽培法の内容	な　ぜ → 留　意　点
1. 種まきの時期の決め方は。	①安全な播種時の早限は，日平均気温が15℃以上になる時期。 ②播種期の晩限は成熟期が移植より７～10日遅れることを考慮し，品種の早晩と合わせて地域ごとに決める。	①低温時に播種すると，出芽までに日数もかかり，出芽率の低下，生育が不均一になる。 ②イネミズゾウムシなど病害虫の多発する時期をさけるよう考慮する。
2. 播種量はどの位が適当か。	①塩水選後の乾籾で10アール当り３～４kgとする。 ②一般に寒地や暖地の早期栽培は多く，暖地ではやや少なくなる。	①出芽率70～80％以上で１m当り25～30本，１m^2当り60～100本の苗立ちを目標に，１m当り35～45粒播きが目安。
3. 正確な播種作業のための注意点は何か。	①必ず事前に目標の播種量となるように繰出し量の調節をする。 １m間の粒数をチェックする。 ②気温などの条件に合わせて調節する。 ③作業中はホッパの種もみ残量や，パイプのもみの落下状況に気をつける。 ④パイプの先端部の泥詰まりや作溝部の爽雑物の付着にも注意する。	①播種ムラや落下トラブルで連続欠株になったり，播種量に変動があると収量にも関係するので，繰出し精度のチェックが大切である。 ②泥詰まり，爽雑物のひきずりは播種ムラ，連続欠株の原因になる。 ③連続欠株が30センチ以上になると補植が必要になる。 ④その他，機械の取扱説明書どおりに操作する。

■栽培・管理について

◆出芽までとその後の水管理

作業項目	どうする → 栽培法の内容	なぜ → 留意点
1. 播種後の水管理はどうするのか。	①播種後，落水状態のまま田面にヒビが入る程度まで固める。 ②出芽が始まれば湛水する。	①本直播装置のふく土方式は落水出芽法に適しており，カモの害を防ぎ，苗立ちも安定する ②芽干しも表土はく離，藻などの発生を抑える。
2. 出芽後の田干しは必要か。また表土はく離や藻の発生を抑えるのには。	①稲が４～５葉期になった頃，落水してやや強く田干しする。 ②早めの田干しで，表土はく離を抑える。	①移植より倒伏しやすく，また過繁茂無効分けつが多くなりやすいので強く中干しをして根の土中への伸長を促す。 ②出芽苗立ちが不良で茎数が不足するときは中干しは控えめにする。

作業項目	どうする → 栽培法の内容	なぜ → 留意点
1. 直播は雑草に困るというが，いつ，どんな除草剤を使えばよいか。	①播種直後から３日以内に（雑草発生前）にサンバード粒剤又は，パイサー粒剤を散布するのは良いが残効が短いのでサンバードを省き出芽揃にサンウエル１キロ粒剤を使用する。 ②２回目は田干し後湛水してヒエの３～５葉期にクリンチャー又はキツクバイ粒剤，クリンチャーバス粒剤のいずれかを散布する。 ③それでも雑草が残ったときは，中干し前にクミリードＳＭ粒剤を散布する。	①播種後のサンバード粒剤は，芽干し田干しで効果がなくなるので，サンウエルを使い，その後発生して３～５葉期になったヒエを枯らすクリンチャー粒剤などとの体系処理が必要となる。 ②除草剤使用後は必ず湛水状態を保つ。 ③各都道府県の防除基準を守る。

◆病害虫防除，鳥害防除，倒伏対策

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
1. 移植に比べて病害虫の発生は多いのか。 その除去方法は。	①シマハガレ病の発生の多い地域では抵抗性品種を利用する。 ②過繁茂になると，モンガレ病が多発するので適期防除する。 ③キリウジガガンボ，イネミズゾウムシ，ドロオイムシは早めに防除する。 ④ジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）は入水後キタジンP粒剤５kg／10アールを散布する。 ⑤イネミズゾウムシはシクロサールUなどを水面施用する。	①各病害虫とも都道府県の病害虫防除基準に基づき，早期発見早期防除する。 ②キリウジガガンボ，イネミズゾウムシ，ジャンボタニシなどは，出芽期，生育初期に発生すると，かい滅的被害を与えるので，早めに防除する。
2. スズメ，カモなどにやられると困るが。	①防鳥網・テープ・糸などを播種後すぐに張る。 ②集団化すると被害が軽減される。 ③落水出芽，田干しにより，カモ害は軽減される。	①本直播装置は，ふく土するのでスズメの被害は少なく，落水すればカモの害も防ぐことができる。
3. 倒伏しそうになったとき何か打つ手があるか。	①倒伏軽減剤を使用する方法がある。 ②薬剤の種類：ロミカ，セタード，ビビフルスマレクトなど。	①都道府県の防除基準により，指導機関の指導に従う。

◆生育・収量・収穫

作　業　項　目	どうする　→　栽培法の内容	な　ぜ　→　留　意　点
1. 有効茎数，穂数はどのぐらいあれば良いか。	①1m^{2}当り400本～500本の穂数を確保する。 ②主茎１本当り分けつ数７本もあればじゅうぶんである。	①目標収量にもよるがm^{2}当り苗立数が60～80本あればこ程度の穂数はじゅうぶん確保できる。 ②施肥，水管理などの基本を守り過繁茂にならないようにする。
2. 穂は小さくならないか。	①品種によって異なるが， 平均１穂粒数80粒×登熟歩合80％=完全粒数64粒×m^{2}穂数500本=m^{2}32000粒の収量構成となり500kg／10アールの収量になる。	①収量は穂数×１穂粒数×登熟歩合×玄米1000粒重で決まる。 ②穂数が多いと穂は小さくなり，１穂粒数が少ないと登熟歩合は高まるので穂は多少小さくてもよい。
3. 移植並みの収量がとれるか，米質食味も良いか。	①目標の収量構成要素を確保することで，移植なみの収量，品質はあげられる。	①実正テストでは移植より１割程度減収の例もあるが移植より多収の事例もかなりあり，米質，食味も劣らない。
4. 収穫，乾燥調整の注意点は何か。	①一般的に移植に準じて行なう。 ②移植より穂揃いが若干悪い場合があるので刈取り適期に注意する。	①移植より出穂，成熟が７日程度遅れることがあるので，落水が早過ぎないようにする。 ②適期刈りにつとめ，また過乾燥は絶対にさける。

■作業前の準備

警 告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部・直播機・除草機・溝切機）を取外して本機側単独で移動走行（特に傾斜地やあゆみ板の走行）は行なわないでください。

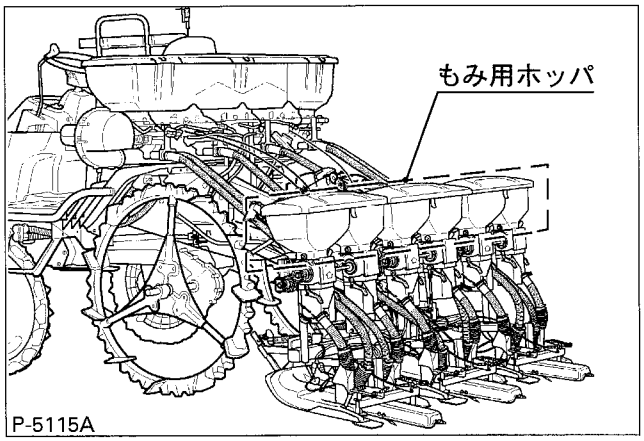
❶ラインマーカをセットします。
（**“田植作業のしかた”**の**“ラインマーカのセット”**の項参照）

❷各部の点検を行ない，汚れや詰まりがあるときは掃除を行ないます。また，破損やブラシの摩耗があるときは交換を行なってください。

❸各レバーのロック状態や各ホースの取付状態を確認します。

❹播種量を設定します。
（**播種量の調節のしかた**の項参照）

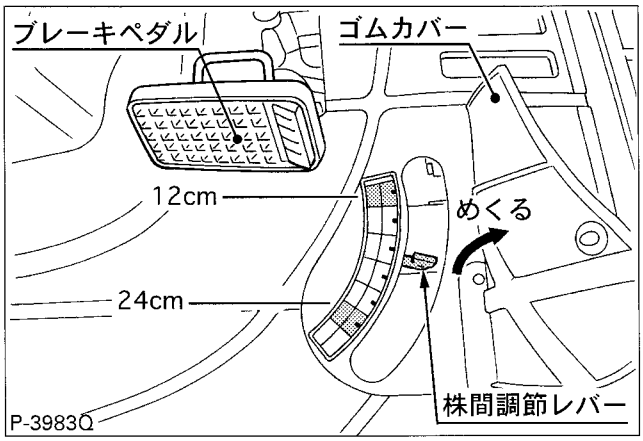
❺ホッパ内に種もみをそれぞれ入れます。



重 要

＊ホッパ内には種もみ以外のものは入れないでください。また，ホッパの上に物を置いたりしないでください。破損の原因になります。

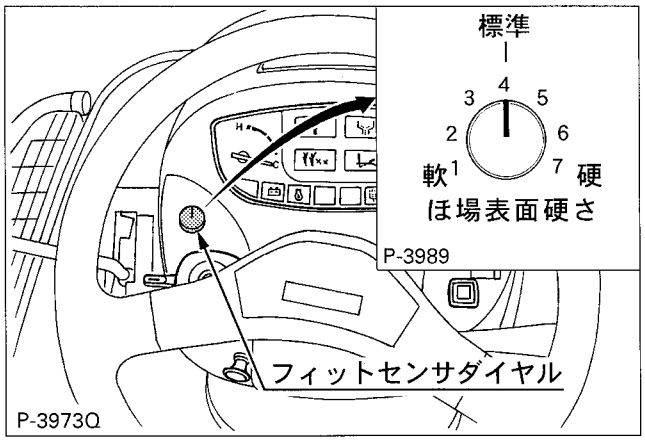
❻ステップ右側のゴムカバーをめくり株間調節レバーを動かして12cmから24cmの間（６段階）から選択し，株間を設定します。



補 足

＊レバーの位置を切替えるときは，主変速レバーと植付クラッチレバーを**“N”**（中立）位置にしてください。

❼フィットセンサダイヤルを**“４”**（標準）位置にします。



❽ホッパに種もみを入れます。

❾播種量を決めます。
（**“作業に合わせた各部の調節・調整”**の項参照）

■直播作業の手順

注　意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。

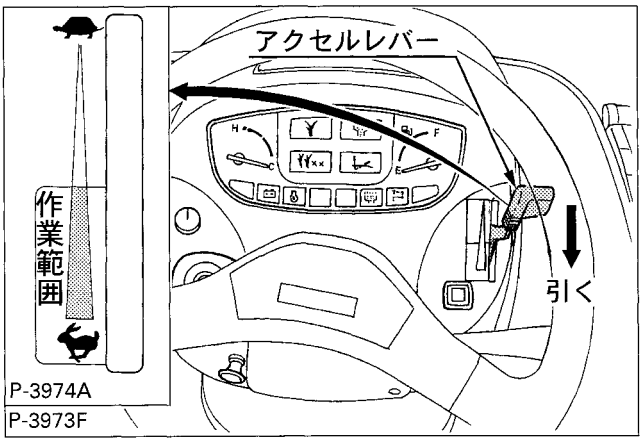
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

重　要

＊副変速レバーを**“路上走行”**位置にして直播作業はしないでください。トラブルの原因になります。

❶ほ場に入ったら平坦な場所で走行を停止します。

❷アクセルレバーを操作して，エンジン回転数を**“作業範囲”**内に調整します。



❸植付クラッチレバー又は，十字ポンパレバーを操作して直播部の駆動準備とラインマーカのセットを行ないます。

（別冊の取扱説明書の**“植付作業の手順”**の項参照）

補　足

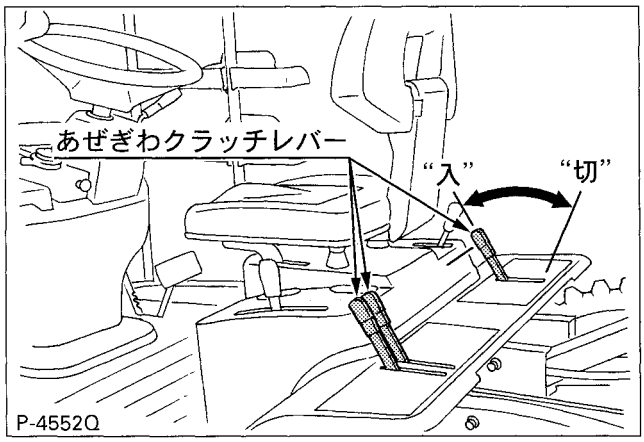
＊直播作業時は，隣接マーカは使用しません。

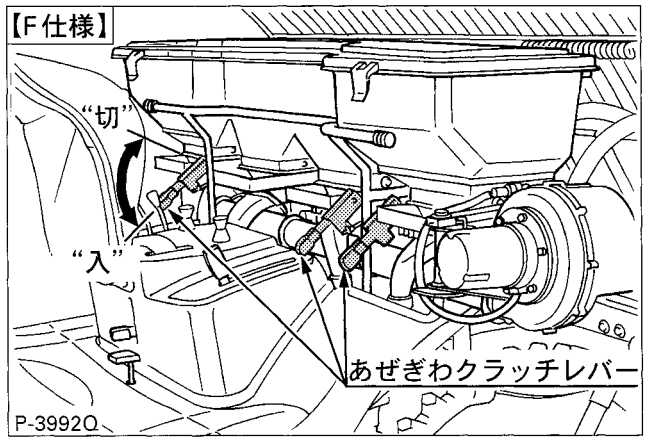
❹副変速レバーを**“圃場作業”**位置にし，主変速レバーを**“前進”**側へ操作して試し植えを行ないます。

補　足

＊枕地は，50cm程度オーバラップさせて播種してください。

＊あぜぎわの植付けを行なうとき，あぜぎわクラッチレバーで２条ごとに種もみの繰出しを停止してください。

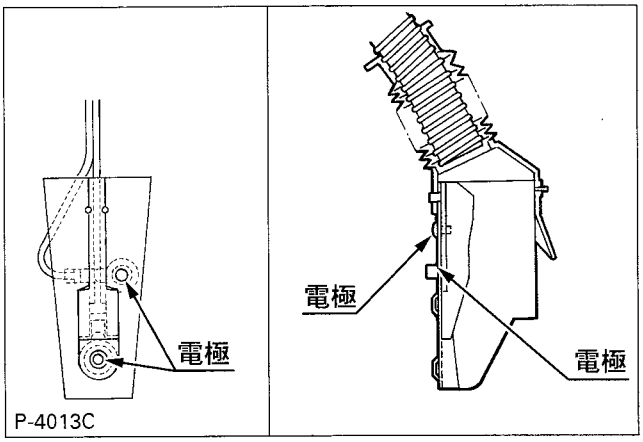




＊枕地は，車輪跡を整地して播種すると，より高精度な播種が行なえます。

◆詰まり予知センサについて

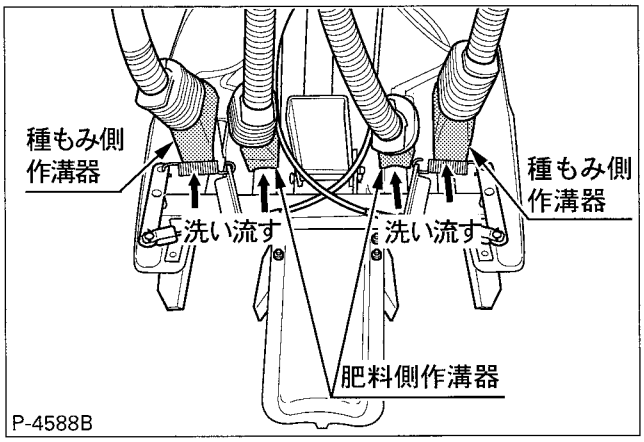
詰まり予知センサは，作溝器内にカルパー粉などの異物が付着して発生する詰まりを予知するセンサです。センサがはたらくと，施肥モニタのランプが点滅すると同時に警報ブザーが鳴ります。警報ブザーが鳴ったときは，作溝器内の異物を取除き，全条の作溝器の点検と掃除を行なってください。



補　足

＊掃除のしかた

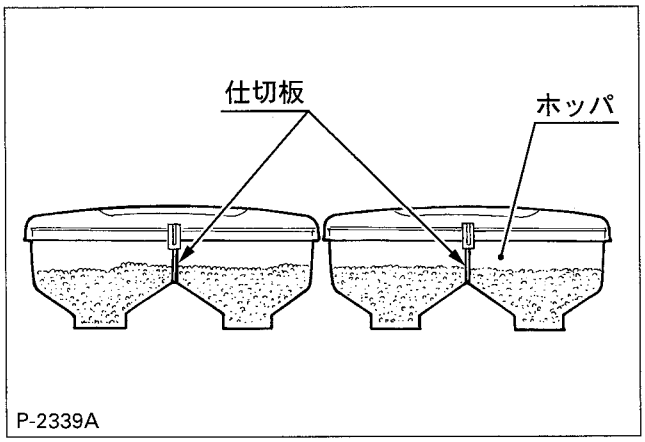
・洗剤の空容器などを利用して水を入れ，センサの部分などに付着したカルパーを洗い流してください。（ホース内はぬらさないこと）



・ランプが消える（ブザーも鳴り止む）と掃除完了ですので，再び作業ができます。

・ついでにランプが点灯していなかった条の点検もしておきます。

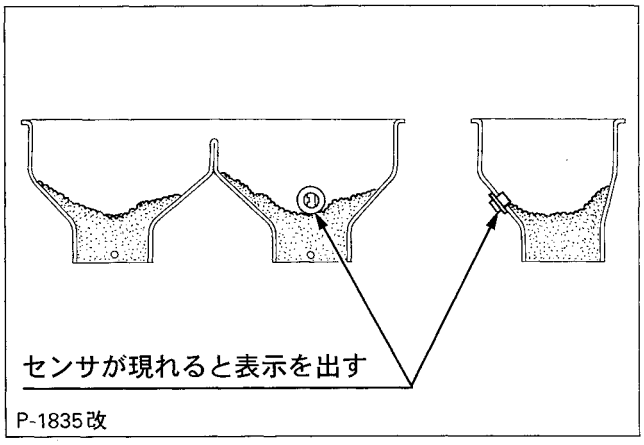
・センサと仕切板付きホッパで，各条の種もみの詰まりや減り具合を確認し，確実な作業を行なってください。



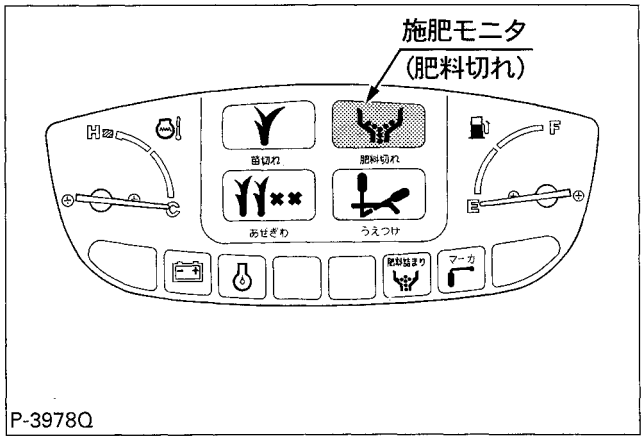
◆種もみ残量センサについて

❶図のようにホッパ内の種もみが少なくなり，センサが現れてくると，パネル**“施肥モニタ”**（肥料切れ）のランプが点滅し，ブザーが鳴ります。

❷警報が出たときは，種もみのホッパを確認したあと，早めに種もみを補給してください。



P-1835改



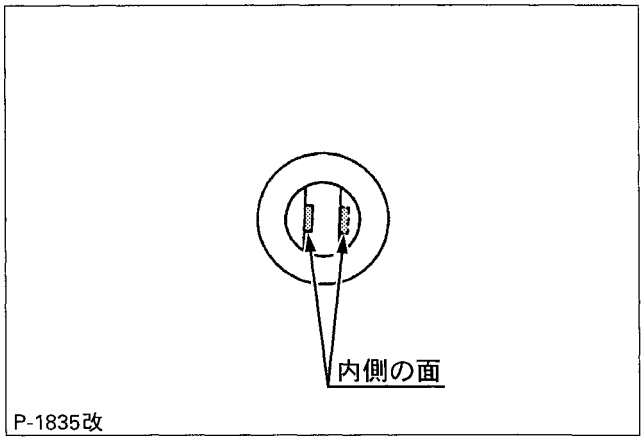
P-3978Q

補　足

＊**【F仕様】**では，肥料切れと兼用していますので，ランプが点滅し，ブザーが鳴ったときは，肥料の各ホッパも確認してください。

＊本直播装置では，２条分のホッパに対し，残量センサ１コを取付けています。種もみは，ホッパ全体に均等に入れてください。

❸時々，センサの内側の面を清掃してください。

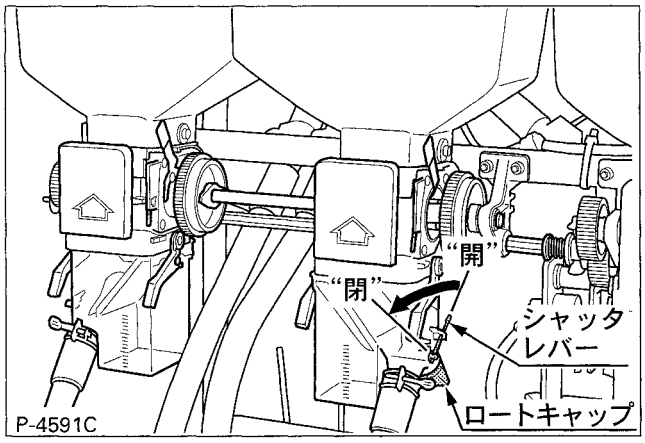


P-1835改

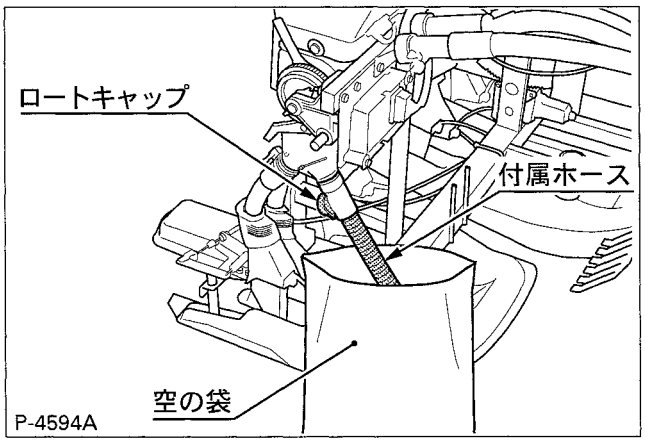
■ホッパ内の種もみの排出のしかた

❶シャッタレバーのロックを**“開”位置**から**“閉”位置**に倒し，ロックをします。

❷ロートキャップを外し，付属ホースをロートに差込み，空の袋などで受けます。



P-4591C

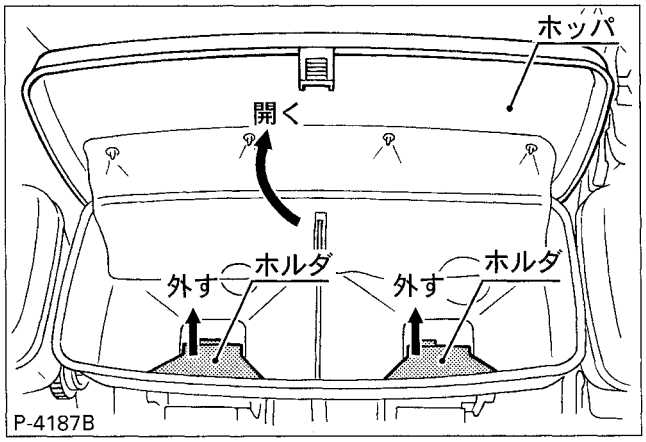


P-4594A

❸ホッパのふたを開き，ブラシのホルダを取外して排出してください。（**メンテナンスのブラシの点検・交換のしかた**の項参照）

補　足

＊付属ホースは，出荷時はホッパ内にあります。



P-4187B

❹排出が終わったらエンジンをかけ，ロールを回し，ロール溝などに残っている種もみを排出してください。

重　要

＊作業後は，必ずもとの繰出し状態にレバー類を戻し，ロックをしてください。

■作業に合わせた各部の調節・調整

1. 播種量の調節のしかた

播種量は，目安表を参照して目標値を設定してください。目標値の設定は，目安表よりロール開度を設定したあと，実際に繰出しテストを行なって再調節を行なってください。

◆播種量調節目安表

播種量の調節：ロール開度の目安表

乾籾：カルパーコーテイング比＝1：2(規定量)		ロールの開度										
株数(株/3.3m²)	50	2.3	2.7	3.1	3.6	4.0	4.5	4.9	5.8			
	②60	2.1	2.5	2.9	3.3	③3.6	4.0	4.4	5.2	6.0		
	70	2.0	2.3	2.6	3.0	3.3	3.6	3.9	4.6	5.3	5.9	
ねらいの播種量 kg／10a		2.0	2.5	3.0	3.5	①4.0	4.5	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0
ねらいの播種量 (粒数／1m)		(24)	(30)	(36)	(42)	(47)	(53)	(59)	(71)	(83)	(95)	(107)
乾籾：カルパーコーテイング比＝1：1	株数(株/3.3m²) 50	2.0	2.3	2.6	3.0	3.3	3.6	3.9	4.6	5.2	5.9	
	60	1.8	2.1	2.4	2.7	3.0	3.2	3.5	4.1	4.7	5.3	5.9
	70	1.7	1.9	2.2	2.4	2.7	2.9	3.2	3.7	4.2	4.7	5.2
		ロールの開度										

【例】

●カルパーコーティング比が１：２のとき

①ねらいの播種量が4.0kg/10a（47粒/1m）のとき②標準株間（18cmのとき：60株／3.3m²）に設定すると，③ロール開度は3.6となります。

補　足

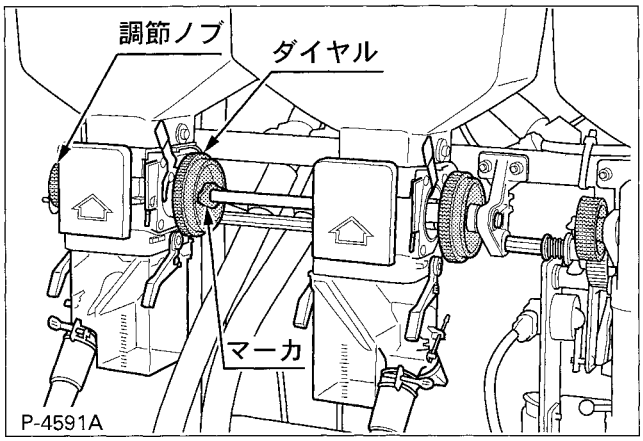
＊この調節方法はあくまで簡易的な方法で，実際には，種もみの形状やコーティング状態及び車輪のスリップ率などにより播種量が変わりますので，実際に路上で１～５m走行しながら播種し，粒数を数える又は，重量を測定して播種量を確認し，目標に合うよう再度播種量を調整してください。

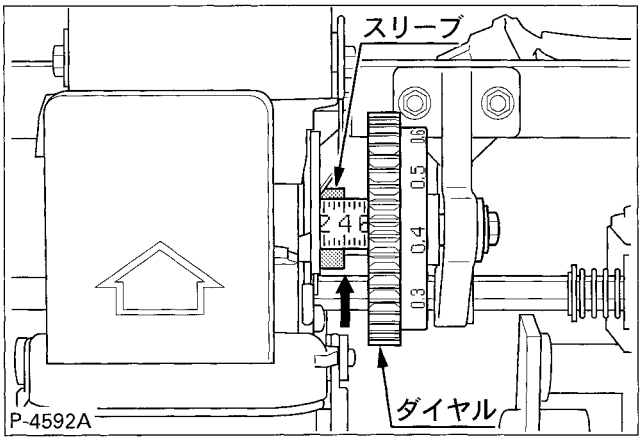
◆ロールの開度の調節のしかた

【例】

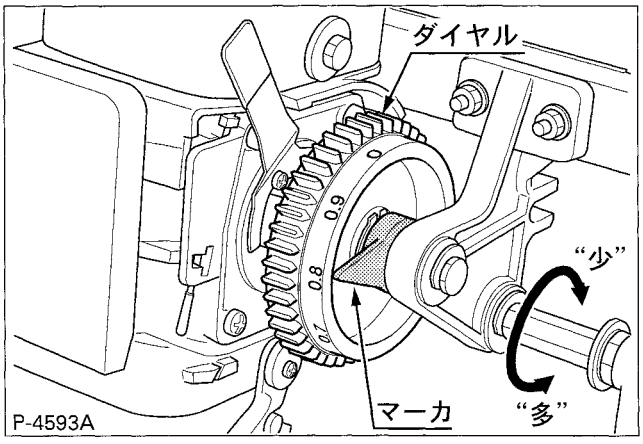
●ロール開度を3.8に１条ずつ合わせるとき

❶調節ノブを持ってダイヤルを回転させて，スリーブの端面を（黒い矢印）目盛の3.5と4.0の間に合わせます。





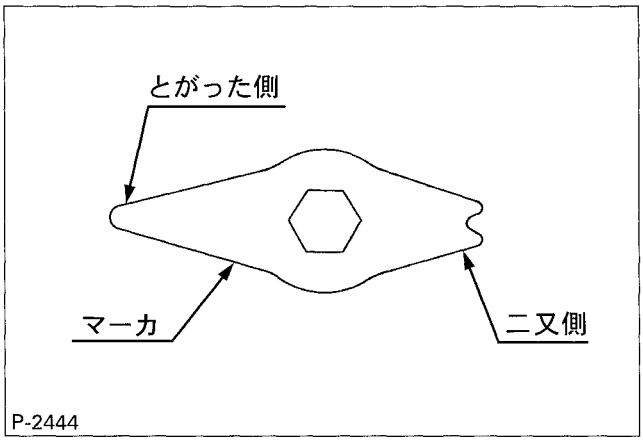
❷次にマーカのとがった方の目盛を0.8に合わせます。



❸これで開度が3.8になります。

【参考】

●マーカはとがった方で目盛を読みますが，マーカの二又の方が手前にきているときは，その数値に0.5をたすか，引くかすると，とがった側の目盛がわかります。



【例１】

二又側が0.3なら0.3+0.5=0.8で，とがった側は0.8を指しています。

【例２】

二又側が0.6なら0.6-0.5=0.1で，とがった側は0.1を指しています。

重　要

＊ロール開度の調節は，開度目盛の目安表に対し少ない目の開度で繰出しテストを行ない，開度を広げる方向に調節してください。種もみを入れたままロールを開いた状態から閉じる方向に調節すると，ロールが破損するおそれがありますので注意してください。

＊種もみを入れた状態で開度を少なくするときは，繰出し停止レバーを回しシャッタを閉めたあと，1回転以上ロールを回し溝の種もみを取除いてから行なってください。

＊実際には，車輪のスリップ率などにより播種量が変わりますので，実際に作業を行ない，播種量及を確認し目標に合うよう再度播種量を調節してください。

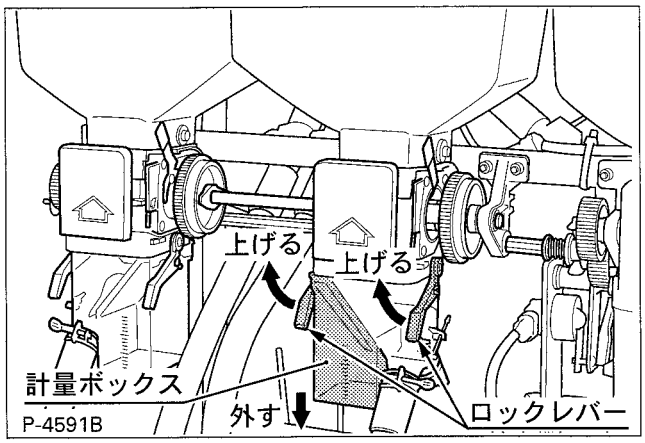
◆繰出しテストのしかた

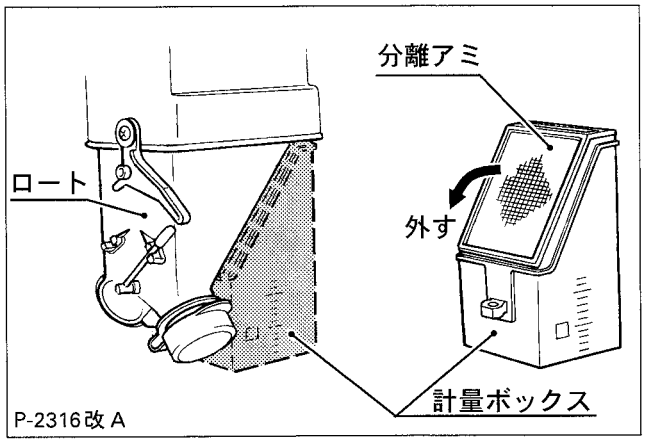
種もみの繰出し量の設定が実際に播かれる量と差がないか繰出しテストを行ないます。差があるときは，ダイヤルで再調節を行ない，目標通りの繰出し量にしてください。

❶ホッパに種もみを入れます。

❷ロールケース下側の左，右のロックレバーを上げて解除します。

❸計量ボックスを取外したあと，分離アミを取外します。





❹計量ボックスをロートに組付けたあと，左，右のロックレバーを下げて**ロック**します。

❺エンジンを始動したあと，直播装置を地面から約20～30cmの高さにします。

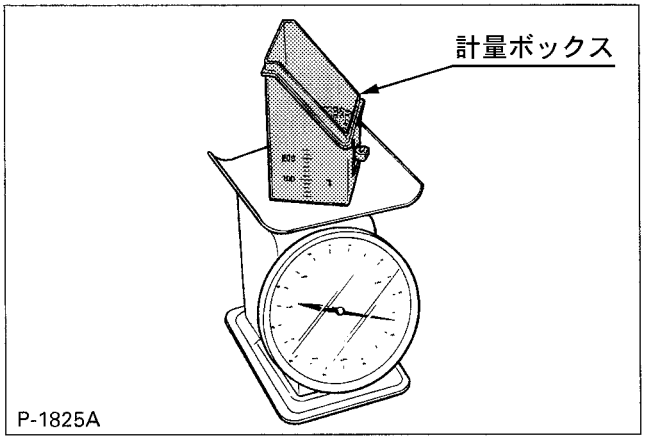
❻油圧をロックして直播装置の下降防止を行ないます。

❼植付けクラッチレバーを**“入”位置**にします。

❽副変速レバーを**“ほ場作業”位置**にしたあと，主変速レバーを前進側に操作します。

❾1m走行したあと走行を停止し，エンジンを停止します。

❿計量ボックスを外して重量を計ります。計量ボックスの重量を差引いて，種もみの実重を測定します。

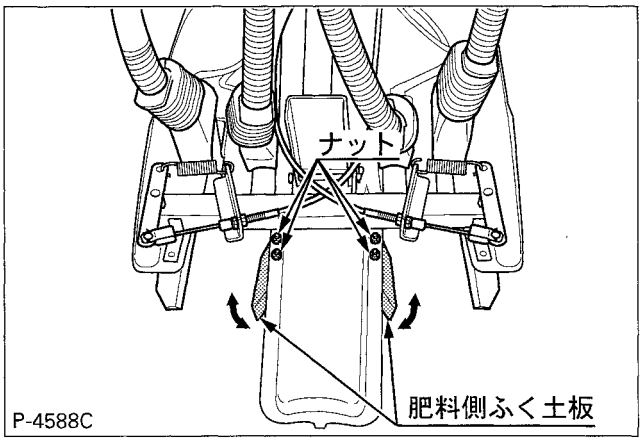


⓫この実質繰出し量と目標繰出し量を比較し，播種量を再度調節します。
このときブラシなどのバラツキにより，全条同じ開度目盛にならない場合があります。

⓬繰出し量が決まったら，計量ボックスに分離アミを付けて，ロートに組みロックレバーでロックします。

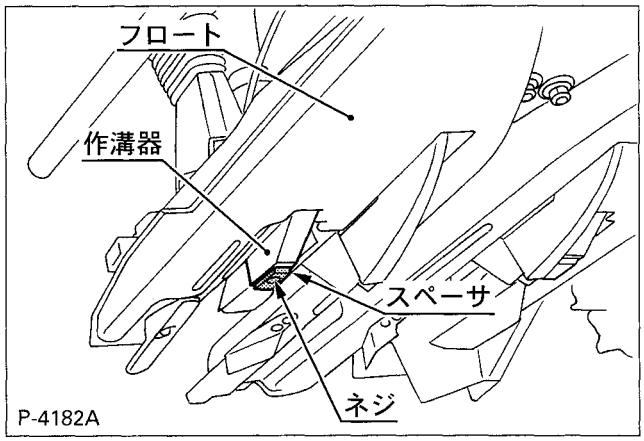
2. 肥料側ふく土板の調節【F仕様】

ほ場の硬さに応じてふく土板の角度を調節してください。調節を行なうときは，ナット２個をゆるめてください。



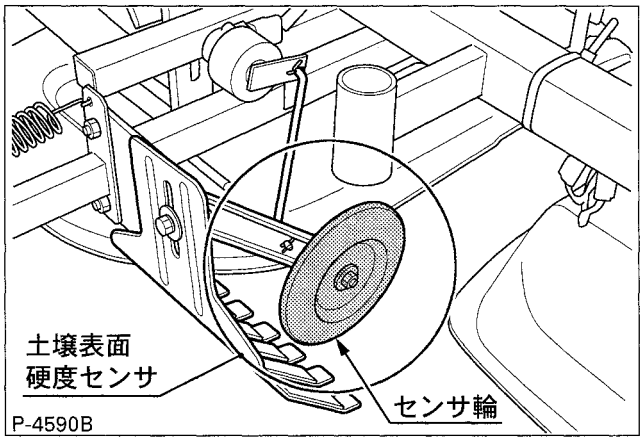
3. 播種深さの設定

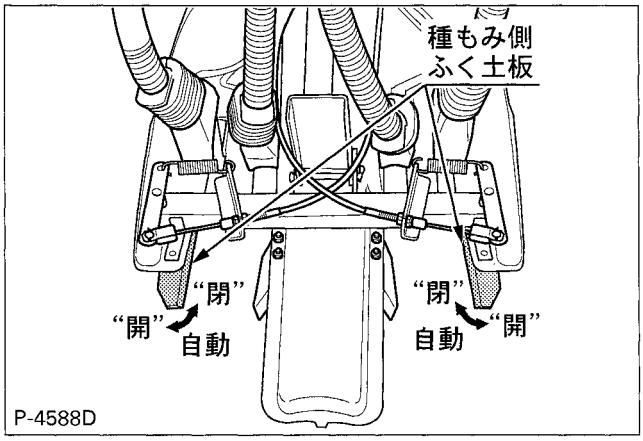
地域の気象条件などにより，播種深さを**“浅め”**（平均７mm），**“深め”**（平均10mm）のどちらかに設定します。種もみ側作溝器のスペーサを取外すと**“浅め”**，取付けると**“深め”**の設定となります。また，播種深さの設定は全条同じ深さに設定してください。



4. 土壌表面硬度センサと種もみ側ふく土板の調節

種もみ側ふく土板は，土壌表面硬度センサによって検出したほ場の硬さに応じて自動的に制御され，最適なふく土を行ないます。これらがうまつく働かず，種もみがふく土されないときは，次項の処置要領に従って調節をしてください。





播いた種もみがふく土されず，露出して見える。

播種装置の走行した跡に溝ができていますか。

できていない

播種装置を降ろして走行したとき
フロートの押さえが不足し，
作溝できていません。

本機のフィットセンサの
ダイヤルを回して
押さえを強くします。
（フロートの押さえは
直播装置の土壌表面硬度センサとは
連動していません。
ほ場の硬度に応じて
本機側で設定する必要があります。）

ダイヤルを調整して作溝ができましたか。

作溝できない

ほ場が硬すぎます。
走り水程度の水を入れて
播種作業を行ないます。

作溝できた

それでも
ふく土できなければ…※へ

できている　※

作溝はされるがふく土しない。

土壌表面硬度センサとふく土板が
連動しているかをチェックしてください。

播種装置を上げて硬度センサを手で動かし，
ふく土板が動くかを確認します。
センサ輪（表面硬度センサ）を持上げると
ふく土板が閉じる方向へ，
センサ輪を下げると
ふく土板が開く方向へ動きます。

ふく土板がセンサに連動して動きますか。

動かない

ヒューズが切れていないか，
カプラが外れていないかなどを
チェックしてください。

動く

ふく土板は動くが，
ほ場に降ろすとふく土板が閉じない。

センサ輪がスムーズに動いているか
確認してください。

除草作業のしかた

警　告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部，直播機，除草機，溝切機）を取外して本機側単独で移動走行（特に傾斜地やあゆみ板の走行）は行なわないでください。

1. 除草作業の前に

(1)除草時期について

除草時期は，地域，ほ場によって異なりますので苗が活着したら，直ちに１回目の除草を行なってください。草が目で見てわかるほどの大きさになってからでは，じゅうぶんな除草効果を上げることができません。

目安としては，１回目…… 田植後７～10日
２回目…… 除草後７～10日
３回目…… 除草後７～10日です。

重　要

＊機械除草作業が全て終了するまでは，ほ場を干さないようにしてください。ほ場が硬くなり，除草効果が悪くなったり，除草機の故障にもつながります。硬くなったほ場では除草機を使用しないでください。

(2)適応ほ場について

この除草機は６条又は８条で田植えしたほ場で使用できます。田植条数に合わせて６条又は８条の除草機を使用してください。

また，除草作業時の水深は３～５cm位にしてください。

水が少ないと車輪による泥の持上げが多くなり，埋没苗が出ます。

水が多すぎると苗の位置がわかりにくくなります。

(3)除草機の運搬について

除草機をトラックで運搬するときは，荷台から20cmほど持上げた状態で油圧をロックして，運搬中に除草機が動かないように除草機を上からロープで軽く押さえてください。

また，８条除草機は，左右のロータ，延長カバー，延長ツースを取外して運搬してください。

2. 除草作業のしかた

(1)作業スピードについて

- アクセルレバーは**“作業範囲”**の最低速位置で使用します。
- 副変速レバーは**“圃場作業”**で使用します。

重　要

＊作業速度は，３段階目以下（約0.6m/秒）で作業してください。これ以上のスピードでは苗傷みが多くなります。また，除草機の往復揺動部分が破損するおそれがあります。

＊30cm以上の深いほ場では，車輪による土の持上げにより苗が埋没する場合があります。スピードをさらに落として土の持上げを少なくしてください。

(2)株間変速について

株間変速は16cm又は18cmで使用してください。

(3)油圧感度調節（フィットセンサダイヤル）について

除草作業では，フィットセンサダイヤルは**“標準”**位置で使用してください。

補　足

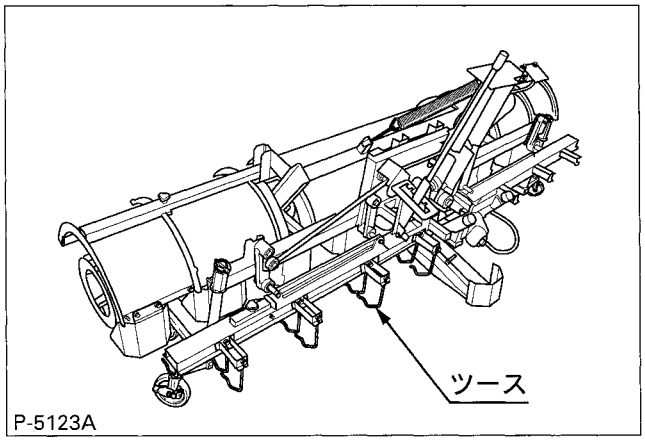
＊フィットセンサダイヤルを操作することによって除草深さの微調整ができます。**“軟”**側にすると浅く，**“硬”**側にすると深くなります。

(4)除草深さ調節について

除草深さは４段階に調節できます。最初は**“浅”**側から作業を開始して作業状態を見ながら，調節してください。

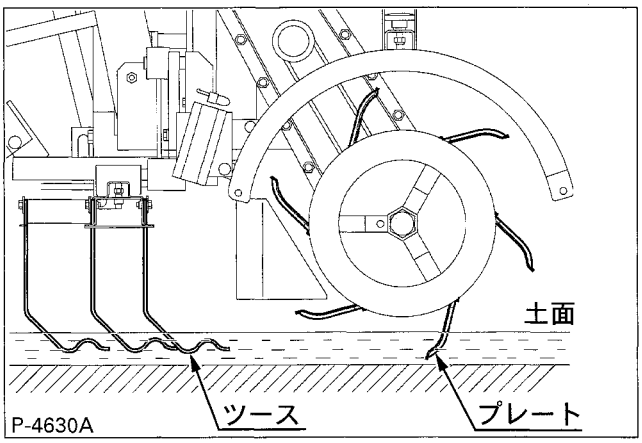
重　要

＊除草作業は１シーズンに２～３回行ないますが，１回目は苗が小さいので，浅めの除草を行なっています。特に株間ツースによる苗傷みがないか確認しながら作業してください。苗の活着が悪いときは，株間ツースを外して作業してください。



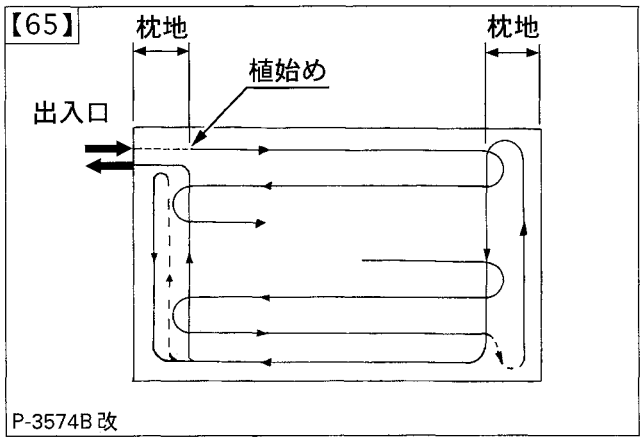
補　足

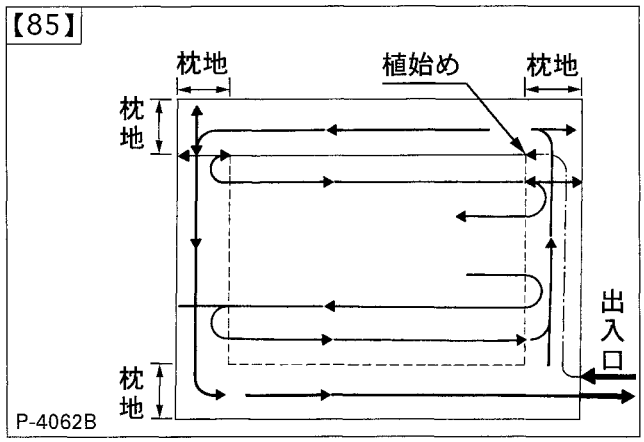
＊除草深さは，ロータカバーが土を押さない程度が限界です。また，株間ツースは3cm程度の作用深さが限界です。株間ツースの作用効果を上げるためにも，早い目の除草を行なってください。



(5)除草作業の注意点について

● 除草作業は田植作業と同じ要領で行なってください。



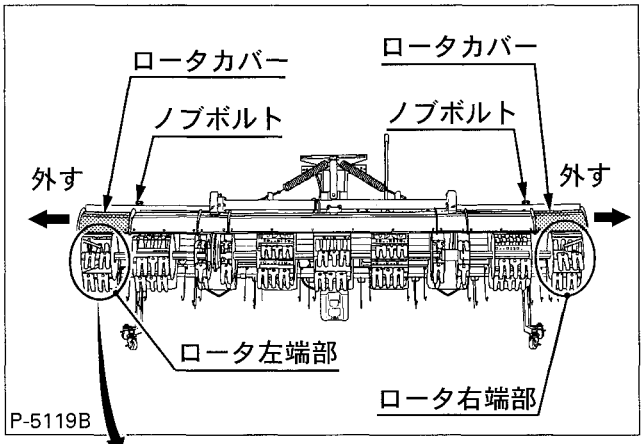


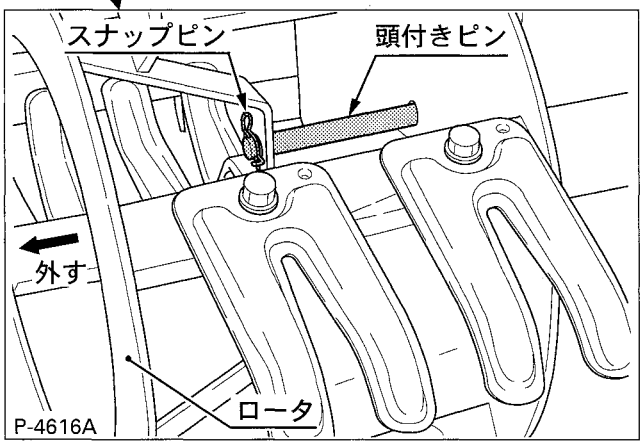
補　足

＊田植機本機編の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照。

● 作業は田植機が通った所と同じところを通って作業するようになります。目印がないため，隣接条の位置を確認して旋回してください。

● 隣接条間が狭いときは，両端の狭いロータは頭付きピンを抜いて取外してください。極端に隣接条間が狭くならないように田植作業時，注意してください。





(6)条間ロータの取扱いについて

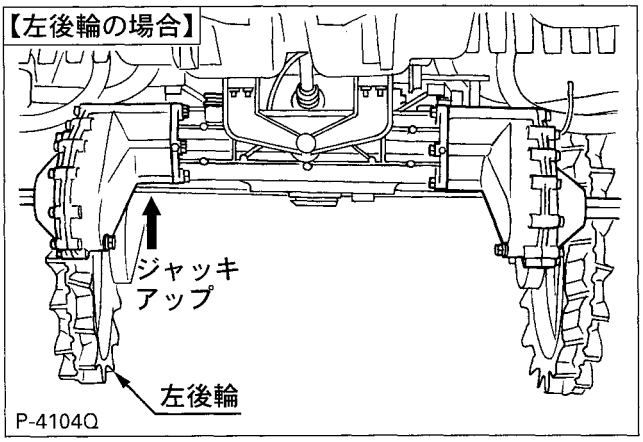
条間ロータの交換，調整時などは必ずエンジンを止めて，ブレーキを掛けて，油圧をロックして作業してください。また，ロータ爪は鋭利な形状になっていますので，手袋を着用し，素手ではさわらないようにしてください。手を切るおそれがあります。

■作業前の準備

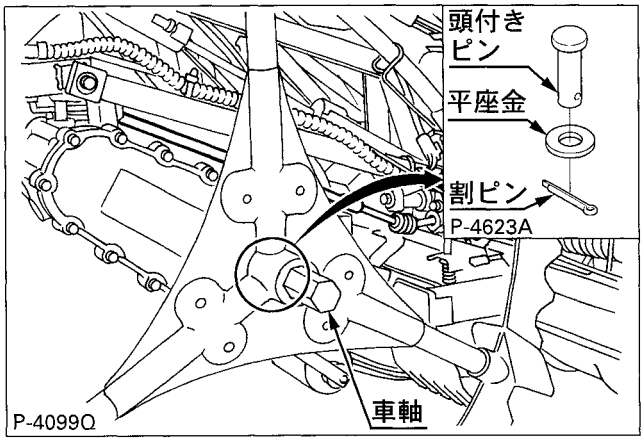
注　意

＊後輪の交換作業は平坦な場所でエンジンを必ず止めてブレーキを掛けてから行なってください。
＊ジャッキをセットするときは，機体が転倒しないよう確実にセットしてください。

❶左右の後輪を除草管理用車輪に交換します。
(1)交換を行なう後輪側の後車軸ケースにジャッキをセットし，ジャッキアップして後輪を地面から少し浮かせます。

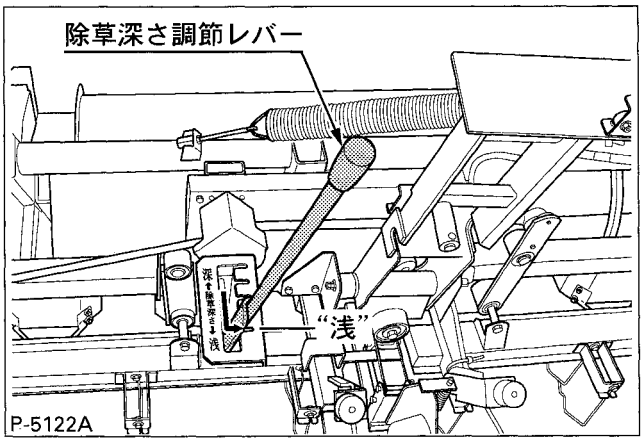


(2)割ピンを取外したあと，頭付きピンと平座金を取外してから後輪を取外します。

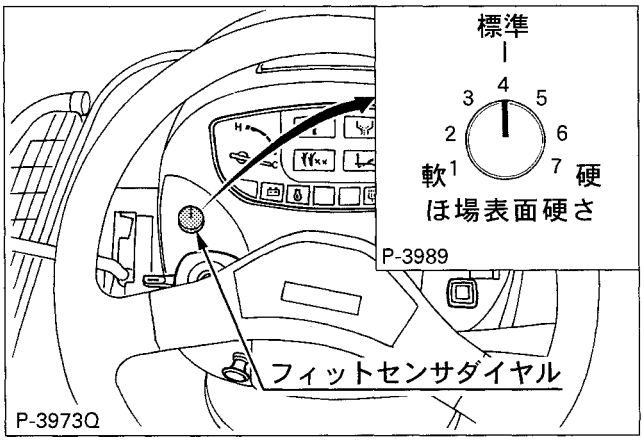


(3)除草管理用車輪を車軸に(2)の工程で取外した頭付きピン，平座金，割ピンで取付けます。
(4)同じ要領でもう片方の後輪を交換します。

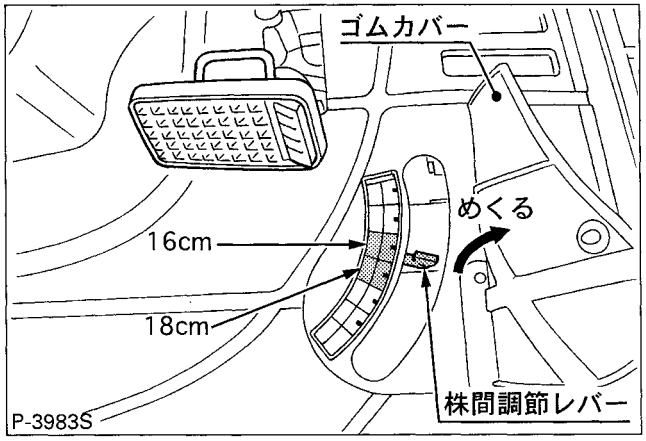
❷除草深さ調節レバーを作業始めは，**“浅”**位置にします。



❸フィットセンサダイヤルを**“4”**（標準）位置にします。



❹運転席右下にあるゴムカバーをめくり，株間調節レバーを16cm又は，18cmの位置で使用します。



レバー位置		Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	Ⓓ	Ⓔ	Ⓕ
株間 (cm)	標　準	12	14	16	18	21	24
株　数（株/3.3m²）		90	80	70	60	50	45

補　足

＊株間調節については，別冊の取扱説明書の**“作業に合わせた各部の調節・調整”**の項を参照してください。

■除草作業の手順

注 意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。

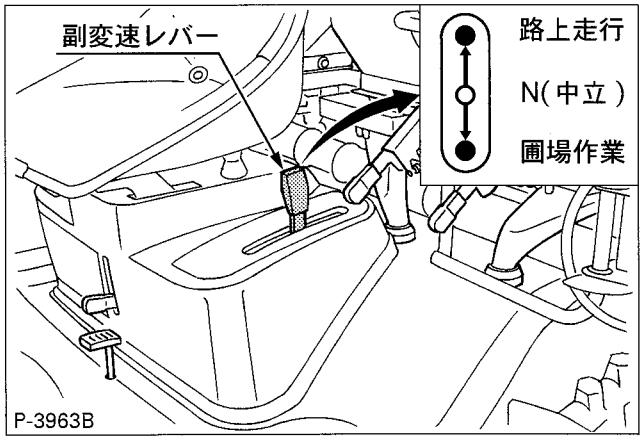
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

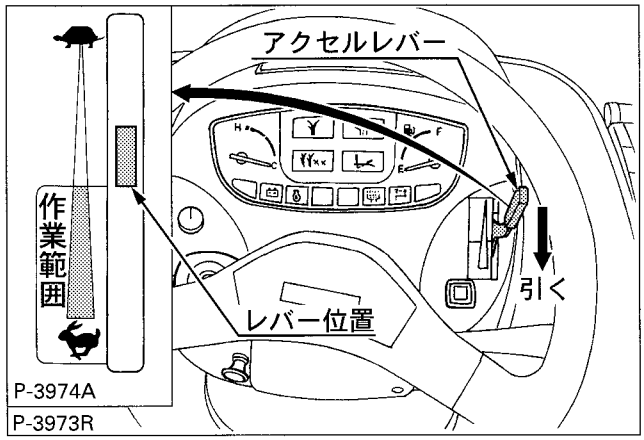
重 要

＊副変速レバーを**“路上走行”**位置にして除草作業はしないでください。トラブルの原因になります。

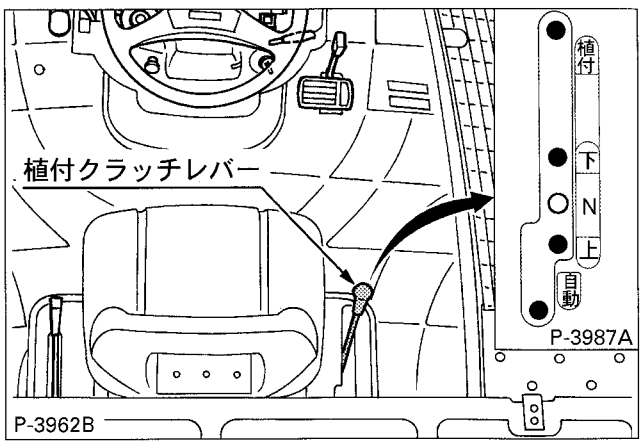
❶ほ場に入ったら平坦な場所で走行を停止します。

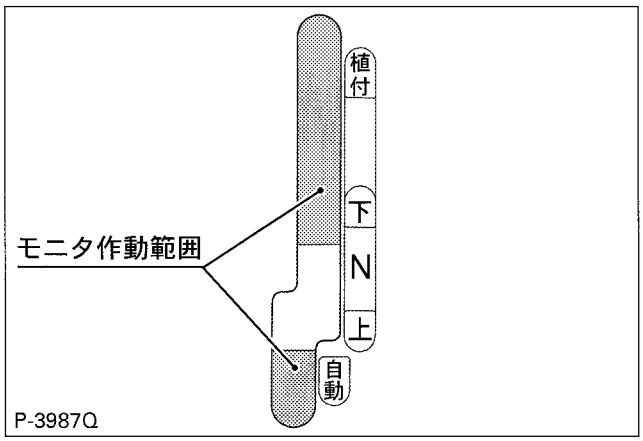
❷副変速レバーを**“圃場作業”**位置，アクセルレバーを**“作業範囲”**内の最低速位置にします。





❸植付クラッチレバーを**“植付”**位置にして除草機を降ろします。

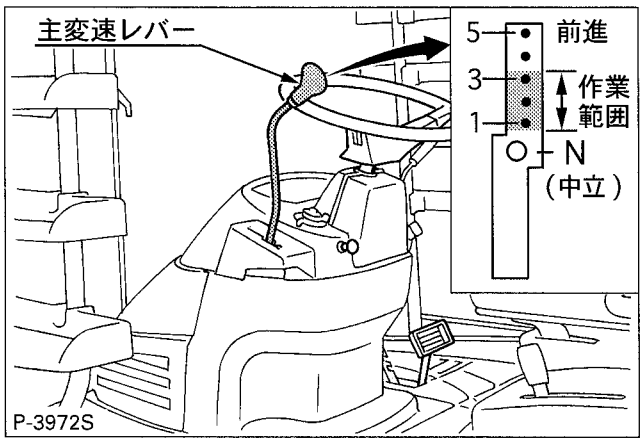




❹主変速レバーを前進側に操作すると除草を行ないます。このとき，主変速レバーで変速できる５段階の範囲内の１～３段階の範囲内で作業を行なってください。

重 要

＊除草機には，無理な荷重がかかったときに動力系を保護する安全クラッチが入っています。
高い回転で除草機を回したり，硬いほ場で使用すると，**“バン！”**という音がして安全クラッチが作動します。できるだけ安全クラッチが作動しないよう，除草機を降ろしてからゆっくり前進して作業を始めてください。



補 足

＊作業速度は，３段階目(約0.6m/秒)よりも上にしないでください。苗傷みが多くなります。

＊除草作業時は，ラインマーカ及び隣接マーカは使用しません。

■除草作業と旋回のしかた

1. 除草時期について

除草時期は，地域やほ場によって異なりますので苗が活着したら，直ちに１回目の除草を行なってください。草が目で見てわかるほどの大きさになってからでは，じゅうぶんな除草効果を上げることができません。

◆除草時期の目安

１回目 ……田植後７～10日
２回目 ……除草後７～10日
３回目 ……除草後７～10日

重　要

＊機械除草作業が全て終了するまでは，ほ場を乾かさないようにしてください。ほ場が硬くなり除草効果が悪くなったり，除草機の故障にもつながります。

2. 除草作業と旋回のしかたについて

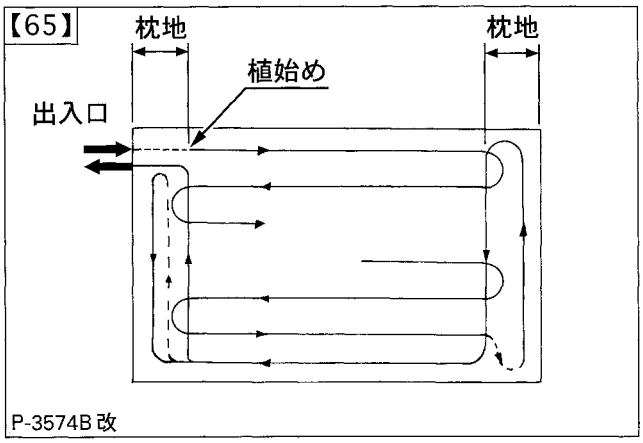
除草作業は，田植作業や直播作業を行なった手順の工程通りに（別冊の取扱説明書の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照）作物を踏まないように行なってください。

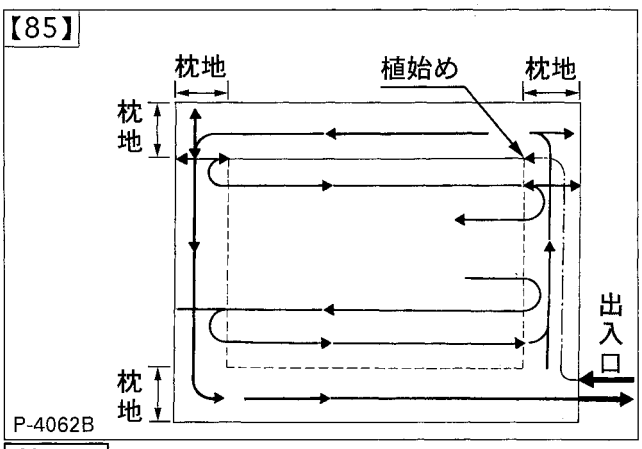
重　要

＊旋回を終わって次の工程に入ったら，機体を進行方向に真直ぐにしてから除草機を降ろしてください。機体が真直ぐになっていないと，作業始めの苗の損傷が多くなります。

◆除草作業の注意点について

●除草作業は田植作業と同じ要領で行なってください。



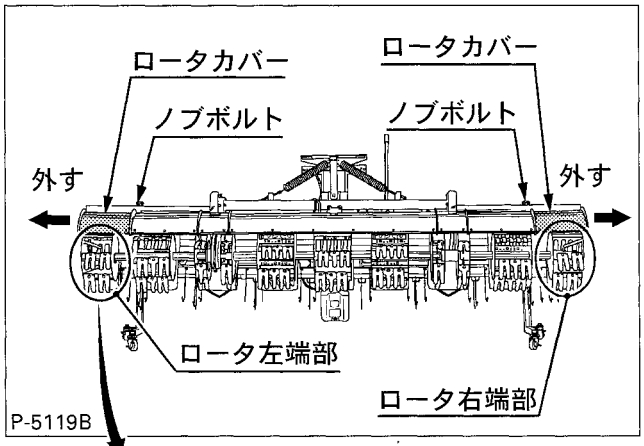


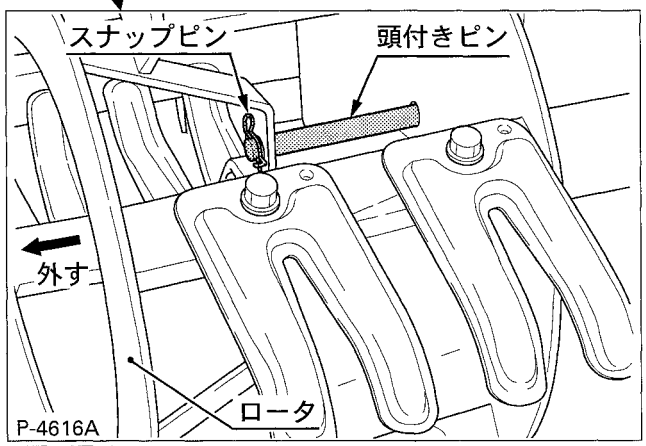
補　足

＊田植機本機編の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照。

●作業は田植機が通った所と同じところを通って作業するようになります。目印がないため，見にくいですが隣接条の位置をみて旋回してください。

●隣接条間が狭いときは，両端の狭いロータは頭付きピンを抜いて取外してください。極端に隣接条間が狭くならないように田植作業時，注意してください。





重　要

＊変形田や条合わせを行なった所は作業条数が合わないので，この除草機では除草作業を行なわないでください。

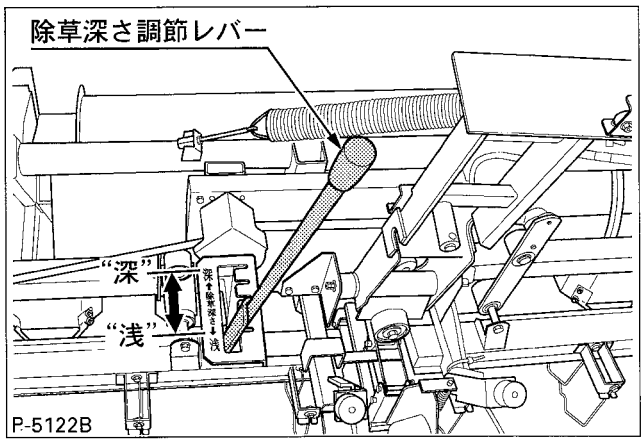
■作業に合わせた各部の調節・調整

注　意

＊平坦な場所で行なってください。

1. 除草深さ調節レバー

除草深さは“浅”から“深”まで４段階に調節できます。最初は“浅”側から作業を開始して作業状態を確認しながら，調節してください。

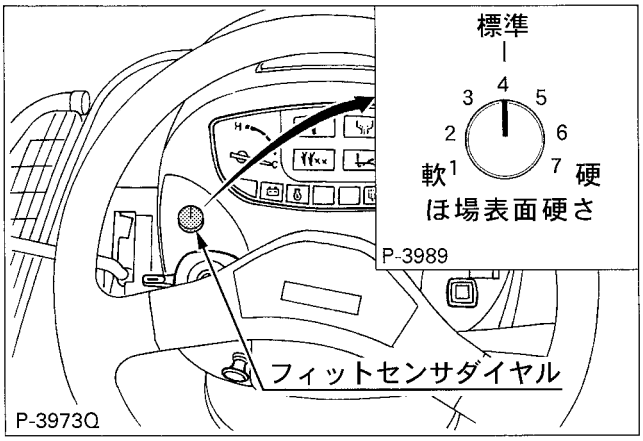


補　足

＊除草深さは，ロータカバーが土を押さない程度が限界です。また，株間ツースは３cm程度の作用深さが限界です。株間ツースの作用効果を上げるためにも，早い目の除草を行なってください。

2. フィットセンサダイヤル(油圧感度調節)

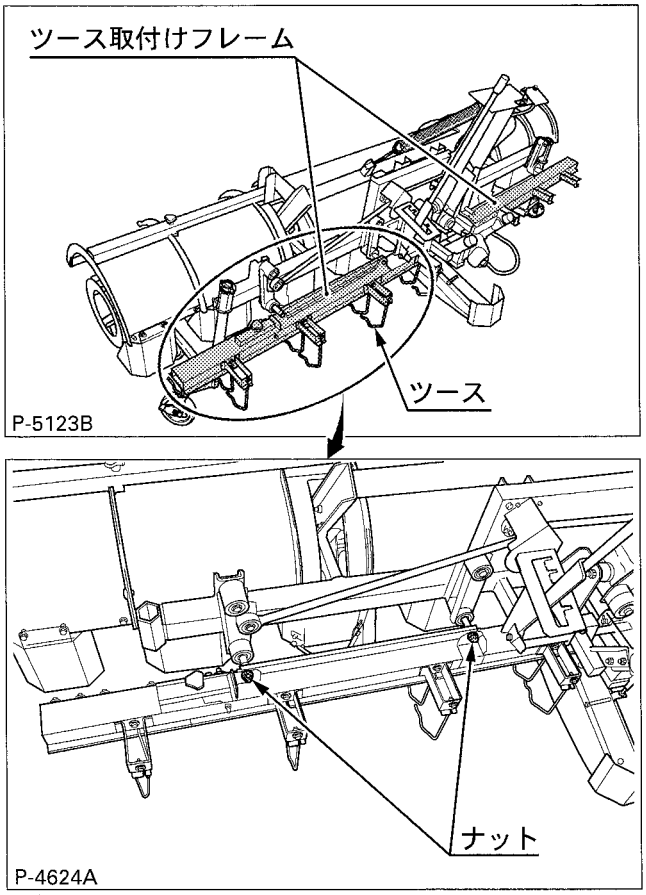
除草作業では，ダイヤルを操作することによって除草深さの微調整が行なえます。ダイヤルを“軟”側にすると浅く，“硬”側にすると深くなります。



3. ツース

苗の活着が悪く，苗傷が発生する場合や，藻などが水面に大量に発生しているときに除草作業を行ない，藻などがツースにからみついて作業が行なえないときは，ツースを取外してください。

取外すときは，左右２カ所のツース取付けフレームのナット２カ所をそれぞれ取外してください。



溝切作業のしかた

警 告

＊転倒による重大事故のおそれがあるため，後部作業機（植付部，直播機，除草機，溝切機）を取外して本機側単独で移動走行（特に傾斜地やあゆみ板の走行）は行なわないでください。

注 意

＊あゆみ板を使うときや前後左右とも10度をこえる傾斜地を走行するときは，速度を最低速にしてください。

1. 溝切作業の前に

(1)溝切時期について

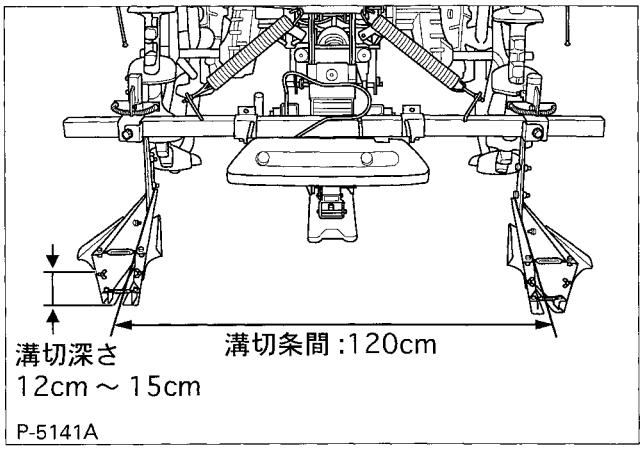
溝切時期は，地域，ほ場によって異なりますがほ場の乾土効果を上げるため目安としては，田植えが終わって約２ヵ月前・後に行なってください。

(2)溝切機の運搬について

溝切機をトラックで運搬するときは，荷台から20cmほど持上げた状態で油圧をロックして，運搬中に除草機が動かないように溝切機を上からロープで軽く押さえてください。

2. 溝切作業のしかた

(1)溝切条数・条間・深さ下記の通りです。



(2)作業スピードについて

- アクセルレバーは**“作業範囲”**の最低速位置で使用します。
- 副変速レバーは**“圃場作業”**で使用します。

重 要

＊作業速度は，３段階目以下(約0.6m/秒)で作業してください。

(3)株間変速について

株間変速は16cm又は18cmで使用してください。

(4)油圧感度調節（フィットセンサダイヤル）について

溝切作業では，フィットセンサダイヤルは**“標準”**位置で使用してください。

補 足

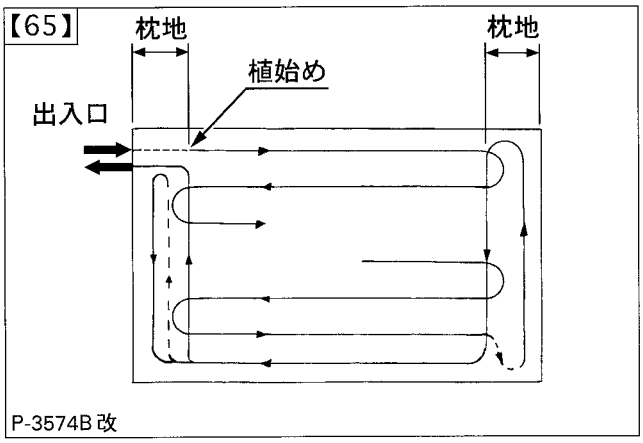
＊フィットセンサダイヤルを操作することによって溝切深さの微調整ができます。**“軟”**側にすると浅く，**“硬”**側にすると深くなります。

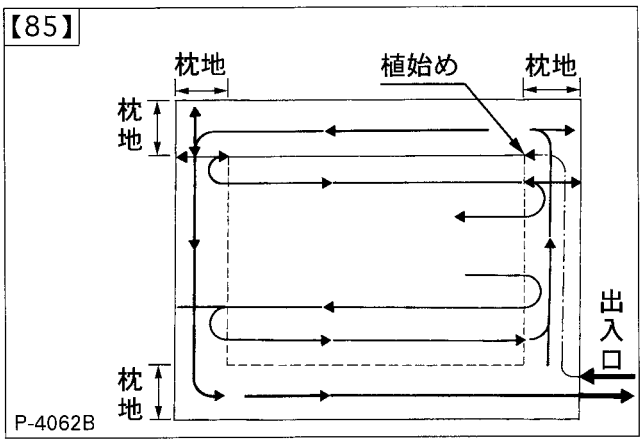
(4)溝切深さと溝切幅調節について

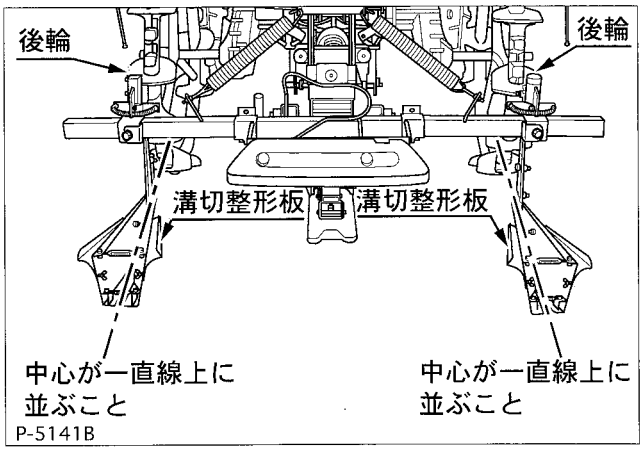
“作業に合わせた各部の調節・調整”の項を参照してください。

(5)溝切作業の注意点について

● 溝切作業は田植作業と同じ要領で行なってください。このとき，後輪の中心と溝切整形板の中心が一直線上に並んだ状態で作業を行ないます。







補　足

＊田植機本機編の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照。

● 作業は田植機が通った所と同じところを通って作業するようになります。目印がないため，隣接条の位置を確認して旋回してください。

■ 作業前の準備

注　意

＊溝切整形板の調整作業は平坦な場所でエンジンを必ず止めてから行なってください。

＊ウエイトの脱着作業は２人作業で行なってください。

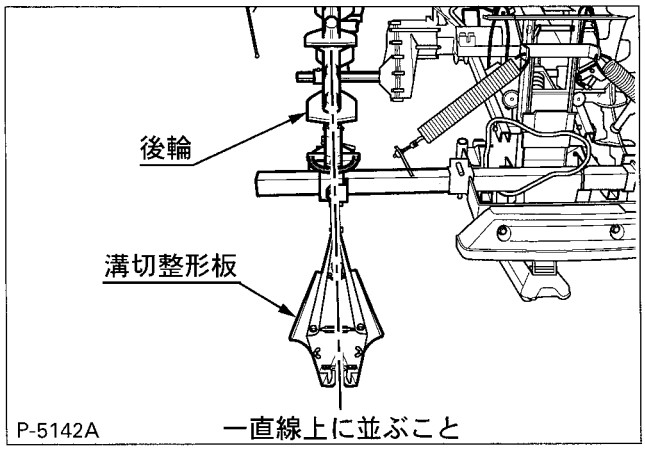
❶溝切機後部にウエイトが装着されていることを確認します。（**“作業機の脱着のしかた”**の項参照）

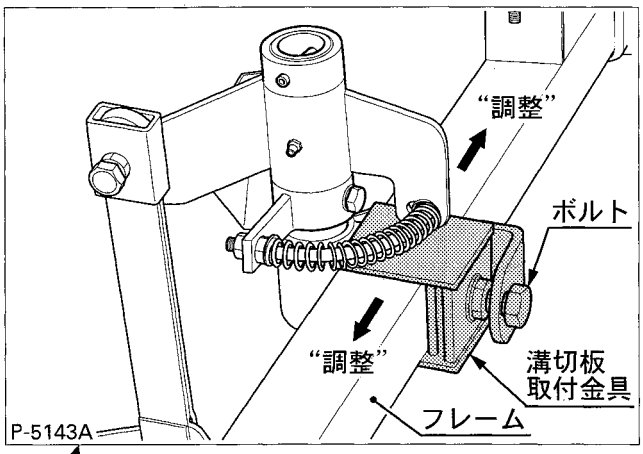
❷溝切り位置の設定を行ないます。

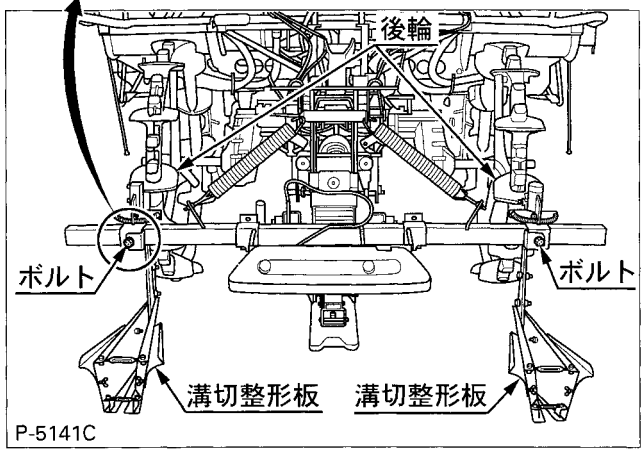
(1)エンジンを始動し，溝切機をいったん上昇させたあと，油圧ロックレバーを**“閉”**位置にし，植付クラッチレバーを**“下”**位置にします。

(2)油圧ロックレバーをゆっくり**“開”**位置にして溝切機を下降させ，地面から少し浮いた位置で**“閉”**位置にし，エンジンを止めます。

(3)左，右の溝切整形板の中心と後輪の中心が一直線に並ぶように溝切整形板を調整します。調整を行なうときは，溝切板をフレームに固定している溝切板取付金具のボルトをゆるめて，左，右に調整したあと，ボルトを締付けます。







(4)もう一方の溝切整形調整板も同じ要領で調整します。

■溝切作業の手順

注 意

＊異常が発生したときは，エンジンを必ず止めてください。

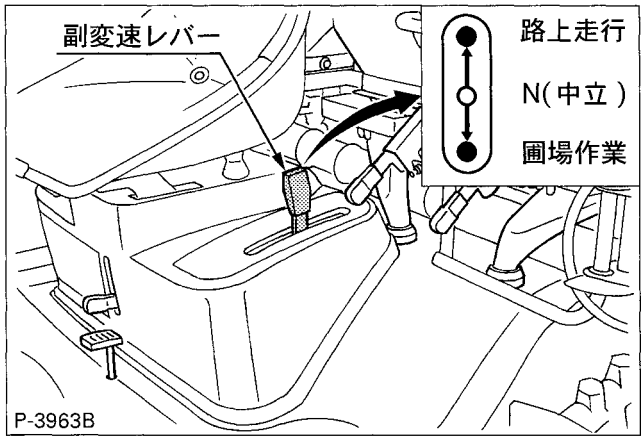
＊小さなほ場や，ほ場のすみでは作業がしにくいので，安全のため低速で注意しながら作業を行なってください。

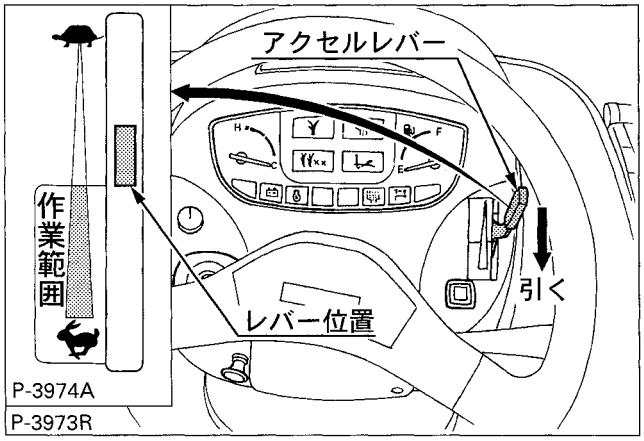
重 要

＊副変速レバーを**"路上走行"**位置にして溝切作業はしないでください。トラブルの原因になります。

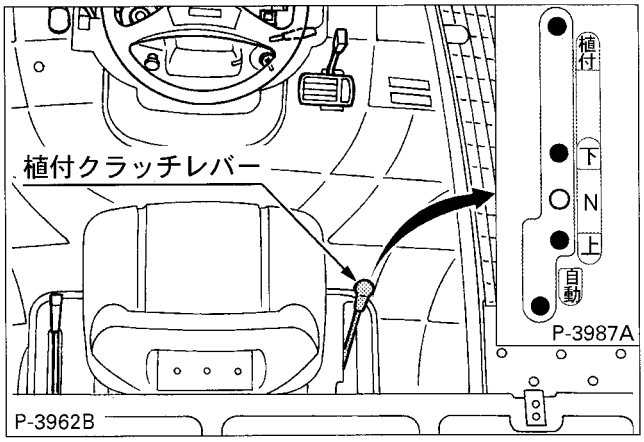
❶ほ場に入ったら平坦な場所で走行を停止します。

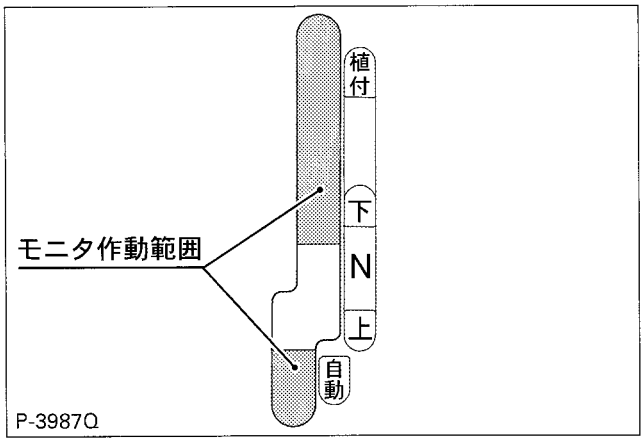
❷副変速レバーを**"圃場作業"**位置，アクセルレバーを**"作業範囲"**内の最低速位置にします。



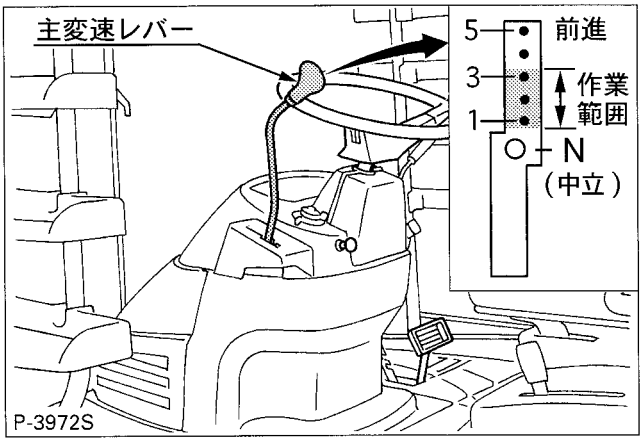


❸植付クラッチレバーを“植付”位置にして溝切機を降ろします。





❹主変速レバーを前進側に操作すると溝切を行ないます。このとき，主変速レバーで変速できる５段階の範囲内の１～３段階の範囲内で作業を行なってください。



補　足

＊溝切作業時は，ラインマーカ及び隣接マーカは使用しません。

■ 溝切作業と旋回のしかた

注　意

＊溝切整形板は左，右とも同じ深さで同じ幅の溝切りを行なうように調整してください。作業中に，左と右の負荷が異なるとハンドルが右又は，左に取られて思わぬトラブルの原因となります。

1. 溝切時期について

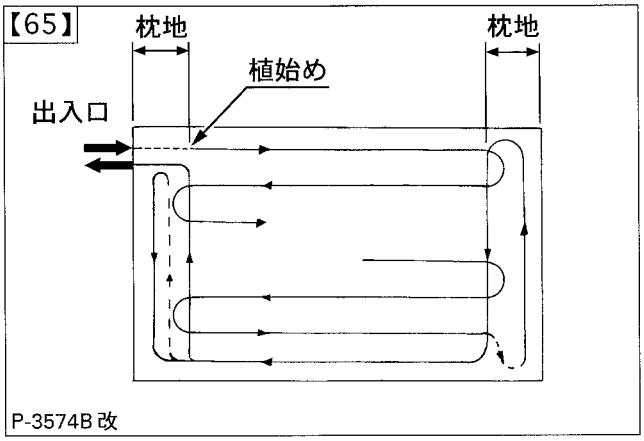
溝切時期は，地域やほ場によって異なりますがほ場の乾土効果を上げるため目安としては，田植えが終わって約２ヵ月前・後に行なってください。

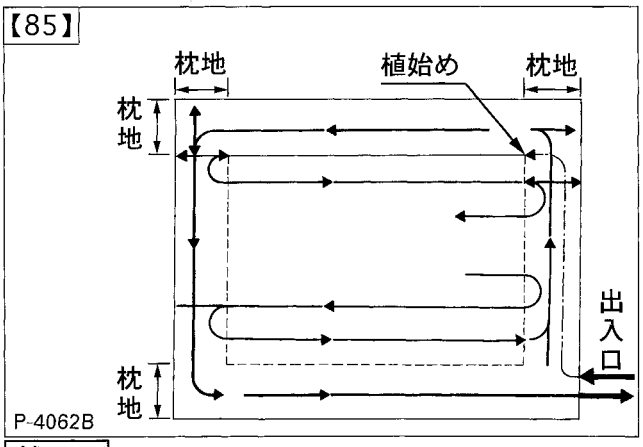
2. 溝切作業と旋回のしかたについて

溝切作業は，田植作業を行なった手順の工程通りに（別冊の取扱説明書の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照）作物を踏まないように行なってください。

◆溝切作業の注意点について

- 溝切り作業は，基本的に田植作業と同じ要領で行ないますが，あぜぎわで旋回するとき，溝切機は上昇させなくても，旋回跡と同じ様に溝切りを行ないます。

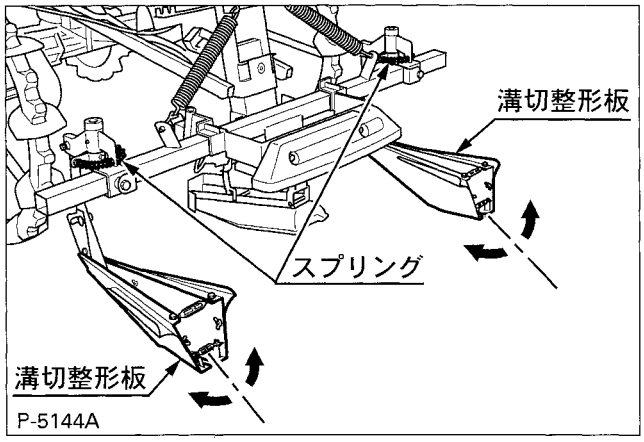




補　足

＊田植機本機編の**“植付けかたと旋回のしかた”**の項参照。

＊あぜぎわなどで旋回を行なうときでも，溝切作業はそのまま行なえます。スプリングにより旋回方向に溝切整地板が動き，その角度に合わせて溝切りを行ないます。



●作業は田植機が通った所と同じところを通って作業するようになります。目印がないため，見にくいですが隣接条の位置をみて旋回してください。

重　要

＊変形田や条合わせを行なった所は作業条数が合わないので，この溝切機では溝切作業を行なわないでください。

■作業に合わせた各部の調節・調整

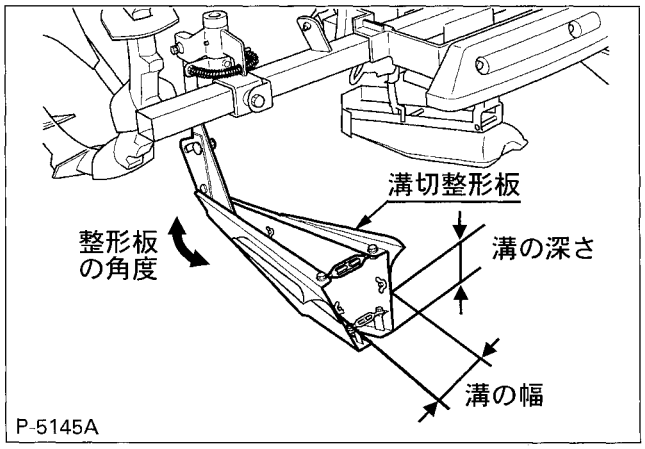
注　意

＊平坦な場所でエンジンを必ず止めて行なってください。

＊溝切整形板は左，右とも同じ深さで同じ幅の溝切りを行なうように調整してください。作業中に，左と右の負荷が異なるとハンドルが右又は，左に取られて思わぬトラブルの原因となります。

溝の深さや幅の調整を行なうとき，溝切整地板や溝切板の各部を動かしますので，溝切整形板を地面から少し浮かせた状態で溝切機下降防止の油圧ロックをしてください。

●調整項目



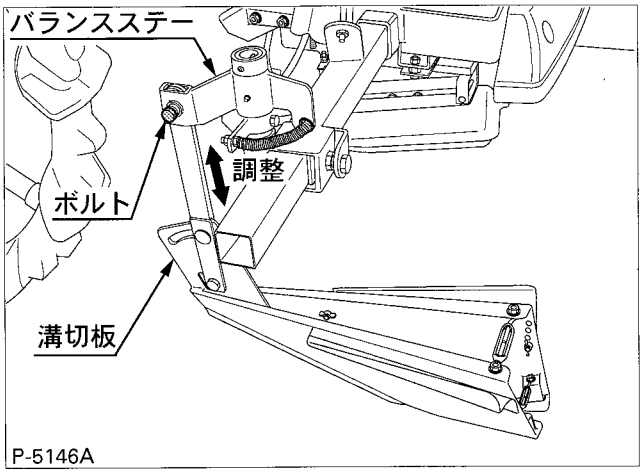
1. 溝切深さの調整

溝切り深さは，左，右の溝切板取付けステーを上・下させて調整を行ないます。

(1)バランスステーと溝切板取付けステーを固定しているボルトをゆるめます。

(2)溝切板取付ステーを上又は，下に動かして調整を行ないます。

(3)ボルトを締付けます。



(4)同じ要領でもう一方の溝切板取付けステーの上下調整を行ないます。

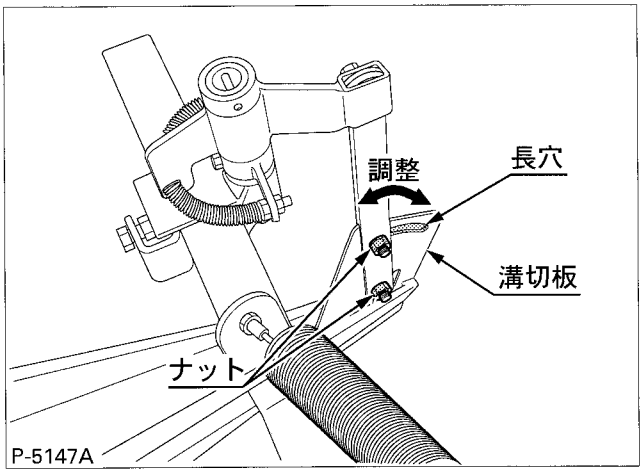
2. 溝切板の角度調整

溝切作業中に機体の前方が浮き気味（負荷が大きい）になるような場合は，整形板の角度調整を行なってください。

(1)溝切板と取付けステーを固定しているナット２個をゆるめます。

(2)溝切板を長穴の前・後方向に調整します。

(3)ナット２個を締付けます。

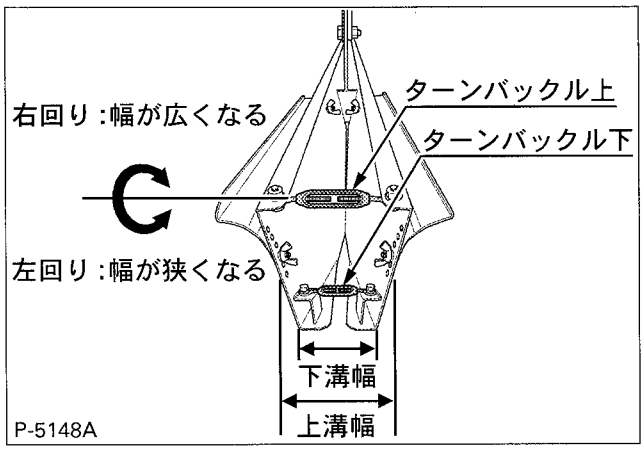


(4)同じ要領でもう一方の溝切板の調整を行ないます。

3. 溝切幅の調整

溝切り幅は，溝切整形板（左，右）の後部にあるターンバックル上，下を回転させて調整を行ないます。調整を行なうときは，ターンバックルの上，下をそれぞれ回転させて行なってください。

溝幅はターンバックルを右に回転させると広くなり左に回転させると狭くなります。



メンテナンス

警　告

＊平坦で安全な場所で，エンジンを必ず止めてから行なってください。
＊取外したカバー類は，必ず取付けてください。

本機側

別冊の本機編を参照してください。

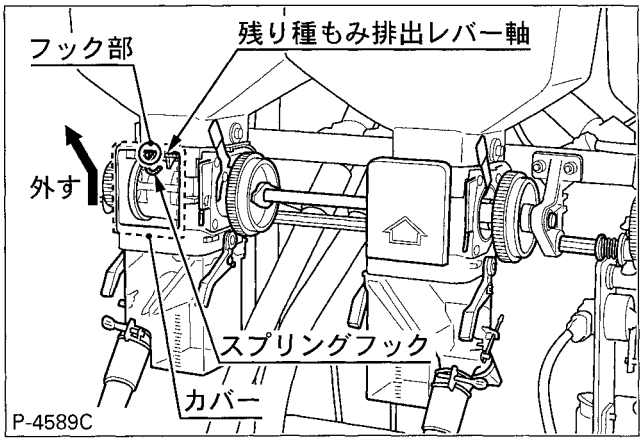
植付部

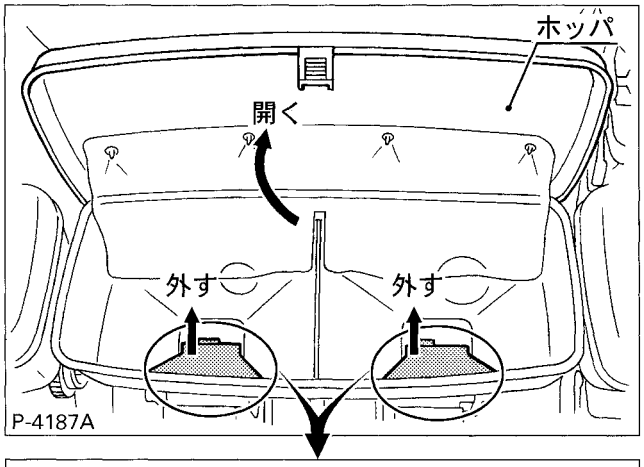
別冊の本機編を参照してください。

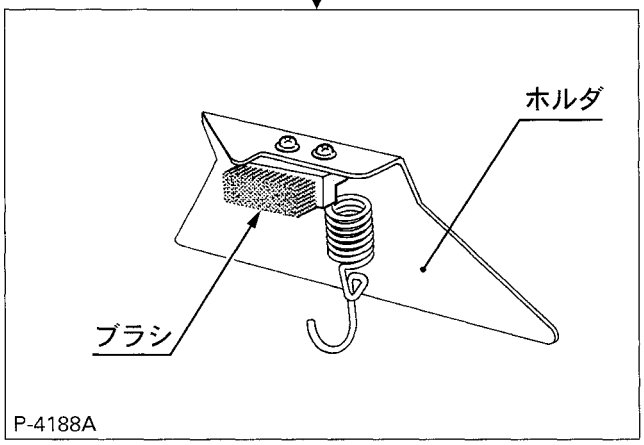
直播機

■ ブラシの点検・交換

❶カバーを上げたあと，手前に引いて外します。
❷スプリングのフックを引き，残り種もみ排出レバーの軸からフックを外します。
❸ホッパのふたを開いてブラシのホルダを取外します。



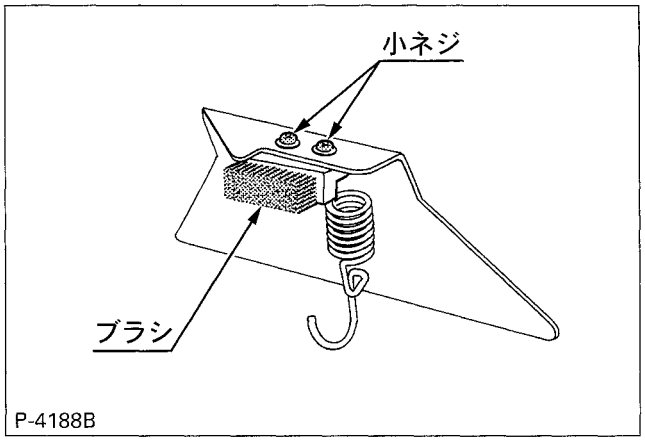




❹ブラシを点検し，変形や破損しているときは交換します。

● 交換

小ネジ２個を取外してブラシを交換してください。



■注油のしかた

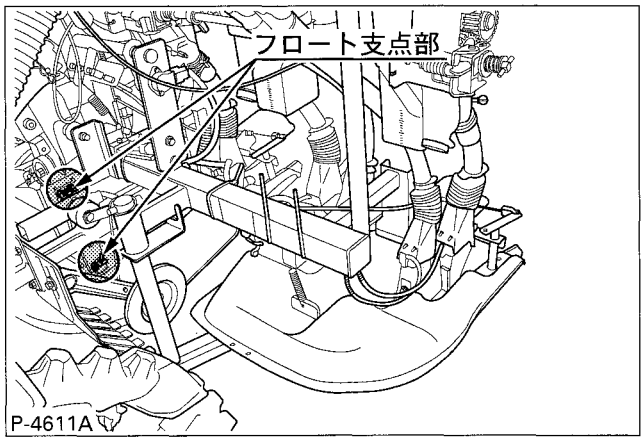
機体各部の掃除が終わったあと又は，直播作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

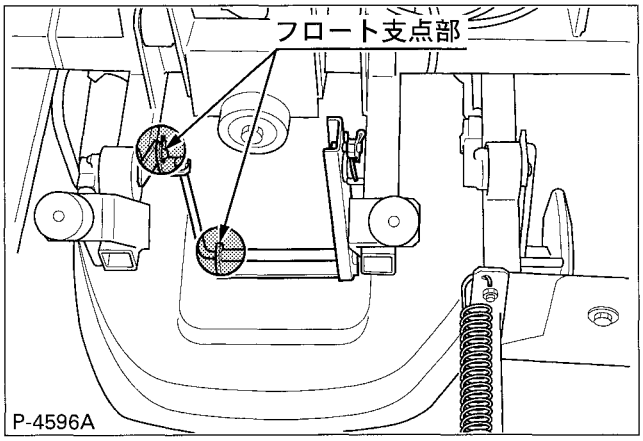
補　足

＊注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

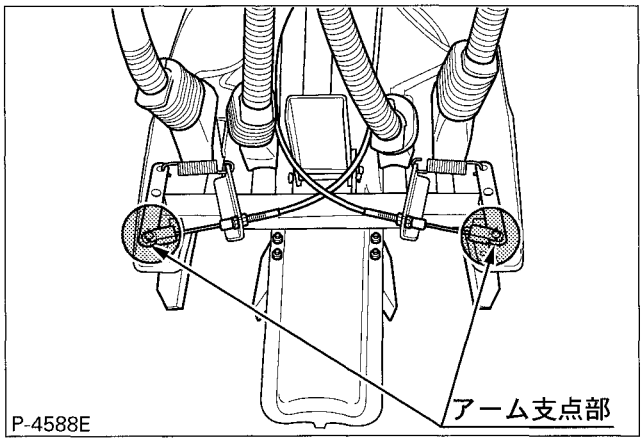
◆注油・グリース塗布

● フロート支点部

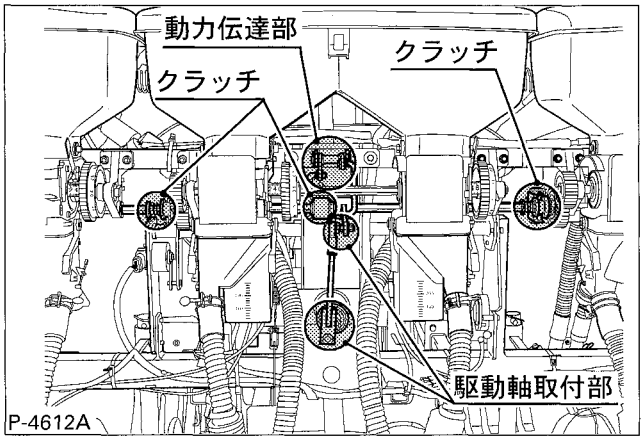




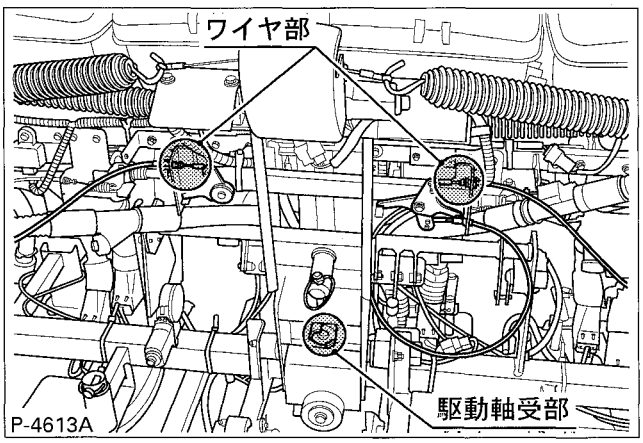
● アーム支点部



● クラッチ部
● 動力伝達部
● 駆動軸取付部



● ワイヤ部
● 駆動軸受部



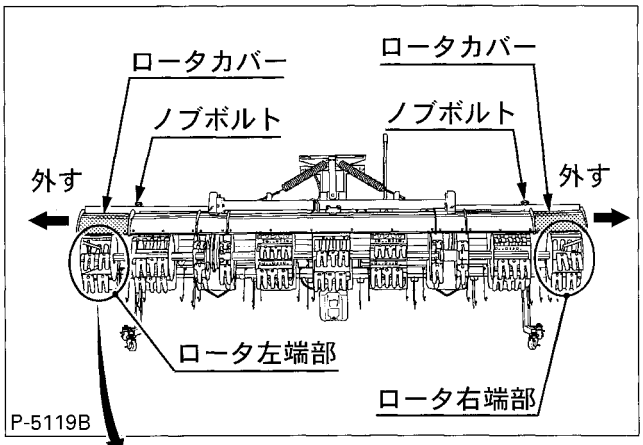
除草機

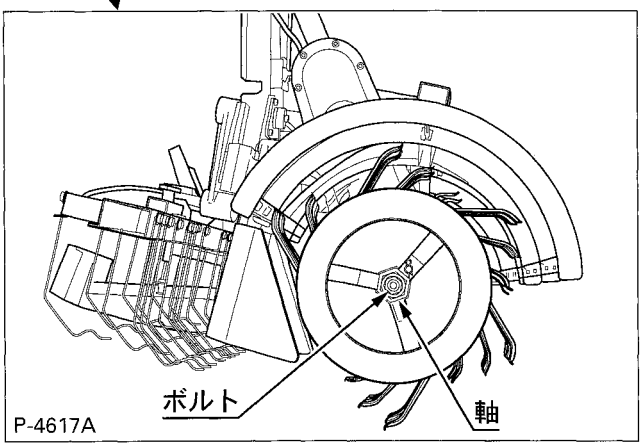
■ 8条除草機（SJ-8K）のロータの脱着

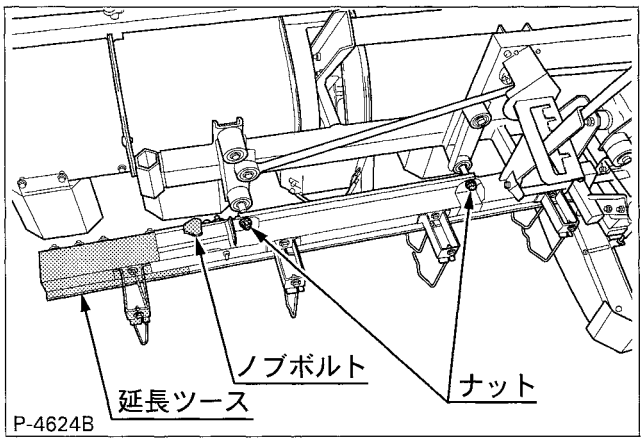
8条の除草機（SJ-8K）をトラックなどで運搬するときなど，左右両端部のロータ延長カバー，ロータ，延長ツースをそれぞれ取外してください。

◆取外しかた

❶除草機を地面から20～30cm程度の高さにセットしたあと，油圧ロックレバーをロック位置にして下降防止をおこないます。
❷エンジンを停止します。
❸左右両端のロータカバーを取付けているノブボルトを取外してロータカバーを取外します。
❹左右両端のロータを取付けているボルトをゆるめて軸からロータを取外します。
❺左右両端の延長ツースを取付けているノブボルトを取外して延長ツースを取外します。







◆取付けかた

取外しかたと逆の手順で左右の取付方向に注意して取付けてください。

■ 安全クラッチの点検

注 意

＊トルク測定は荷重が高いので，安全にじゅうぶん注意して行なってください。

長時間使用して安全クラッチがひんぱんに作動するような場合は，販売店にて安全クラッチの点検を行なってください。

◆作動トルクの測定

❶1500kg·cm程度まで測定できるトルクレンチを準備します。
❷除草機を上昇し，油圧ロックレバーをロック位置にして下降防止を行ないます。
❸エンジンを停止してブレーキを掛けます。
❹ユニバーサルジョイントが回転しないようにロックします。
❺延長ロータを外して，ロータ軸の六角部にトルクレンチをセットして作動トルクを測定します。
設定トルクは1250～1300kg·cmです。トルクが下がっているときは再調整してください。

◆安全クラッチの調整

❶除草機を地面から20～30cm程度の高さにセットしたあと，油圧ロックレバーをロック位置にして下降防止を行ないます。

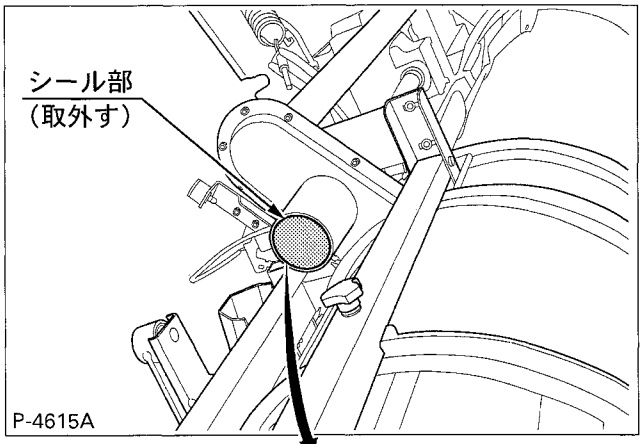
❷エンジンを停止します。

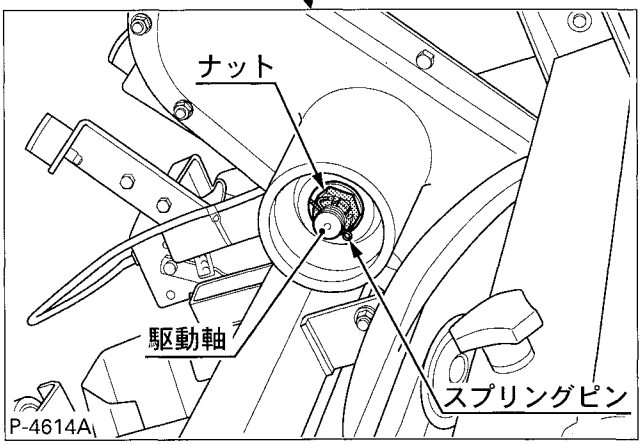
❸駆動軸左端部のシール部を取外したあと，スプリングピンを取外します。

補　足

＊シール部とスプリングピンは，再使用しますので失くさないでください。

❹ナットを１回転程度締込みます。





❺スプリングピンを取付けたあと，シール部をしっかり取付けます。

重　要

＊安全クラッチの調整を行なったあとは必ずトルク測定を行ない，設定トルクになっていることを確認してください。

＊安全クラッチの点検は販売店にて行なってください。不適当な調整を行なうと，機械の破損の原因となります。

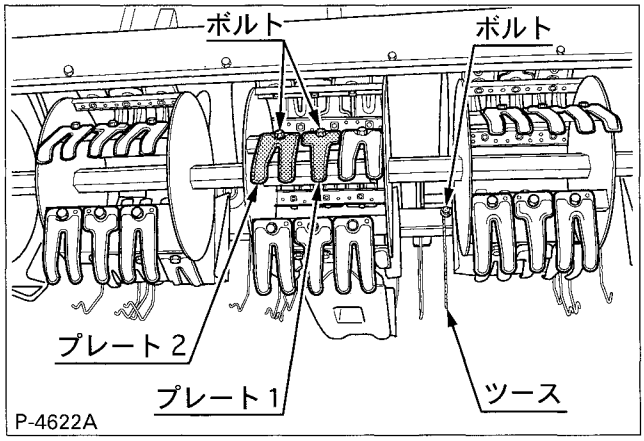
■ツースとプレート１・２の交換

摩耗や変形，破損したときは交換してください。

◆交換のしかた

❶除草機を地面から20～30cm程度の高さにセットしたあと，油圧ロックレバーをロック位置にして下降防止を行ないます。

❷ボルトを取外して新しいツース又は，プレート１・２を交換します。



溝切機

■注油のしかた

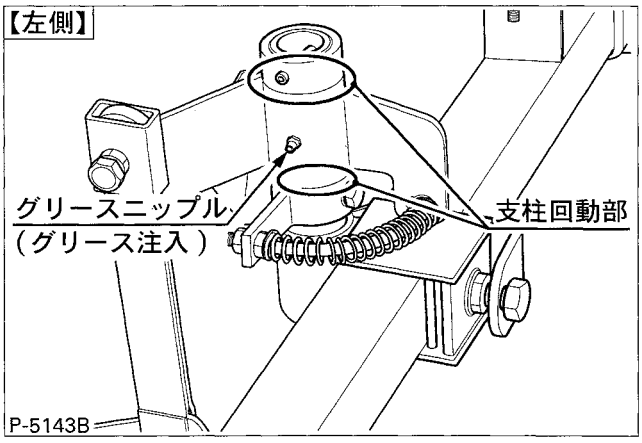
機体各部の掃除が終わったあと又は，溝切作業を始める前には各部の注油やグリースの塗布を行なってください。

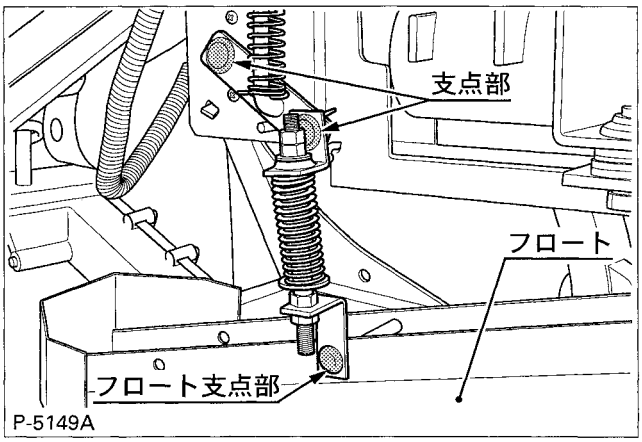
補　足

＊注油やグリース塗布をする前に，水が付着しているときは，ふき取って行なってください。

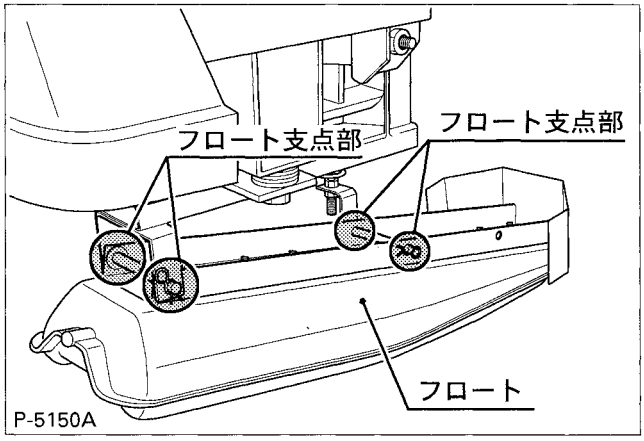
◆注油・グリース注入

● フロート支点部





● 支点回動部（左，右）



作業後の手入れ

警 告

＊作業後の手入れはエンジンを止め，ブレーキをかけ，油圧をロックして行なってください。

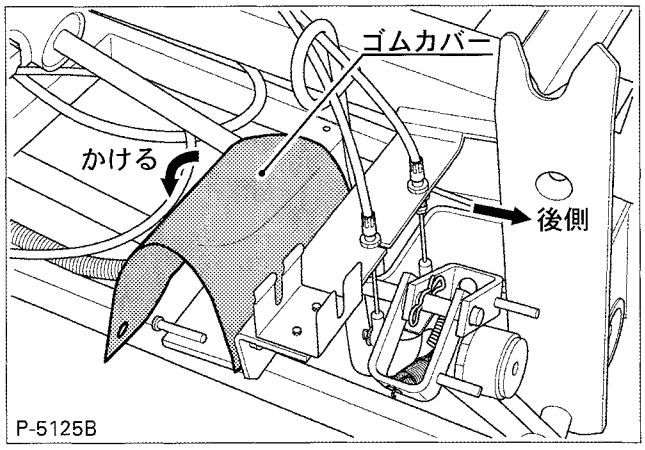
■直播機

◆毎日の作業後

(1)ホッパ内の種もみは毎日完全に排出してください。
(2)種もみ排出後，直播装置を空運転し，ロールの溝などに種もみが残らないようにしてください。
(3)計量ボックスにたまった種もみは，捨ててください。
(4)通路にたまった種もみは，取除いてください。
(5)ブラシにたまった種もみはよく取除いてください。
(6)洗車するときは，ホッパ・ロール・ブラシ・ホースなど種もみの通路には水がかからないように注意してください。

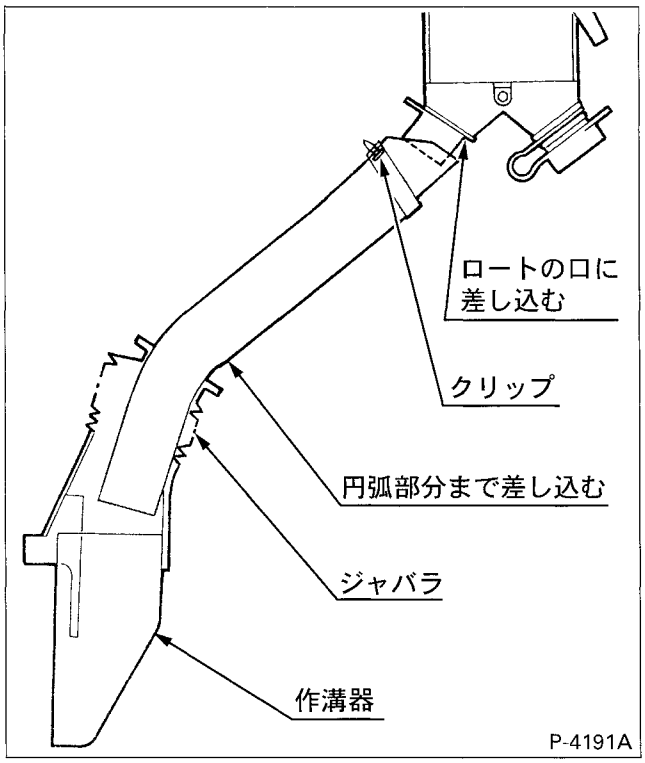
重 要

＊洗車するときは，本機側カプラ部に泥水がかからないようにゴムカバーをかけてください。カプラやレバーに泥が付着すると，脱着ができなくなり，破損の原因となります。



◆長期格納時

(1)天気のよいときに，直播装置を空転しながら，ホッパ・ロール・ブラシ・ロート・ホース・作溝器などを，よく水洗いしてから自然乾燥してください。特にブラシは取外し，毛の間に詰まった種もみやカルパーを取除き，お湯で洗った後よく水分をきり，乾いた布で良く拭き，乾燥させてください。
(2)機体はよく水洗いし，付着している泥や種もみを取除いてください。
(3)塗装のはげた部分は，腐食を防ぐため塗装しておいてください。
(4)ブーツはロートの口に差し込み，後端のはまり込み部を確実にはめ込んでください。



■除草機

◆毎日の作業後

(1)簡単に水洗いをして，ツースやプレートにからみついた藻や草を取除いてください。
(2)摩耗や変形，破損したツースやプレートは交換してください。

◆長期格納時

(1)よく水洗いをして付着しているゴミを取除いてください。
(2)ツースやプレートを点検してください。
(3)フロート支点部などに注油してください。

付　表

主要諸元

名称			田植機本機	植付部	直播部	除草部	溝切部
型式名			SPU65-AK〈F〉	U65-IK〈F〉	DS-6UK〈F〉	SJ-6〈8〉K	SM-2U
駆動方式			4輪駆動	——			
機体寸法	全長(mm)		2460	1710	1190	935	730
	全幅(mm)		2040	2210	1805	2030〈2530〉	1600
	全高(mm)		1640	1350	1250	1350	910
	最低地上高(mm)		430	——			
機体質量(重量)(kg)			420〈465〉	115〈120〉	85〈90〉	125〈145〉	47
エンジン	型式名		GZ410-PA1〈GZ410-PA2〉	——			
	種類		水冷4サイクル2気筒OHCガソリン	——			
	総排気量(L{cc})		0.404{404}	——			
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		7.7{10.5}/3600{最大11.0{15.0}}	——			
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン	——			
	燃料タンク容量(L)		9	——			
	始動方式		セルスタータ式	——			
走行部	かじ取り方式		インテグラルパワーステアリング	——			
	車輪 種類	前輪	ノーパンクタイヤ	——			
		後輪	ゴムラグ車輪	——			
	車輪 外径×幅(mm)	前輪	650×78	——			
	車輪 外径×リム幅(mm)	後輪	900×39	——			
	車輪 輪距(mm)		前輪：1200,後輪：1200	——			
	変速方式		油圧式トランスミッション[HST]	——			
	変速段数(段)		主変速・前進無段・後進無段[副変速：2段]	——			
条数(条)			——	6		6〈8〉	——
条間(cm)			——	30			——
株間(cm)			——	12・14・16・18・21・24(スリップ率10%)	条播	——	
フロート配置			——	3フロート		1フロート	
植付部	植付方式		——	ロータリ式強制植付け	——		
	植付株数(株/3.3m)		——	90・80・70・60・50・45(スリップ率10%)	——		
	植付深さ(cm)		——	2～5.3［5段階］	——		
	1株本数 横送り量(mm/回数)		——	11/26,14/20,18/16［3段］	——		
	調節量 縦かき取り量(mm)		——	8～18	——		
苗の条件	苗の種類		——	マット苗	——		
	葉令(葉)・草丈(cm)		——	2.0～4.5・8～25	——		
直播	播種深さ(cm)		——	——	10±5	——	
	種籾ホッパ容量(L{kg})		——	——	48(42)	——	
	播種量(kg/10a)		——	——	1.4～8.1	——	
	種籾の種類		——	——	カルパーコーティング籾	——	
	コーティング比率		——	——	1：1又は1：2	——	
除草	作用幅(cm)		——	——	——	ロータ：18,ツース：13	——
	作用深さ(cm)		——	——	——	ロータ：4～6,ツース：2～4	——
	田植え後早期除草限界(日)		——	——	——	7～　※1	——
	田植え後晩期除草限界(日)		——	——	——	～40　※1	——
溝切り	溝切条数(条)		——	——	——	——	2
	条間(mm)		——	——	——	——	1200
	溝切深さ(mm)		——	——	——	——	120～150
施肥装置〈F〉	肥料の種類		一般市販の粒状化成肥料の中から適するものを選ぶ	——			
	施肥方式		側条作溝施肥・強制埋設	——			
	施肥位置(cm)		苗の側方：4.5，深さ：5	——			
	肥料ホッパ容量(L{kg})		66{60}	——			
	繰出方式		溝付ロール式	——			
	繰出量調節方式		ロール切替え式+ロール回転数調節式	——			
	繰出量調節範囲(kg/10a)		10～80	——			
	覆土方式		フロートと覆土板	——			
予備苗とう載数(箱)			6	——			
作業速度(m/s)			——	～1.42		～0.6	～0.8
作業能率(計算値)(a/h{分/10a})			——	～53{12～}　※2		～30{20～}	～40{15～}　※2

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

＊〈F〉：施肥機付仕様

※1：日数は目安です。稲の生育状況により異なります。

※2：車輪スリップ率10%

名称			田植機本機	植付部	直播部	除草部
型式名			SPU85-AKT5	U85-IK〈F〉	DS-8UK〈F〉	SJ-8
駆動方式			4輪駆動		—	
機体寸法	全長(mm)		2600	1380	1050	935
	全幅(mm)		2340	2810	2500	2530
	全高(mm)		1970	1450	1210	1350
	最低地上高(mm)		430		—	
機体質量(重量)(kg)			475〈520〉	155〈160〉	110〈120〉	145
エンジン	型式名		GZ460-P〈GZ460-PA〉		—	
	種類		水冷4サイクル2気筒OHCガソリン		—	
	総排気量(L{cc})		0.456{456}		—	
	出力/回転速度(kW{PS}/rpm)		8.5{11.5}/3600[最大12.5{17.0}]		—	
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン		—	
	燃料タンク容量(L)		9		—	
	始動方式		セルスタータ式		—	
走行部	かじ取り方式		インテグラルパワーステアリング		—	
	車輪 種類	前輪	ノーパンクタイヤ		—	
		後輪	ゴムラグ車輪		—	
	車輪 外径×幅(mm)	前輪	650×95		—	
	車輪 外径×リム幅(mm)	後輪	900×50		—	
	輪距(mm)		前輪：1200,後輪：1200		—	
	変速方式		油圧式トランスミッション[HST]		—	
	変速段数(段)		主変速・前進無段・後進無段[副変速：2段]		—	
条数(条)			—	8		
条間(cm)			—	30		
株間(cm)			—	12・14・16・18・21・24(スリップ率10%)	条播	—
フロート配置			—	5フロート	4フロート	1フロート
植付部	植付方式		—	ロータリ式強制植付け	—	
	植付株数(株/3.3m)		—	90・80・70・60・50・45(スリップ率10%)	—	
	植付深さ(cm)		—	2～5.3［5段階］	—	
	1株本数調節量 横送り量(mm/回数)		—	11/26,14/20,18/16［3段］	—	
	1株本数調節量 縦かき取り量(mm)		—	8～18	—	
苗の条件	苗の種類		—	マット苗	—	
	葉令(葉)・草丈(cm)		—	2.0～4.5・8～25	—	
直播	播種深さ(cm)		—		10±5	—
	種籾ホッパ容量(L{kg})		—		64(56)	—
	播種量(kg/10a)		—		1.4～8.4	—
	種籾の種類		—		カルパーコーティング籾	—
	コーティング比率		—		1：1又は1：2	—
除草	作用幅(cm)		—			ロータ：18,ツース：13
	作用深さ(cm)		—			ロータ：4～6,ツース：2～4
	田植え後早期除草限界(日)		—			7～ ※1
	田植え後晩期除草限界(日)		—			～40 ※1
溝切り	溝切条数(条)		—			
	条間(mm)		—			
	溝切深さ(mm)		—			
施肥装置〈F〉	肥料の種類		一般市販の粒状化成肥料の中から適すものを選ぶ		—	
	施肥方式		側条作溝施肥・強制埋設		—	
	施肥位置(cm)		苗の側方：4.5，深さ：5		—	
	肥料ホッパ容量(L{kg})		88{80}		—	
	繰出方式		溝付ロール式		—	
	繰出量調節方式		ロール切替え式+ロール回転数調節式		—	
	繰出量調節範囲(kg/10a)		10～80		—	
	覆土方式		フロートと覆土板		—	
予備苗とう載数(箱)			6		—	
作業速度(m/s)			—	～1.42		～0.6
作業能率(計算値)(a/h{分/10a})			—	～66{9～}		～30{20～} ※2

＊この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。　＊〈F〉：施肥機付仕様

※1：日数は目安です。稲の生育状況により異なります。　※2：車輪スリップ率10%

付属部品

次の部品が付属していますのでお調べください。
- 取扱説明書　1
- 掃除用ブラシ【直播機】　1

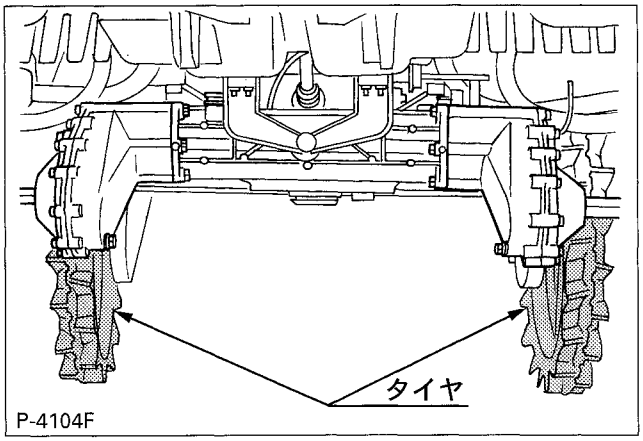
オプション（別売品）（純正部品を使いましょう）

■ 除草用車輪

◆タイヤ【除草機】

除草作業時に使用する専用車輪です。

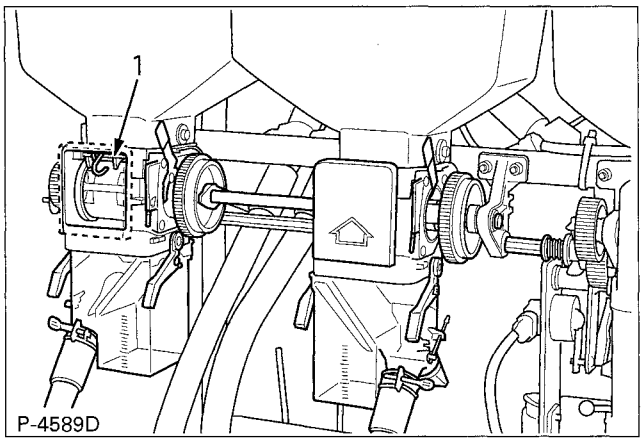
品　名	品　番
除草管理車輪	4J702-9011-0



消耗部品（純正部品を使いましょう）

■ 直播機

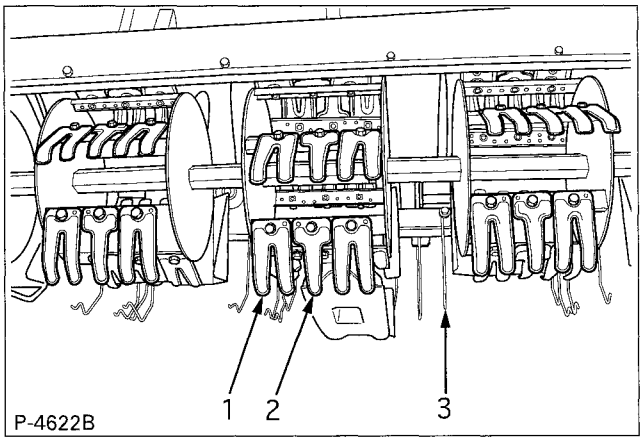
◆ブラシ



図番	品　名	品　番
1	ブラシ	4K401-8873-0

■ 除草機

◆プレート1
◆プレート2
◆ツース



図番	品　名	品　番
1	プレート（1）	4J702-9361-0
2	プレート（2）	4J702-9363-0
3	ツース	4J702-9551-0

修理・取扱い・手入れなどでご不明の点は まず，購入先へ ご相談ください

おぼえのため，記入されると便利です

購入先名	担当	電話（　　）　　ー

ご購入日	型式名	区分

車台番号（製造番号）	エンジン型式	エンジン番号

万一ご購入先でご不明の点がございましたら，下記にお問合わせください。

株式会社クボタ

機械札幌事務所：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
機械東日本事務所：電(048)862-1121	〒338-0832	さいたま市西堀５丁目２番36号
機械西日本事務所：電(072)241-8506	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
機械福岡事務所：電(092)606-3161	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

クボタ機械サービス株式会社

本社営業技術部：電(072)241-8092	〒590-0823	堺市石津北町64番地
北海道営業技術推進部：電(011)662-2121	〒063-0061	札幌市西区西町北16丁目１番１号
秋田営業技術推進部：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
仙台営業技術推進部：電(022)384-5162	〒981-1221	名取市田高字原182番地の１
東京営業技術推進部：電(048)862-1588	〒338-0832	さいたま市西堀５丁目２番36号
新潟営業技術推進部：電(025)285-1263	〒950-0992	新潟市上所上１丁目14番15号
金沢営業技術推進部：電(076)275-1121	〒924-0038	松任市下柏野町956-１
名古屋営業技術推進部：電(0586)24-5111	〒491-0031	一宮市観音町１番地の１
大阪営業技術推進部：電(072)241-8551	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
米子営業技術推進部：電(0859)33-5011	〒683-0804	米子市米原７丁目１番１号
岡山営業技術推進部：電(086)279-4511	〒703-8216	岡山市宍甘275番地
高松営業技術推進部：電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３
福岡営業技術推進部：電(092)606-3725	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号
熊本営業技術推進部：電(096)357-6181	〒861-4147	熊本県下益城郡富合町大字廻江846-１

株式会社クボタアグリ東日本

東北系統推進部：電(018)845-1601	〒011-0901	秋田市寺内字大小路207-54
関東・甲信越系統推進部：電(048)862-1124	〒338-0832	さいたま市西堀５丁目２番36号

株式会社クボタアグリ西日本

中部・近畿系統推進部：電(072)241-8550	〒590-0806	堺市緑ヶ丘北町１丁１番36号
中四国系統推進部：電(087)874-5091	〒769-0102	香川県綾歌郡国分寺町国分字向647-３

株式会社クボタアグリ九州

九州系統事業推進部：電(092)606-3166	〒811-0213	福岡市東区和白丘１丁目７番３号

Kubota

安全宣言

安全はクボタの願い

このマークは「お客様」「ディーラ」「クボタ」の三者が
一体となって安全宣言を行うための統一マークです。

株式会社クボタ

〒556-8601
大阪市浪速区敷津東1丁目2番47号
TEL.06-6648-2111
FAX.06-6648-3862

品番　PL650-9751-2